

高崎市文化財調査報告書第279集

高崎城遺跡18

—前橋地方検察庁高崎法務総合庁舎建替に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書—

2011

高崎市教育委員会

高崎城遺跡18

—前橋地方検察庁高崎法務総合庁舎建替に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書—

2011

高崎市教育委員会



A区全景（東から）



A区全景（上が南）

巻頭写真2



B区全景（東から）



B区全景（上が北）



C区全景（上が東）



D・E・F区全景（上が南）



50号土坑石組検出状況（南西から）（C区）



A区出土一分金（表・裏）（約3倍）

序

高崎市は平成18年に倉渕村・箕郷町・群馬町・榛名町と、平成21年には吉井町と合併しました。その結果、現在群馬県内では最も多い人口37万5千人を擁する都市となり、平成23年4月には中核市に移行します。

この高崎市のルーツをたどると、慶長3年（1598）に井伊直政が箕輪城から高崎城に城を移し、城下町を整備したことに始まります。

その後歴代城主がさらに城と城下町を整備を進め、現在の高崎市の発展へとつながっていきます。高崎城に関しては、県指定重要文化財の桜井一雄家文書や高崎城乾櫓に代表される文献史料や建築資料が豊富にあります。また、19次にわたる発掘調査が行われ、考古学的知見が得られていますが、今回の発掘調査によって出土した一分金や、検出された古代の石槨墓などの成果は高崎城、及びその前史を考えるための貴重な成果になりました。

本書はこうした成果をまとめた報告書ですが、この報告書が学術的に活用されるとともに教育資料として活用され、郷土の歴史・文化を再認識する一助になることを祈念しております。

最後になりましたが、本書の刊行にあたりご指導・ご協力をいただきました関係諸機関、発掘調査や整理作業に携われた方々に厚く感謝申し上げます。序といたします。

平成23年3月

高崎市教育委員会
教育長 中島 雅利

例 言

- 1、本書は前橋地方検察庁高崎法務総合庁舎の建替に伴って事前調査された高崎城遺跡第18次調査の発掘調査報告書である。
- 2、本遺跡は高崎市高松町26-5に位置する。
- 3、発掘調査及び整理は高崎市教育委員会が行った。
- 4、本遺跡の発掘調査は平成20年8月から平成22年3月まで行ない、整理作業は平成21年度から発掘調査と平行して行い平成23年3月まで行なった。
- 5、調査組織は以下のとおりである。
平成20年度：(事務局) 田口一郎 佐藤健一 須田奈保子(調査担当) 秋本太郎 大野義人
平成21年度：(事務局) 田口一郎 須田奈保子 山田いづみ(調査担当) 秋本太郎
平成22年度：(事務局) 田口一郎 須田奈保子 山田いづみ(整理担当) 秋本太郎
- 6、発掘調査は秋本太郎がA・B・D・E・F区を担当し、C区を大野義人が担当した。
- 7、本書の編集は秋本が主に担当したが、50号土坑(C区)については大野が担当した。付編分については滝沢 匡が担当した。
- 8、執筆は第3章の「50号土坑」についてを大野義人が行い、付編を滝沢が、それ以外を秋本が行なった。
- 9、整理作業は秋本の指示の元、見野恵美子、塚本福代、山口見美、吉田三枝子が行なった。また、50号土坑(C区)出土の白玉の分類作業は手島美実子が行なった。
- 10、遺構の写真撮影は各担当が行なった。
- 11、航空写真撮影は(株)シン技術コンサルに委託した。
- 12、基準点測量は(株)測研に委託した。
- 13、遺構の平面測量は、A区とC区については(株)シン技術コンサルに委託し、B・D・E・F区は担当職員が中心になって行なった。
- 14、出土遺物の写真撮影は、(株)測研、(有)前橋文化財研究所、(有)毛野考古学研究所に委託し、また、秋本が行なった。
- 15、遺構図のデジタルトレース・編集は直営で行なった。
- 16、第1～6・8図のトレース編集は(株)測研に委託した。
- 17、遺物の実測は直営で行ないトレースは、一部のデジタルトレースを(株)測研、(有)前橋文化財研究所が行ない、その他のデジタルトレース、及びアナログトレースは直営で行なった。
- 18、平成22年8月30・31日に滝沢が担当して行なった高崎市高松町36-1地点の小調査は、本報告書の調査地点に極めて近く、関わりが深いため付編としてその結果を掲載した。
- 19、出土遺物に関して、中世貿易陶磁器に関しては小野正敏氏、近世陶磁器に関しては堀内秀樹氏・成瀬晃司氏にご教示いただいた。
- 20、出土した遺物及び各種原図は高崎市教育委員会が保管している。
- 21、発掘調査、及び本書作成にあたり、下記の方々にご指導ご協力をいただいた。記して感謝する次第である(敬称略)
小野正敏(大学共同利用機関法人人間文化研究機構)、飯森康広・石守 晃・大西雅広・黒澤照弘(群馬県埋蔵文化財調査事業団)、早田 勉((株)火山灰考古学研究所)、中村 茂、堀内秀樹・成瀬晃司(東京大学埋蔵文化財調査室)

凡 例

- 1、遺構番号は、原則として発掘調査時に付したものを使用したが、調査時はSK（土坑）、SE（井戸）、SD（溝）、SX（性格不明遺構）とした略号を用い、出土遺物の注記においても略号を使用している。
- 2、遺構挿図中に使用した方位記号は座標北を示し、座標は世界測地系を用いている。
- 3、遺構図の縮尺は原則として全体図を1/200、平面図を1/80、断面図を1/60とした。ただし、一部の遺構では適宜縮尺を変えているが各々にスケールを付した。
- 4、本報告書に用いたテフラ略称は以下のとおりである。
 - ・AsA—浅間山A軽石（天明3年（1783））
 - ・AsB—浅間山B軽石（天仁元年（1108））
- 5、遺物の縮尺は原則、土器・陶磁器1/3、内耳土器・火鉢・在地産播鉢・在地産鉢・瓦1/4、石臼・茶臼・石塔1/6とし、各々にスケールを付した。
- 6、遺物図の断面は、古代以前に関しては須恵器＝黒塗り、灰釉陶器＝網掛け、土師器＝無色とした。すすに関してはグレーで表現している。
- 7、遺物図中の1点破線は軸の範囲を示す。中近世・近代の陶磁器については1点破線を補足するため、遺物図断面に軸際部分を表す三角マークを付した。
- 8、遺物観察表の量量中にある（ ）は推定値を表す。
- 9、遺物集計表の数値は接合後破片数を示す。
- 10、遺物集計表は紙数の関係で、各調査区の表土出土、かく乱内出土、グリット取り上げなどの遺構外から出土した遺物の数量については「A区一括」など各調査区一括でまとめた。
- 11、分類・型式名、及び年代観に関して、中世貿易陶磁器は小野編年（小野1982）を元にした原氏の分類（原1999）、中世在地土器に関しては秋本編年（秋本2005・2008）、中世の瀬戸美濃に関しては藤澤編年（藤澤2002・2008）、近世土器・陶磁器は東大分類（東京大学埋蔵文化財調査室1999）を用いた。

秋本太郎2005「上野と周辺地域との関係－在地土器の分布論から探る－」『海なき国々のモノとヒトの動き－16～17世紀における内陸部の流通－』第1回内陸遺跡研究会シンポジウム資料集 内陸遺跡研究会

秋本太郎2008「戦国期の北関東のかかわり－戦国大名支配との関連－」『中世東国の世界3 戦国大名北条氏』高志書院

小野正敏1982「15、16世紀の集付跡、墓の分類とその年代」『貿易陶磁研究』No. 2 日本貿易陶磁研究会

東京大学埋蔵文化財調査室1999「東京大学構内遺跡出土陶磁器・土器の分類（1）」『東京大学構内遺跡調査研究年報2』別冊

原 廣志1999「－横地氏関連遺跡群と周辺遺跡の特徴について－」『横地城跡 総合調査報告書』静岡県沼川町教育委員会

藤澤良祐2002「瀬戸・美濃大窯編年の再検討」『研究紀要』第10輯（財）瀬戸市埋蔵文化財センター

藤澤良祐2008「中世瀬戸産の研究」高志書院

目 次

序

例言

凡例

目次

挿図目次

表目次

写真目次

第1章 調査の方法と経緯

第1節 調査に至る経緯…………… 1

第2節 調査の方法…………… 1

第3節 調査の経過…………… 2

第2章 遺跡の立地と環境

第1節 遺跡の位置と地形…………… 3

第2節 周辺の遺跡と歴史的環境…………… 3

第3節 調査地付近の歴史…………… 4

第3章 検出された遺構

第1節 遺跡の概要…………… 7

第2節 近代…………… 8

第3節 近世以前…………… 10

第4章 調査のまとめと課題

第1節 古墳時代～古代…………… 19

第2節 中世…………… 19

第3節 近世…………… 19

第4節 近代…………… 20

参考文献…………… 21

付録 高崎城三の丸地区小調査について…………… 132

写真図版

発掘調査報告書抄録

奥付

挿目目次

第1図	高崎城道路周辺の発掘調査位置図	22	第28図	近世以前遺構実測図14 (D区平面図)	51
第2図	高崎城道路周辺の遺構分布図 (弥生時代)	23	第29図	遺物実測図1 (1号建物跡、1号集水橋、6号集水橋、4、5、10号溝)	52
第3図	高崎城道路周辺の遺構分布図 (古墳時代)	24	第30図	遺物実測図2 (3号集水橋、4号集水橋、65号土坑、11号井戸、22号溝、1、4、15、22号土坑)	53
第4図	高崎城道路周辺の遺構分布図 (奈良・平安時代)	25	第31図	遺物実測図3 (30、33、34、42号土坑①)	54
第5図	高崎城道路周辺の遺構分布図 (中世)	26	第32図	遺物実測図4 (42号土坑②、51、52、54、55、58、69号土坑)	55
第6図	高崎城道路周辺の遺構分布図 (近世)	27	第33図	遺物実測図5 (70号土坑①)	56
第7図	高崎城道路18次調査地点と高崎城跡範囲	28	第34図	遺物実測図6 (70号土坑②、72、76、80、85号土坑)	57
第8図	高崎城道路周辺の遺構分布図 (近代)	29	第35図	遺物実測図7 (86号土坑①)	58
第9図	調査全体図、調査区前面、基本順序模式図	30	第36図	遺物実測図8 (86号土坑②)	59
第10図	調査全体図、調査区前面、基本順序模式図	31	第37図	遺物実測図9 (86号土坑③、90、92、96、27、40号土坑)	60
第11図	近代遺構実測図1 (1号溝、1号建物跡、2～5号溝、1号集水橋)	32	第38図	遺物実測図10 (66、71、28、48号土坑)	61
第12図	近代遺構実測図2 (全体図)	33・34	第39図	遺物実測図11 (50号土坑①)	62
第13図	近代遺構実測図3 (1号建物跡、2～4号集水橋、36号溝、10号集水橋、10・33号溝・9号集水橋)	35	第40図	遺物実測図12 (50号土坑②、79、96、49、97号土坑)	63
第14図	近代遺構実測図4 (26～31号溝、7・8号集水橋、77号土坑、19・20・22号溝、6号集水橋、24号溝)	36	第41図	遺物実測図13 (1号性格不明遺構①)	64
第15図	近世以前遺構実測図1 (全体図)	37・38	第42図	遺物実測図14 (1号性格不明遺構②、2号性格不明遺構③)	65
第16図	近世以前遺構実測図2 (A区平面図①)	39	第43図	遺物実測図15 (2号性格不明遺構②)	66
第17図	近世以前遺構実測図3 (P99～101、P103～105、3号土坑、2号井戸、3号井戸、27・28号土坑・9号溝)	40	第44図	遺物実測図16 (3号性格不明遺構、1号性格不明遺構(C区)、5号井戸①)	67
第18図	近世以前遺構実測図4 (B区平面図①)	41	第45図	遺物実測図17 (5号井戸②)	68
第19図	近世以前遺構実測図5 (B区平面②、C区平面図①)	42	第46図	遺物実測図18 (5号井戸③、8号井戸①)	69
第20図	近世以前遺構実測図6 (33・34号土坑、29・35号土坑、P198、32号土坑・12号溝、42・43号土坑、40号土坑・6号井戸、44号土坑・12号溝、3号性格不明遺構、52号土坑、50号土坑)	43	第47図	遺物実測図19 (8号井戸②)	70
第21図	近世以前遺構実測図7 (C区平面図②、E区平面図①)	44	第48図	遺物実測図20 (8号井戸③、10号井戸)	71
第22図	近世以前遺構実測図8 (E区平面図②)	45	第49図	遺物実測図21 (2、3、14、6号井戸)	72
第23図	近世以前遺構実測図9 (15・16号溝、13・14号井戸、91号土坑・35号溝、85号土坑、88号土坑、86号土坑、32号溝)	46	第50図	遺物実測図22 (P70、223、231、316、106、286・304、322・323・324、388、472、474、479～481、498、511、522、531)	73
第24図	近世以前遺構実測図10 (E区平面図③)	47	第51図	遺物実測図23 (P561、563、584、585、604、611、16号溝、32号溝)	74
第25図	近世以前遺構実測図11 (81号土坑、80号土坑、79号土坑、78号土坑、82・83号土坑、76号土坑、69～71号土坑、68号土坑・P549～P551、P555・P572・P569・P567・P563・P549、P562・P568、P560・P569、P557～569、P553～P556)	48	第52図	遺物実測図24 (38、9、12、15、18号溝)	75
第26図	近世以前遺構実測図12 (E区平面図④)	49	第53図	遺物実測図25 (A区Ⅲ層一括①)	76
第27図	近世以前遺構実測図13 (F区平面図、P619～622、97号土坑)	50	第54図	遺物実測図26 (A区Ⅲ層一括②)	77
			第55図	遺物実測図27 (A区Ⅲ層一括③)	78
			第56図	遺物実測図28 (A区Ⅲ層一括④、A区Ⅱ層一括、A区Ⅰ層一括)	79
			第57図	遺物実測図29 (B区Ⅲ層一括、B区Ⅱ層一括)	80
			第58図	遺物実測図30 (B区Ⅰ層一括、C区Ⅲ層一括①)	81
			第59図	遺物実測図31 (C区Ⅲ層一括②)	82
			第60図	遺物実測図32 (C区Ⅲ層一括③)	83

第61回 遺物実測図33 (C区Ⅲ層一括①).....	84
第62回 遺物実測図34 (C区Ⅲ層一括①).....	85
第63回 遺物実測図35 (C区Ⅲ層一括①、C区表土一括).....	86
第64回 遺物実測図36 (C区かく乱一括、D区表土一括、D区かく乱一括、E区Ⅲ層一括、E区表土一括).....	87
第65回 遺物実測図37 (E区かく乱一括).....	88
第66回 遺物実測図38 (D区かく乱一括、道跡一括).....	89
第67回 三の丸地区小調査調査場所位置図.....	132
第68回 三の丸地区小調査調査区平面図および断面図.....	133
第69回 三の丸地区小調査出土遺物.....	134

表目次

第1表 高崎城歴代城主変遷表.....	4
第2表 高崎城遺跡調査一覧表.....	6
第3表 高崎城城下町及び遺構調査一覧.....	6
第4表 調査地周辺の高崎城絵図の変遷.....	6
第5表 高崎城遺跡18次調査各遺構土器・陶器群組成表.....	21
第6表 出土遺物調査表.....	90
第7表 出土遺物集計表.....	108
第8表 三の丸地区小調査遺物観察表.....	134

写真目次

PL 1 1号建物跡	PL21 86号土坑②、90、92、96、27、40、66号土坑出土遺物
PL 2 1号建物跡、3～15号東	PL22 71、28、48、50号出土遺物
PL 3 1、24、39号溝	PL23 79、95、49、97号土坑、1号性格不明遺構出土遺物
PL 4 39、4・5、36、31・30号溝、10、7、8号集水溝	PL24 2号性格不明遺構出土遺物
PL 5 19・20、2、3、8、10号溝、6、4号集水溝	PL25 3号性格不明遺構、1号性格不明遺構 (C区)、5号井戸出土遺物
PL 6 2～4、9号集水溝、20・22号溝	PL26 8、10号井戸出土遺物
PL 7 1、3、15、33・34、42、52号土坑	PL27 2、3、14、6号井戸、P70、P106、P223、P231、P316、P286・304、P322・323・324、P388、P472、P474、P479～481、P498・P511、P522、P531出土遺物
PL 8 54、58、70、72・73号土坑	PL28 P561、P563、P584、P585、P604、P611、16、32、38、9、12、15、18号溝、A区Ⅲ層一括①出土遺物
PL 9 76、85、86号土坑	PL29 A区Ⅲ層一括②出土遺物
PL10 27、40、66、71号土坑、11号井戸	PL30 A区Ⅲ層一括③、A区表土一括、A区かく乱一括出土遺物
PL11 50号土坑	PL31 B区Ⅲ層一括、B区表土一括、B区かく乱一括、C区Ⅲ層一括①出土遺物
PL12 79、95号土坑、1号性格不明遺構、5、8号井戸	PL32 C区Ⅲ層一括②出土遺物
PL13 10、2、3号井戸	PL33 C区Ⅲ層一括③出土遺物
PL14 13・14、6号井戸、P611、619	PL34 C区表土一括、C区かく乱一括、D区表土一括、D区かく乱一括、E区Ⅲ層一括、E区表土一括、E区かく乱一括、F区かく乱一括、道跡一括出土遺物
PL15 P620、621、622、2号建物跡、15・16、32号溝	
PL16 9号溝、25、27号土坑、10・12、18号溝、作業風景	
PL17 1号建物跡、4・5号溝、1・6号集水溝、10号溝、3・4号集水溝、22号溝、65号土坑、11号井戸、1、3、4、15号土坑出土遺物	
PL18 22、30、33、34、42、51、52号土坑出土遺物	
PL19 54、55、58、69、70号土坑出土遺物	
PL20 72、76、80、85、86号土坑①出土遺物	

第1章 調査の方法と経緯

第1節 調査に至る経緯

前橋地方検察庁高崎法務総合庁舎は平成18年で築39年を迎え老朽化が目立っていた。そのため、前橋地方検察庁では新庁舎建設（建替）工事を計画し、平成18年12月に高崎市教育委員会文化財保護課に建設予定地の埋蔵文化財の状況について照会を行った。文化財保護課では、予定地が近世高崎城内であると共に、周辺の調査において中世の和田城や弥生時代から平安時代の集落跡が複合する周知の埋蔵文化財包蔵地であるため、工事と埋蔵文化財保護との調整が必要な旨を回答した。その後の協議により文化財保護法上の手続きなどの調整を図り平成19年3月に試掘調査を実施し、その結果により保存協議を行うことが合意された。

平成19年1月22日付けで前橋地方検察庁より試掘調査申込書が提出されたのを受けて、高崎市教育委員会は同年3月6日に予定地の試掘調査を実施し、近世高崎城の井戸跡などを確認した。

試掘結果を受けて、埋蔵文化財保護について前橋地方検察庁と協議を行ない、既存建物敷地外に新たに建築する計画の変更は不可能ということなので、文化財保護法第94条第1項の規定による届出に対する回答で、記録保存の発掘調査が必要であると指示を出した。その調査箇所は、既存建物部分は建築工事の際に遺跡が破壊されていることが明らかなため、既存建物外で遺跡が残存しており、今回の計画で新たに遺跡の掘削が行なわれる部分が対象である。

既存建物は平成21年度に解体が行なわれる予定になっており、新庁舎の建設は平成22年度からの予定になっていた。既存建物は解体前まで使用されている関係上、調査は平成20年度と21年度の2か年、整理期間は平成22年度の1か年の計3年計画とし、平成20年度は8月から3月まで調査を実施し、平成21年度は4月から前年度の出土遺物の整理作業を行い、11月から3月まで発掘調査を実施、平成22年度は4月から3月まで整理作業を実施した。

第2節 調査の方法

調査は建設・解体工事、及び土置き場との兼ね合いなどから一度に全ての場所は調査できないため、調査対象箇所を6区に分けて調査を実施した。既存庁舎北西側をA区、北東側をB区、東側をC区とした。D区は既存宿舎2棟の間で遺跡が残り、今回の建設工事で遺跡に影響が及ぶ敷地南の場所である。既存庁舎南側はE区とし、既存庁舎の中庭部分はF区とした。これら6区のうち、A～C区を平成20年度に調査し、D～F区は平成21年度前半の解体工事終了後に調査を行うこととした。

平成20年度は既存庁舎が使用されている状況で発掘調査となったため、庁舎につながる電気・ガス・水道管・下水管・排水溝などの諸施設については残しながらの調査となり、これらの施設部分は調査を行っていない。

平成21年度は解体工事終了後の調査になり、D～F区の調査を実施した。

表土掘削には主に重機を使用し遺構確認面までの掘削を行なった。表土掘削後は人力により、遺構確認を行い、切り合い関係を明らかにした上で、新しい遺構から掘削を行なっている。こうした過程で、遺物の出土状況や遺構の埋没状況、完掘状況等の記録類を段階的に作成した。遺構測量にあたっては、遺跡全体図、平面図、断面図、出土遺物平面図などを作成し記録化した。この遺構測量に関しては、調査・整理作業の効率化のために一部で委託している。写真記録は35mmのモノクロとリバーサルフィルムを原則使用し、調査担当者、及び航空写真委託にて撮影した。調査終了後は近現代に使用された歩兵15連隊の兵舎のコンクリート基礎などの撤去を行った後に、調査で排出した排土を用いて埋め戻しを行なった。

なお、平成21年度から発掘調査と平行して、出土遺物の洗浄、注記、接合作業等の整理作業を順次実施した。遺構・遺物実測図は原則デジタルトレースし編集作業を行なった。また、これら作業の一部は委託した。遺物写真についてはデジタルカメラによる撮影、及び編集を行ない、その大部分は委託した。

第3節 調査の経過

調査日誌抄

平成19年3月6日	試掘調査実施。
平成20年8月5日	A区、重機によるアスファルト、碎石剥ぎ。
平成20年8月7日	A区、重機による表土掘削終了。
平成20年8月8日	A区、遺構確認開始。
平成20年8月21日	A区、歩兵15連隊関連の遺構から順次掘削を開始する。
平成20年10月3日	A区、一分金出土。
平成20年10月21日	A区、柱穴以外の遺構の調査が終了し柱穴の調査開始。
平成20年10月30日	A区、空撮、及び写真測量。
平成20年11月1日	A区、地質について早田 勉氏より指導を受ける。
平成20年11月5日	A区、歩兵15連隊第3兵舎の建物基礎を重機により撤去。
平成20年11月6日	A区、埋め戻し開始。
平成20年11月10日	A区、埋め戻し終了後、B区の表土掘削を開始。
平成20年11月12日	B区、表土掘削終了し、遺構確認後攪乱の除去を開始。
平成20年11月25日	B区、近現代の調査がおおむね終了し、近世以前の遺構の掘削を開始。
平成20年12月24日	B区、遺構平面図の測量、及び柱穴の調査を調査区西側より開始。
平成21年1月7日	B区、空撮。引き続き遺構平面図の測量。
平成21年1月22日	B区、井戸の深掘、及び歩兵15連隊第3兵舎の建物基礎の撤去、調査区埋め戻し。
平成21年1月27日	B区、埋め戻し終了後、C区表土掘削開始。
平成21年2月3日	C区、遺構確認後、攪乱除去開始。
平成21年2月12日	C区、遺構掘削開始。
平成21年2月16日	C区、壁際に石が組まれた50号土坑検出。
平成21年3月5日	C区、遺構の掘削がおおむね終了。精査を開始する。
平成21年3月12日	C区、空撮、及び写真測量。
平成21年3月18日	C区、埋め戻し開始。
平成21年3月19日	C区、埋め戻し終了。
平成21年4月15日	平成20年度調査分の遺構図面・遺物の整理作業開始。
平成21年9月16日	堀内氏に昨年度調査分の陶磁器について指導を受ける。
平成21年10月5日	堀内氏に昨年度調査分の陶磁器について指導を受ける。
平成21年11月12日	D・E・F区の表土掘削開始。
平成21年11月18日	D区遺構確認後、攪乱除去開始。
平成21年11月20日	D区遺構掘削開始。
平成21年11月24日	D区遺構掘削と平行し、E区攪乱除去開始。
平成22年2月9日	F区遺構確認。
平成22年3月1日	D・E・F区空撮準備開始
平成22年3月5日	D・E・F区空撮。
平成22年3月17日	埋め戻し開始
平成22年3月18日	埋め戻し終了。
平成22年4月12日～	順次、遺構図面・遺物の整理作業。
平成22年5月24日	堀内・成瀬氏に昨年度調査分の陶磁器について指導を受ける。
平成22年6月24日	堀内・成瀬氏に昨年度調査分の陶磁器について指導を受ける。

第2章 遺跡の立地と環境

第1節 遺跡の位置と地形

高崎市は平成18年から21年の市町村合併により459.41km²の面積になり、群馬県南西部の大部分を占めるようになっている。南東部は埼玉県、北西部は長野県と接し、地形的にも関東山地から関東平野に至るように多様である。西に浅間山、東に赤城山、北に榛名山が見渡せるが、特に浅間山は歴史上何度となく噴火を繰り返し、当市域ではその軽石層が堆積している場所も多い。

本遺跡は旧高崎市の中心部に位置し、県西部から流れる烏川と碓氷川が合流する左岸の台地上に位置する。この台地は烏川と井野川とのあいだに平坦に広がる地形で高崎台地とよばれている。2.1万年前の浅間山の山体大崩落起源の前橋泥流、及び1.1万年前の高崎泥流とで形成されている。この泥流台地は烏川によって浸食され形成されているが、烏川河床と約10mの高低差をもって高崎市の南端まで続いている。この台地は井野川までの間に緩微高地と低地が連続するが、本遺跡が立地する烏川縁辺部は約400mの幅で微高地になっており、高崎駅周辺にいくと低地となっている。高崎城（和田城）はこの微高地の大部分を利用する形で築城されている。

第2節 周辺の遺跡と歴史的環境（第1～8図・第1～3表）

高崎城遺跡では、現在まで19次にわたる本調査が行われている。また、城下町では検物町遺跡、城下町遺跡、城下町Ⅱ遺跡、及び城下町を囲う遠傍部分の真町Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ遺跡、旭町Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ遺跡、羅漢町遺跡で調査がなされている。

旧石器時代に関しては現在まで本遺跡では確認されていない。また、縄文時代についても7次、9次、19次調査で中期の土器片が極少量出土しているものの遺構はみつからない。

本遺跡で遺構が明らかになるのは弥生時代中期後半の意見町式期である。3次・7次・9次・12次調査にまたがって上幅70～80cmでV字型の断面の環濠が検出されている。環濠の東側は未調査であるが、残存状況から推定すると南北に長い長円形を呈し、南北120m、東西100m程度の規模になると推測されている（中村1994）。環濠中心部では5次調査において1辺15mの方形周溝墓が検出されている。これらの遺構に伴う住居址は後世の土地利用によって削平されていると考えられ、現在まで1軒も検出されていない。その他、17次調査において明確な遺構ではないものの複数の土器が集中する地点が確認されている。

その後、弥生時代後期の遺構・遺物はなく、空白期を迎える。

古墳時代前期になると再び土地利用がなされ、19次、3～9次、17次調査において、前期の土坑、溝が検出されるようになってくる。

古墳時代中期～後期になると7次調査南端で検出された墳丘径約50mの古墳が確認されている。これは江戸時代の高崎城の絵図に浅間山と記されている古墳にあたる。その他、19次調査においても墳丘径13～16mで円墳の可能性のある溝が検出されている。16次調査においては遺構に伴わないものの滑石製未成品が大量に出土している。

5次調査では堅穴住居が2軒検出されている（古墳時代後期）。後世の土地利用によりかなり削平されていることを考慮しても堅穴住居の分布は全体的に希薄である。

奈良時代になると、9次・19次調査で前期の堅穴住居が数軒検出されているが、爆発的に増えるのは平安時代になってからである。現在までに80軒程度検出され、また、布目瓦が多く出土し、7次・9次では334点出土している（中村1994）。報告書（中村1994）所収の布目瓦分布図をみると現シティーギャラリー付近が分布の中心になるが、これらに伴う明確な遺構は検出されていない。1108年のAs-B層下の水田は11次調査東端で確認され、城下を囲う遠傍の東側の真町Ⅰ遺跡などでも確認されていることから、11次調査地点以東に水田域がひろがっていることが推測される。

中世の本遺跡は和田城、もしくは和田宿と総称される宿や興禪寺の寺域にあたる。和田城の築城年は不明であるが、江戸時代の『和田記』には正長元年（1428）に和田義信が城を築いたと記されている。現在までの発掘調

査では14世紀以前の遺物は極少量であり、遺物がまとまり始めるのが15世紀代からである。多くの地点で遺構は検出され、溝や井戸・土坑が多い。また、細かい時期比定が難しい柱穴の大部分は概期に属するであろう。

和田氏は永禄3年(1560)の長尾景虎関東越山に際して参集した武将を記した『関東幕注文』には箕輪衆の一員として記され、箕輪城の長野氏の元、基本的には上杉方であったが、永禄5年5月までに武田方に転じ、その後は武田勢の一員として各地を転戦し、天正10年(1582)には一時的に澁川一益、そして神流川の合戦で北条氏に澁川が敗れると北条氏に従属した。この頃の和田氏の当主は和田信業であるが、信業は天正18年の小田原攻めでは小田原城に籠城し、その後は『和田氏系図』によると妻子ともに小笠原忠政に仕えたという。和田城はこの天正18年で一時的に廃城になった可能性が高く、和田城中心付近と推測される場所の15次調査では天正18年までの遺物群を含む遺構面の上に畠跡が検出され、さらに畠跡の上層に慶長3年以降の高崎城の櫓台と推測される遺構が検出され、この畠跡は天正18年から慶長3年までの間の土地利用の可能性が指摘されている(大西2006)。

本遺跡における近世は、慶長3年(1598)の高崎城築城に始まる。徳川家康重臣の井伊直政は家康家臣中最大石高の12万石で箕輪城に入封した。その命は豊臣秀吉からなされているが、その秀吉が死去した慶長3年に直政は城を和田城の地に移し、新たに高崎城を築城した。直政は慶長5年、関が原の合戦の活躍によって佐和山城に移封したため、短期間の在城であった。そのため、現在知られる高崎城の縄張がこの期間で完成したかは不明である。なお、宝暦5年(1755)に記された『高崎寿奈子』(高崎市1968『高崎市史』資料篇所収)には直政は普請途中に関が原に出陣したと記されている。実際、安藤重博が城主だった寛文7年(1667)に始まり、元禄5年(1692)に完成する大手門や子の門などの建立をもって築城工事は完成したともいわれ(高崎市1927『高崎市史』)、井伊直政期に全てが完成したわけではないであろう。なお、高崎城の城主は、第1表のように変遷し、特に17世紀前半は短期間でめまぐるしく変わっている。

第1表 高崎城歴代城主変遷表

城主	期別(西暦)	石高
初代 井伊直政	慶長3年～慶長5年(1598～1600)	120,000 石
2代 榊原康政	慶長5年～慶長6年(1600～1601)	50,000 石
3代 松平(阿州)康英	慶長9年～元和2年(1604～1616)	50,000 石
4代 松平(奥平)清直	元和2年～元和3年(1616～1617)	50,000 石
5代 安藤重忠	元和3年～元和5年(1617～1619)	50,000 石
6代 安藤重忠	元和5年～元和7年(1619～1621)	56,600 石
7代 安藤重忠	元和7年～明暦3年(1621～1627)	56,600 石
8代 松平(大河内)輝元	明暦3年～元禄8年(1627～1660)	60,000 石
9代 松平(大河内)輝元	元禄8年～元禄7年(1660～1710)	52,000 石
10代 松平(大河内)輝元	宝永7年～享和2年(1710～1717)	50,000 石
11代 松平(大河内)輝元	享和2年～寛政2年(1717～1745)	72,000 石
12代 松平(大河内)輝元	寛政2年～寛政2年(1745～1749)	72,000 石
13代 松平(大河内)輝元	寛政2年～天明元年(1749～1781)	72,000 石
14代 松平(大河内)輝元	天明元年～寛政12年(1781～1800)	82,000 石
15代 松平(大河内)輝元	寛政12年～文政8年(1800～1825)	82,000 石
16代 松平(大河内)輝元	文政8年～天保10年(1825～1839)	82,000 石
17代 松平(大河内)輝元	天保10年～天保11年(1839～1840)	82,000 石
18代 松平(大河内)輝元	天保11年～弘化3年(1840～1846)	82,000 石
19代 松平(大河内)輝元	弘化3年～万延元年(1846～1860)	82,000 石
20代 松平(大河内)輝元	万延元年～明治2年(1860～1869)	82,000 石

明治に入ると、高崎地域は当初岩鼻県(明治元年)、明治4年(1871)7月に高崎県、10月に群馬県、明治6年に熊谷県、明治9年(1876)に群馬県とめまぐるしくその所属県が変わった。また、それに伴い県庁の所在地も前橋、高崎、あるいは熊谷など変わっていたが、明治9年9月を最後に県庁は前橋になり、明治14年の太政官布告をもって正式に前橋が県庁になった。その間、徐々に高崎城は取り壊され、明治5年に城内の門・櫓など6か所が払い下げられ、明治7年には城内三ノ丸、土族屋敷を取り壊し整理、さらに同年再び城内の櫓・門などが払い下げのため取り壊されている(『新編高崎市史』資料編9 No.79)。一方、明治6年5月に東京鎮台高崎分営の第9大隊が旧高崎城に置かれる。その後いくつかの部隊の異動を経て、明治17年(1884)には歩兵15連隊が創設され高崎に置かれ、昭和20年(1945)の第2次世界大戦終戦を迎えることになる。この間、明治23年(1890)に簡易な陶管による上水道が管内に引かれるが明治27(1894)には廃止になり、明治43年(1910)に鉄製の本格的な水道管が敷設されたことが明らかになっている(中村2001)。

戦後、旧高崎城内は高崎市の中心地として、官庁街などとして利用されるが、15連隊の兵舎は引き続き学校等に利用され、例えば、本調査地における15連隊時代の第3兵舎は、昭和38年(1963)まで使用されている。

第3節 調査地付近の歴史(第9図・第4表)

高崎城に関しては、県指定重要文化財の『櫻井一雄家文書』に代表されるように多くの絵図面が知られている。そのため、18次調査地点付近についてもどのように変遷したのかが諸史料から知ることができる。ここでは発掘調査以外の史料を用いて、近世から現代までの調査地点付近の変遷を検討する。

高崎城の絵図面において最も古いのは、「上野高崎城図」（元和5年～元禄8年（1619～95））（第9図1）であるが、記載内容はさほど詳しくはない。ただし、屋敷地と推測される場所は彩色されているが、当該地は彩色されていない。

「間部氏当代高崎絵図」（宝永7年～享保2年（1710～17））（第9図2）は城内に建造物について記載があり、詳しい図面になっている。調査地点は「長屋屋敷」という表現がなされている。長屋の屋敷数があるという意味であろうか。詳細な家臣名等は不明である。

「水盛絵図」（享保6年（1721）頃）（第9図3）は、「享保六年辛丑八月廿四日上ル控 水盛絵図」と同じ頃の製作と推測されている（土屋2006）。「享保六年辛丑八月廿四日上ル控 水盛絵図」では屋敷名は記されず、建物の表現は本丸、梅ノ木郭付近に限られている。一方、「水盛絵図」では建物の表現は同様であるが、屋敷名の表記がみられる絵図になっており、調査地付近の北側は「より会地分」と記され、南側の曲輪が狭まる場所は何らかの人名の表記がみられ、屋敷地になっている。

「御城内絵図（延享年中之頃）」（延享年間（1744～47））（第9図4）は、本丸・榎郭・西の丸には建物の表現がみられ、二の丸・三ノ丸には屋敷名が記されている。調査地部分の北西側が「西山□□」、北側中央が「深井□□」、北東側が「中川□□」、南側が「松本□□」となっている。大河内家・家臣の家格・家筋等を記した「高崎藩士家格・家筋並びに名字断絶者一覧」（『新編高崎市史』資料編5 No.58）には深井については12家分配されており、名前が不明なため、深井家のうちのどの家なのか不明である。その他のうち、西山家と中川家は1家のみ、松本家は2家しか記されていないため、それぞれ比定がしやすい。

西山家は初代が、「西山武左衛門」で300石持ちの御小姓頭、初名が「与惣太夫」である。2代目は「西山武左衛門」で300石持ちの御者頭、初名が長蔵・茂右衛門である。3代目は「西山岩蔵」で石高不明で御馬廻格、初名は万蔵である。これらの内、いずれかにあたる可能性が高い。

中川家は初代が、「中川宇太夫」で70石持ちの御馬廻格、初名が「権次郎」である。2代目は「中川宇太夫」で70石持ちの御馬廻格、初名が「源内」である。これらの内、いずれかにあたるであろう。

松本家の1家は初代が「松本伝七」で50石の御馬廻格、2代目は「松本七郎右衛門」で50石の御馬廻格である。別の1家の初代は「松本兵備」で15人扶持の御馬廻格、初名は源蔵である。2代目は「松本甚五左衛門」で10人扶持の御馬廻格である。3代目は「松本辰弥」で8人扶持の御馬廻格である。

「御城内外絵図 從追手門内南之方」（文化7年（1810））（第9図5）は調査地部分が「芝間」と記されている。最初の絵図の「上野高崎城図」以外は一貫して調査地付近は何らかの建物、もしくは屋敷地の表現がなされていたのが、初めて何もない形で表現されているのは注目される。

「上野国群馬郡高崎御城内外持地絵図」（安政3～4年（1856～1857））（第9図6）では、調査地部分は山奉行持の区画された表現がみられる。

「慶応年間絵図」（慶応1～4年（1865～1869））（第9図7）には「長屋屋敷」の表現がみられる。

以上をまとめると、限られた絵図からになるが、17世紀代は屋敷地がなく、18世紀代には屋敷地の表現がみられ、特に延享年間の頃であれば、その居住者が特定できる可能性がある。19世紀前半代は芝間になり、そして、幕末になり再び屋敷地に変遷するというの大きな流れとしてうかがえる。

近代に入ると、調査地付近は歩兵第15連隊の第3兵舎の位置にあたる。従来歩兵第15連隊の兵舎は明治19年に建築されたといわれていたが、発掘調査成果などを元に明治19年に建築された後、幾度かの変遷を経て、最終的に明治45年の大改築によってリニューアルした兵舎が戦後まで残ったことが明らかになっている（中村2001）。本調査地のこの第3兵舎跡もこうした変遷を経て、さらに戦後には『新編高崎市史通史編4』を参照すると、昭和22年（1947）に青年師範学校として使われ、昭和27年には高崎市立短期大学（昭和32年に高崎経済大学に改称）の校舎となる。昭和36年に高崎経済大学が上並榎町に移転すると、翌年には東京農業大学第二高等学校の仮校舎として使われる。そして、昭和38年に東京農業大学第二高等学校が石原町に移転すると同年に取り壊され、昭和42年、この第3兵舎跡地に前橋地方警察庁高崎支部の新庁舎が建設されることになったのである。

第2表 高崎城跡跡調査一覧表

調査年度	調査年度	発行年	報告書名	報告書名	シリーズ名	シリーズNo	発行巻
1次	昭和60年(1985)	1985	高崎市教育委員会	『高崎城跡 仮称・高崎中学校建設に伴う発掘調査の成果』			高崎市教育委員会
2次	昭和61年(1986)	1986	久保幸雄	『高崎城跡遺跡(復原図に基く北西西面)』	高崎市文化財調査報告書	第81巻	高崎市教育委員会
3次	昭和62年(1987)	1990	久保幸雄・高崎 淳・田村 孝・山田 茂	『高崎城跡遺跡・宮・V 堀ノ形形遺跡・堀ノ形及び三ノ丸遺跡・東門及び三ノ丸遺跡』	高崎市文化財調査報告書	第107巻	高崎市教育委員会
4次	昭和63年(1988)	1990	久保幸雄・高崎 淳・田村 孝・山田 茂	『高崎城跡遺跡・宮・V 堀ノ形形遺跡・堀ノ形及び三ノ丸遺跡・東門及び三ノ丸遺跡』	高崎市文化財調査報告書	第107巻	高崎市教育委員会
5次	平成元年(1989)	1990	久保幸雄・高崎 淳・田村 孝・山田 茂	『高崎城跡遺跡・宮・V 堀ノ形形遺跡・堀ノ形及び三ノ丸遺跡・東門及び三ノ丸遺跡』	高崎市文化財調査報告書	第107巻	高崎市教育委員会
6次	平成元年(1989)	1990	高崎 淳・山田 茂	『高崎城跡・三ノ丸遺跡』	高崎市文化財調査報告書	第104巻	高崎市教育委員会
7次	平成2年(1990)	1994	中村 茂	『高崎城跡・宮・高崎城三ノ丸遺跡』	高崎市文化財調査報告書	第129巻	高崎市教育委員会
8次	平成2年(1990)	1992	高崎市教育委員会	『高崎城跡(石手門)遺跡』『高崎城内堀遺跡(堀ノ形)遺跡』	高崎市文化財調査報告書	第121巻	高崎市教育委員会
9次	平成3年(1991)	1994	中村 茂	『高崎城跡・宮・高崎城三ノ丸遺跡』	高崎市文化財調査報告書	第129巻	高崎市教育委員会
10次	平成3年(1991)	1993	黒沢元夫	『高崎城跡・高崎城跡ノ木部遺跡』	高崎市文化財調査報告書	第129巻	高崎市教育委員会
11次	昭和63年(1988)	1989	横倉 善一・黒野守弘	『高崎城跡(堀ノ形)遺跡』『高崎城内堀遺跡(堀ノ形)遺跡』	高崎市文化財調査報告書	第83巻	高崎市教育委員会
12次	平成5年(1993)	1994	中村 茂・神谷 肇	『高崎城跡XⅡ・XⅢ 三ノ丸遺跡』『高崎城内堀遺跡(堀ノ形)遺跡』	高崎市文化財調査報告書	第131巻	高崎市教育委員会
13次	平成5年(1993)	1994	中村 茂・神谷 肇	『高崎城跡XⅡ・XⅢ 三ノ丸遺跡』『高崎城内堀遺跡(堀ノ形)遺跡』	高崎市文化財調査報告書	第131巻	高崎市教育委員会
14次	平成6年(1996)	1997	折原 洋	『高崎城跡XⅡ遺跡』	高崎市文化財調査報告書	第57巻	高崎市教育委員会
15次	平成14年(2002)	2006	大西 徹也	『堀ノ形遺跡(堀ノ形)遺跡』改定工事に伴う発掘調査報告書 高崎城跡XⅡ遺跡』	高崎市文化財調査報告書	第369巻	高崎市教育委員会
16次	平成15年(2003)	2003	黒田 晃	『高崎城跡XⅡ遺跡』	高崎市文化財調査報告書	第206巻	高崎市教育委員会
17次	平成17年(2005)	2006	黒田 晃	『高崎城跡XⅡ遺跡』	高崎市文化財調査報告書	第206巻	高崎市教育委員会
18次	平成20～21年(2008～2009)	2011	木村 浩吉				
19次	平成20～21年(2008～2009)	2010	黒田 晃・山本ジェームズ・秋本太郎	『高崎城跡跡19』	高崎市文化財調査報告書	第259巻	高崎市教育委員会

第3表 高崎城跡下町及び遺構調査一覧

調査年度	調査年度	発行年	報告書名	報告書名	シリーズ名	シリーズNo	発行巻
城下町	平成2年(1990)	1991	高崎 淳	『12番物町遺跡』『高崎市内遺跡跡高崎文化財調査報告書』	高崎市文化財調査報告書	第112巻	高崎市教育委員会
城下町	平成3年(1991)	1992	志田 正	『高崎城下町遺跡』	高崎市文化財調査報告書	第125巻	高崎市教育委員会
遺構	平成7年(1995)	1996	神谷 肇・関口 修	『高崎Ⅱ遺跡』	高崎市文化財調査報告書	第141巻	高崎市教育委員会
遺構	平成10年(1998)	1999	田村 孝・金井英一	『高崎Ⅱ遺跡』	高崎市文化財調査報告書	第163巻	高崎市教育委員会
城下町	平成10～11年(1998～1999)	2000	吉田昌利	『城下町Ⅱ遺跡』	高崎市文化財調査報告書	第77巻	高崎市教育委員会
遺構	平成12年(2000)	2001	金井英一	『堀ノ形遺跡』	高崎市文化財調査報告書	第126巻	高崎市教育委員会
遺構	平成13年(2001)	2002	堀川 敬	『高崎Ⅱ・堀ノ形・堀ノ形Ⅰ遺跡』	高崎市文化財調査報告書	第180巻	高崎市教育委員会
遺構	平成21年(2009)	2011	堀川 敬	『堀ノ形遺跡』	高崎市文化財調査報告書	第512巻	高崎市教育委員会

第4表 調査地周辺の高崎城絵図の変遷(城内が描かれていないもの、及び城内の構・門だけの表現の絵図は除く)

調査年度	調査年度	発行年	報告書名	報告書名	シリーズ名	シリーズNo	発行巻
1	1619～1696	元和5～元禄8	安藤氏	『上野高崎城絵図(No.176-282)(102巻)』	高崎市文化財調査報告書	第112巻	高崎市教育委員会
2	1710～1717	宝永7～享保2	黒田 晃	『高崎城跡(堀ノ形)遺跡』	高崎市文化財調査報告書	第125巻	高崎市教育委員会
3	1721頃	享保6年頃	大河内輝貞	『水戸城絵図(堀ノ形)遺跡』	高崎市文化財調査報告書	第141巻	高崎市教育委員会
4	1744～1747	享保19～22	大河内輝貞	『高崎城跡(堀ノ形)遺跡』	高崎市文化財調査報告書	第163巻	高崎市教育委員会
5	1810	文化7	大河内輝貞	『高崎城跡(堀ノ形)遺跡』	高崎市文化財調査報告書	第180巻	高崎市教育委員会
6	1806～1807(1861年(文久元年))	安政3～4	大河内輝貞	『上野高崎城跡(堀ノ形)遺跡』	高崎市文化財調査報告書	第180巻	高崎市教育委員会
7	1865～1869	慶応1～4	大河内輝貞	『高崎城跡(堀ノ形)遺跡』	高崎市文化財調査報告書	第180巻	高崎市教育委員会

第3章 検出された遺構

第1節 遺跡の概要 (第10図)

1) 基本層序

調査地は駐車場として利用されていた場所が多く、そのためのアスファルト・砕石が約20cmの厚みをもっていた(I層)。この層を除去するとⅢ層の暗褐色土になるが、B～C区の特に関東には厚さ1cm程度の炭化物を大量に含む層(Ⅱ層)があった。これは3～5次調査で確認された石炭層(久保他1990)に相当する。

この層は陸軍時代に敷かれた層とされ、3～5次調査ではこの層を除去した面を第1面として調査し、歩兵15連隊関連の遺構を確認している。3～5次調査地点はこの層が5～10cm程度と厚く、極めて硬くしまっていたが、今調査地では調査区の極一部で見られ、さらに極めて薄かった。また、現地安から掘り込まれた攪乱がⅢ層中に及ぶ状況が多かった。そのため、攪乱のある程度除去できる深さまで下げるとⅣ層に達する場合が多かった。したがって、今調査地はⅣ層上面を遺構確認面とし古代から近現代面までの1面調査を基本とした。

Ⅲ層はⅣ層上の層であるが、層厚が一定ではなく、深いところでは40cm程度、浅いところでは20cm程度である。基本的に浅いところの高さで遺構確認をしており、この層厚が厚いところは遺構状に深くなっている。A～C区で性格不明遺構として報告している広範囲に及ぶ浅い土坑状の遺構は基本的にこうした性格のものである。なお、Ⅲ層中からは近代以降の遺物は極少量であり、基本的に18世紀後半以前の遺物が大部分を占めている。近代の遺物は混入遺物の可能性があり、18世紀後半から19世紀代に形成された層の可能性が高いが、ロームブロックなどのブロック状の土は含まれず、人為的な盛土ではないだろう。

なお、D～F区の調査では、調査前に行われた既存建物の撤去に伴って、I層は削平された場所も多く、最も浅い場所では5cm程度掘削するとⅣ層上面の遺構確認面になる場所もあった。

2) 近代の概要

調査地は歩兵15連隊の第3兵舎部分に相当することは予想されていたが、A～C区を中心にその建物の基礎(1号建物跡)や床下の基礎である東(つか)(1～22号東)、また建物に伴う土管製の溝や集水桝、水道管等が検出されている。D～F区はこれらの遺構の残りはあまりよくなく、既に撤去されているものが多かった。

3) 近世以前の概要

近代の歩兵15連隊の第3兵舎建設やその後の土地利用の中で調査地の多くの場所で削平を受けており、特にD～F区の遺存状況はよくなかった。また、今までの高崎城跡跡の調査において遺存状況がよい近世高崎城の土塁下に該当する場所は、今調査区は基本的に該当していないため、中世や近世に削平を受けている可能性が高く、古代の堅穴住居は1軒も確認されなかった。こうした状況のため、近世を中心に井戸や土坑、溝などの比較的深い遺構については残っていた。また、柱穴も600基以上検出されているが、後世の攪乱によってその並びが不明なものほとんどで、明確な掘立柱建物跡と認定できるような遺構は確認されていない。注目される遺構としてはC区で検出された古代の50号土坑である。壁際に石が組まれ、底面には石が敷かれている。遺構内からは木に打ちつけたと推測される鉄製の釘が出土し、石槌蓋だったと推測される遺構である。

出土遺物としては、A区Ⅲ層中で一分金が出土している。県内では久々戸遺跡(関2003)、萩原遺跡(笹澤2010)に続き、3例目の出土であった。また、調査地内からは陶磁器を中心に近世の遺物が計2862点も出土し、特に8号井戸からは165点、10号井戸からは60点、70号土坑からは104点、86号土坑からは165点と井戸を中心に大量の近世一括遺物が出土している。一方、古代については、遺構はほとんど検出されていないが遺物は計4,637点に及び近世以上の出土量があった。ただし、古代の遺物についてはその後の土地利用の中で原位置を保っているものはほぼ皆無に等しく、また、小破片のものが多く、中世も遺構の検出数は多くなく、遺物自体も計670点と他の時代に比べ出土量は多くない。

第2節 近代

・1号建物跡（第11・12・13・29図、PL 1・2・17）

A区の東端、及びB区の西半分にかけて検出した。南北へ走る遺構はさらに調査区外に延びるが、延長線上のE区・D区では後世の土地利用の中で撤去されており、検出されなかった。幅90cmのコンクリート製基礎が2本平行しているがこの2本の内側間で13.6m、外側間で15.45mをはかる。この2本の基礎をつなぐ形で東西方向へ18mにわたるコンクリート製基礎があるが、この部分は第3兵舎の丁度防火壁にあたる部分である。第3兵舎と同規模の第2兵舎は7次・9次調査で発掘調査され、防火壁より南側に73mにわたって建物が続いていることがわかっており、第3兵舎も同様であれば、兵舎自体は防火壁から南側に約60mの位置にあたるD区のさらに南側まで続いていたことになる。

コンクリートの基礎は厚さ70cmに及ぶ分厚い基礎であり、その下には厚さ20cm程度にわたって計10cm内外の平らな石を栗石として敷いてあった。また、コンクリート基礎上には大きく3段にわたってレンガが積まれ、さらにその段ごとに最下段は2石、中段も2石、最上段は4石レンガを用い、段ごとに小口と長手を変える「イギリス積み」で積まれている。

コンクリート製基礎の掘り方は大きく2層に分けられ、下層が暗褐色土で津喰上の白色粒を含む層になっており、上層は地山の黄褐色土や砂質土を用いて埋められている。

遺物については近世・近代遺物等が出土した。第29図4はコンクリート基礎上のレンガで「上敷免製」の刻印が認められる。コンクリート基礎上のレンガについては、400点程度刻印が有るかを調査したが、うち50点で刻印が認められ、全て明治23年（1890）以後に製造されている「上敷免製」の刻印であった。

・1～22号束（第12図、PL 2）

B区とE区で1号建物コンクリート基礎の内部で計22基の束跡が検出された。7・9次調査で第2兵舎の束は大きく2種類の束が存在し、「古い時期の束は掘り方中央に大きな束石を置いて、その周囲を小さな栗石で填めているのに対し、新しい方の束は栗石の間を川原砂で充填し、かつ、栗石の中にコンクリート片、凝灰岩片が混じる場合もあった」（中村2001）とされる。今回の調査で検出されたうち新しいとされる後者の特徴を有しているのは1～14号束で、前者の特徴を有しているのは15～22号束であった。なお、1～5号束、及び12～14号束では栗石層の上にコンクリート基礎が置かれ、さらにその上に大きく3段にわたってレンガが積まれている。最下段は2石、中段は1石、最上段は1石レンガを用いている。

・1・24号溝（第11・12・14図、PL 3）

A区西端で検出された溝を1号溝とし、D区・E区西端で検出された溝を24号溝としているが、両者とも延長ライン上に位置し、同一の溝である。これらは1号建物跡と15m西側で平行して南北方向に走り、1号建物跡と軸を同じにしているため、何らかの関係があるだろう。

A区とE区の溝は35cm×50cmの大谷石の長軸を東西方向にして底面に敷き、側石は長手状に1石積んでいる。A区では東側の側石は未調査区のため確認できず、E区の側石は残っていなかった。

D区になると溝の幅が狭くなると共に深くなり側石は3石積み、幅30m、深さは55cmになっている。

A区の溝底の標高は96.35mで、D区の溝底の標高は96.14mのため南側に水が流れる勾配である。

調査中には覆土中にガラス片やビニール等も出土し、現代まで使われていた溝であろう。

・39号溝（第12図、PL 3・4）

A区、中央部の西より、F区中央部、E区西部、D区中央部の西よりで検出した。1号建物跡の西側9m 50cmで平行して南北に走り、1号建物跡と関係性が強い。掘り方内に鉄製の管が埋設されている。

D区を除き掘り方の上幅は基本的に70cmであるが、鉄製管のジョイント部分だけ作業等を行いやすいように幅80cmと広めに掘ってある。

鉄製の管のジョイント部に高崎市水道局のマーク（第12図拓本）が納められている。こうした特徴をもつ水道管は明治43年（1910）が最初であることが指摘されており（中村2001）、それ以降の水道管である。

・4・5・36・31・30・19・20・2・3・26～29号溝、1・6～8・10号集水枡（第11～14図、第29図、

PL 4・5・17)

1号建物跡の西側3m30cmに平行して南北に走る土管が、4・5号溝（A区）、36号溝（F区）、31・30号溝（E区）、19・20号溝（D区）で、検出されている。また、これらの溝に接続する東西方向に走る土管が2・3号溝（A区）、26・27・28・29号溝（E区）で、それぞれの底面は西側の接続部分が低くなっており、4・5・36・31・30・19・20号溝に流れ込む溝である。その他、これらの溝に接続する集水橋が1号集水橋（A区）、10号集水橋（F区）、8・7号集水橋（E区）、6号集水橋（D区）である。

4・5・36・31・30・19・20号溝の土管の径は25cmである。それぞれが集水橋に接続しているが、E区の7号集水橋部分は、7号集水橋が埋没した上に30号溝が敷かれ8号集水橋に接続し、これら一連の遺構が造り替えられていることがわかる。

集水橋自体も1号集水橋で、当初の底面と推測される径3cm程度の小石を多量に含みしまりが強い層の上に、25cm程度の暗褐色で粘性が強い土の層をはさんで、コンクリートが厚さ1cm程度敷かれており、底面がかさ上げされたことがうかがえ、こうした造り替えがなされている。

各集水橋では大谷石が積まれ、残りがよい橋では3石積まれていた。

各遺構ではレンガ等が掘り方内から出土し、近代以降の遺構であるが、4・5号溝、1・6号集水橋から出土している残存状況がよい遺物を図示した（第29図）。なお、1号集水橋の1は1号集水橋の裏込内から出土した「上敷免製」の刻印があるレンガである。

・8号溝（第12図、PL 5）

B区中央部で検出された。1号建物跡の東側のコンクリート基礎の東端から70cmが溝の中心にあたる。1号建物跡と平行している。近接しているため、1号建物跡の屋根から落ちる雨水を受けるための雨落ち溝と推測される。35cm×50cmの大谷石を底面に敷き、側石は22cm×90cm程度の大谷石を1石置いてある。

・10号溝（第12・13・29図、PL 5・17）

B区中央部、C区北側、E区東端で検出された。C区北東端で2号集水橋、C区北側中央やや北で3号集水橋、C区北西端で4号集水橋、E区東側南端で9号集水橋と接続する。

土管がある場所とない場所があり、2号集水橋の北側1m80cm付近より北側、2号集水橋から3号集水橋の南4m付近まで、E区の9号集水橋の北側部分は土管がない。なお、9号集水橋付近では東西方向に走る土管が敷かれた33号溝が10号溝と接続している。

ガラスなど近代以降のものが出土しているが、残存率のよい近世以前のものを図示した。（第29図）

・2・3・4・9号集水橋（第12・13・30図、PL 5・6・17）

10号溝と接続している橋で、2・4号集水橋では壁にレンガが使われ、一方、3・9号集水橋では大谷石が壁に使われている。

ガラスなどの近代以降のものが多く、残存率のよい遺物を図示した。（第30図）

・22号溝（第12・14・30図、PL 6・17）

D区で検出された溝で南東から北西方向に走行し、調査区南端で20号溝と重複し切られている。上幅45～75cm、深さが確認面から110cmで、底面に幅30cm程度で深さ5～10cm程度の掘り込みが150cm間隔で4箇所検出された。底面付近から近代の七輪（1）が出土している。

・65号土坑（第12・30図、PL17）

C区北端の2号集水橋に隣接して検出されている。東西方向の上幅で130cmをはかり、南北方向の規模は南側を撿乱で切られており、不明である。

遺物は正徳から昭和時代の瀬戸美濃系の碗が出土している。第30図には砥石（1）を図示した。

・11号井戸（第12・30図、PL10・17）

D区中央部で検出された。上幅の径が130cmである。当初井戸と想定していたが、金属製のワイヤーが南西方向からこの遺構内に入り、底面でこのワイヤーと金属板が接続していた。近現代の遺構針などの可能性がある。

出土遺物は近現代のもの以外に、同安窯系の青磁碗（1）が出土している。

第3節 近世以前

多くの遺構が検出されているが、遺跡自体が古代から継続していることから、各遺構から出土する遺物の時間幅は長い。また、各遺構では、床面直上から出土するような例はほとんどない。そのため、各遺構の最新時期の出土遺物、及び各遺物の残存率なども考慮して各遺構の時期を判定した。ただし、不掲載資料についても数値化してある（第7表）ため、それらも合わせて参照されたい。以下、概ねの時期が判明する遺構を中心に報告する。

1) 土坑

(1) 近世

・1号土坑（第15・16・30図、PL 7・17）

A区西端で検出されているが、東半分と北西隅は攪乱に切られ残っていない。長軸が188cmで深さは遺構確認面から10cmほどである。遺物は槌木鉢（1・2）が出土している。

・3号土坑（第15・16・17・30図、PL 7・17）

A区中央付近で検出し、上幅で長軸120cm、短軸78cmをはかる。深さは遺構確認面から165cmと深い。覆土中には軽石粒を含む。出土遺物は少ないが、17世紀末～18世紀前半の鍋島磁器片が出土している。（1）

・4号土坑（第15・16・30図、PL17）

A区中央部やや西側に位置し、西側を攪乱で切られているため長軸は不明である。短軸78cm（上幅）、深さは遺構確認面から10cmである。近世のかわらけ（1）が出土し、その他、小破片で図化していないが、近世の肥前系磁器の碗や焼塩釜が出土している。

・15号土坑（第15・16・30図、PL 7・17）

A区の南端に位置し、東西方向に長軸をもち上幅で508cm、短軸は他の遺構との重複で不明である。深さは遺構確認面から33cmである。18世紀代の瀬戸美濃系の坏（1）と搦鉢（2）や瓦（3）が出土している。

・22号土坑（第15・18・30図、PL18）

B区の南西に位置する。確認された範囲で、東西方向に長軸をもち上幅で4m、南北方向に上幅80cm。南側は攪乱によって残っていない。遺物は17世紀末～18世紀前半の肥前系磁器（1・2）や肥前系陶器（3）、瀬戸美濃系陶器（4）の他、軒丸瓦（5）が出土している。

・30号土坑（第15・19・31図、PL18）

B区の北東に位置する。確認された範囲で、南北方向に上幅120cm、東西方向に上幅72cmをはかる。北側は調査区外にのび、東側は攪乱に切られている。

近世のかわらけ（1）、茶臼（2）、寛永通宝（3～6）が出土している。

・33号土坑（第15・19・20・31図、PL 7・18）

B区北側中央部に位置する。西側の攪乱によって、全体は明確ではないが推定径で144cmの円形を呈し、深さは確認面より42cmである。34号土坑と重複しているが、本遺構が34号土坑を切っている。中世のかわらけ（1）が出土しているが、34号土坑で近世の遺物が出土しているため、本遺構は近世以降の時期になる。

・34号土坑（第15・18・20・31図、PL 7・18）

B区北側中央部に位置する。北側が調査区外にのびるが、東西方向で上幅104cmをはかり、深さは確認面より72cmである。33号土坑と重複し、33号土坑に切られている。

出土遺物は17世紀後半の肥前系磁器（1）や中世の内耳土器（2）、五輪塔の水輪（3）が出土している。

・42号土坑（第15・19・20・31・32図、PL 7・18）

B区東端に位置する。東側は調査区外にのびるが、確認できる範囲で、東西軸が上幅で228cm、南北軸が上幅で132cmの長方形の土坑である。深さは確認面から15cmである。

18世紀前半までの遺物でまわっており、肥前系磁器（1・2）、瀬戸系陶器（3～5）、近世のかわらけ（6）、瓦（7～9）が出土している。

・51号土坑（第15・21・32図、PL18）

C区中央部に位置する。径92cmの円形プランを呈し、深さは確認面より24cmである。

肥前系の磁器（1）などが出土している。

・52号土坑（第15・19・20・32図、PL 7・18）

C区やや北よりの東側に位置する。上幅で東西軸が190cm、南北軸が90cmで、深さは確認面より52cmである。

近世の遺物は28点と比較的多く出土しているが、小破片が多く、1のかわらけを図示した。

・54号土坑（第15・21・32図、PL 8・19）

C区南よりの東側に位置する。北東側は調査区外にのびる。上幅で長さ168cm、幅72cm、深さは確認面より45cmである。志戸呂系陶器（1）、近世のかわらけ（2）、瓦（3・4）が出土している。

・55号土坑（第15・22・32図、PL19）

C区南よりに位置する。上幅で東西軸が98cm、南北軸が64cm、深さは確認面より15cmである。

近世の遺物は7点出土し、うち1点の焼塩壺（1）を図示した。

・58号土坑（第15・21・32図、PL 8・19）

C区中央部東に位置する。やや不整形で、南東側で59号土坑と重複するが、切り合い関係は不明である。上幅で南北に160cm、東西に112cmで、確認面からの深さは16cmである。瀬戸系陶器（1）や近世のかわらけ（2）などが出土している。

・69号土坑（第15・25・26・32図、PL19）

E区西よりに位置し、東側、南側は掘削によって壊され、西側は近代の39号溝によって壊されている。また、70号土坑と重複関係があり、70号土坑によっても切られている。このようにすべての部分切られているため、本来の規模は不明である。深さは確認面より22cmである。近世のかわらけ（1）が出土している。

・70号土坑（第15・25・26・33・34図、PL 8・19）

E区西よりに位置する。東側は掘削によって壊され、西側は近代の39号溝によって壊されている。69号土坑と重複関係にあるが、本遺構が69号土坑を切っている。東西方向の規模は壊されているため不明であるが、南北軸は上幅で128cmで深さは確認面より66cmである。最下層に炭化物を含む層（5層）があり、この層から大量の遺物が出土している。

近世の遺物は104点出土している。最新時期は18世紀後半から19世紀前半に位置づく4の肥前系磁器の皿であるが、主体は18世紀前半の頃のものが多く、肥前系磁器は1～11・27、瀬戸美濃系陶器は12～14、生産地不明の陶器（15）も出土している。その他、近世のかわらけ（15～22）もまとめて出土しているほか、その他の生産地不明土器（23・24）、中世の火鉢（25）、瓦（26）、硯（28・29）、刀子（30）、釘（31）など多種にわたって出土している。

・72号土坑（第15・22・34図、PL 8・20）

E区中央部南よりで検出した。上幅で長さ72cm、幅64cm、深さは確認面より13cmである。

近世のかわらけ（1）と門石（2）が出土している。

・76号土坑（第15・24・25・34図、PL 9・20）

E区中央部のやや西よりで検出した。西側を近代の7号集水溝に切られており、本来の規模は不明である。確認できる範囲での規模は上幅で南北方向に100cm、東西方向へは112cmである。深さは確認面より77cmである。

瀬戸美濃系の陶器（1）や釘（2）が出土している。

・80号土坑（第15・24・25・34図、PL20）

E区中央部北よりで検出した。南東隅を近代の13号溝に切られている。確認できる範囲での規模は上幅で長さ152cm、幅100cm、深さは確認面から22cmである。

肥前系陶器（1・2）、瀬戸美濃系陶器（3）が出土している。

・85号土坑（第15・22・23・34図、PL 9・20）

E区東端よりで検出した。ほぼ円形で上幅で径148cm、深さは確認面より19cmである。

瓦が大量に出土し、うち1点を図示した（1）。

・86号土坑（井戸）（第15・22・23・35～37図、PL 9・20・21）

E区南東端で検出した。調査当初土坑と認識したが、その後の調査によって深さがあり井戸枠が検出されたことから井戸であることが明らかになった。円形を呈し上幅で径248cmである。深掘時の崩落が早かったため、正確な深さを測量できていないが、他の井戸より深く、確認面より3m以上の深さがあるのは確実である。底部付近で幅10cm程度の板材を組み合わせた井戸枠を検出したが、底面まで下げる前に崩落し、図化等はできなかった。

出土遺物は炭化物や灰が集中していた2～6層、およびその上層の1層に集中して出土し、それより下層からの出土はほぼ皆無であった。近世に該当する遺物は165点と大量に出土している。時期がおさえられる中では11の肥前系磁器の坏が18世紀後半～19世紀前半に位置づくが、主体は17世紀末から18世紀前半のものが多い。肥前系磁器は1～13で、肥前系陶器は14～17、瀬戸美濃系陶器は18～23、京都・信楽系陶器が24～26である。その他、備前系陶器(27)、志戸呂系陶器(28)、丹波系陶器(29)、堺系陶器(30)なども出土している。また、近世のかわらけ(31～35)、生産地不明の土器(36・37)、瓦(38～44)も出土し、他に、土師器(45)、須恵器(46・47)、埴輪(48)、布目瓦(49・50)などの古代の遺物も一定量出土している。また、鉄製品(52・53)や鉄滓(54)も出土した。

・90号土坑(溝)(第15・21・37図、PL21)

E区北端で検出した。南側は撓乱によって壊されている。C区の16号溝の延長上に位置し、同一の溝であろう。

1は肥前系磁器の小破片であるが、外周が打ち欠かれており、おはじきなどに転用されたものであろう。2は寛永通宝である。

・92号土坑(第15・21・37図、PL21)

E区北端付近で検出した。西側は撓乱によって壊されている。確認された範囲では上幅で長さ212cm、幅56cmである。

肥前系陶器(1)が出土している。

・96号土坑(第15・21・37図、PL21)

E区北端で検出した。上幅で長さ120cm、幅88cm、深さは確認面より9cmである。

1の中世の鉢、2の須恵器の他に小破片ながら近世の陶磁器が3片出土している。

(2) 中世

・27号土坑(第15・17・18・37図、PL10・21)

B区西よりの南側で検出した。9号溝と重複関係にあり、9号溝に東側から南側にかけて切られている。円形プランを呈し上幅の径280cmで、中央部に径32cmの盛り上がりがある。最深部は確認面から42cm、中央部の盛り上がり部分は確認面より33cmの深さである。

中世の白磁皿(1)の他に、古墳時代中期の高坏(2)や滑石(3)が出土している。

・40号土坑(第15・19・20・37図、PL10・21)

B区東よりの南側で検出した。東西軸が340cm、南北軸で116cmをはかる長方形の土坑である。深さは確認面より42cmである。12号溝・6号井戸と重複関係にあり、前者に切られ、後者を切っている。

中世のかわらけ(1～3)が出土したほか、平安時代の羽釜(4)が出土している。

・66号土坑(第15・28・38図、PL10・21)

D区で検出された遺構であるが、中央部から南側は、撓乱及び近代の遺構によって壊されているため詳細な規模は不明であるが、かろうじて残存する場所で、上幅312cm、下幅112cmである。東西方向に軸をもち、深さは最深部で確認面より105cmと深く、北側壁面は2段になっている。残存状況が悪いため、不明な点が多いが、東西方向に走る溝の可能性がある。

出土遺物は6の瓦を除き、中世遺物が20点出土している。第38図にはそのうち図化可能な5点を示している。近世遺物が基本的に混じっていないため、6については混入遺物の可能性が高い。

・71号土坑(第15・25・26・38図、PL10・22)

E区西よりの北側で検出された。近世の70号土坑と重複関係にあり切られ、西側は近代の39号溝に切られている。北西方向から南東方向に軸をもち長軸200cm、短軸112cmである。北西側の壁面上部はオーバーハングしてい

た。北西側は深く確認面から115cmの深さであり、南東側は浅くなっており確認面から55cmの深さであった。覆土には地山の黄褐色土に崩落した層があり、天井があったことがうかがえ、地下式坑の可能性が高い。

出土遺物は、中世の内耳土器、播磨の小破片が3点出土し、他に古代の須恵器（1・3・4）、灰釉陶器（2）などが出土している。

（3）古代

・28号土坑（第15～18・38図、PL22）

B区中央部で検出された。上幅で長さ76cm、幅56cm、深さは確認面より15cmである。

ほぼ完形の須恵器（1）が出土している。

・48号土坑（第15・21・38図、PL22）

C区の南東端で検出された。東側が調査区外にのびる。確認できる範囲の上幅で長さ136cm、幅76cmである。

灰釉陶器（1・2）が出土している。

・50号土坑（石槨墓）（第15・20・21・39・40図、PL11・22）

C区中央部で検出され、構造・出土遺物の特徴から石槨墓と考えられる。北東部のピットを切る。掘り込みの規模は長辺24m、短辺112m、残存深度は確認面より32cmであり、石槨内法は長辺19m、短辺06m、残存深度は確認面より25cmである。主軸は南北方向である。石積みによって壁体を構築しており、床面には扁平河原石を配している。上層には拳大の礫が多数混入しており、南西部の側壁が崩落したものと思われる。

礫の積み方をみると、長辺側は長円形の河原石を主に用い、長手を意識して積まれるが、2段目については均整があまり取れていない。間隙への粘土などの充填は認められない。床面には扁平河原石を2列に飛び石状に配し、北部端では1個を中央に配する。これについては、隣接する石に若干被さること、平坦面を内側にやや傾けていること、さらに北側に位置することなどから枕石の可能性も考えておきたい。床面の扁平河原石の間には、石の上面と同じレベルまで砂粒が充填されており、この面が棺床となる。

遺物は須恵器蓋（1）、土師器杯（2）、鉄製刀子（3・4）、鉄釘（5～25）、滑石製白玉の未製品・製品（26～57）が出土している。須恵器蓋は北西部の上層から、鉄製刀子（3）は北部中央の床面付近から出土しており、須恵器は木棺上に、鉄製刀子は被葬者の胸元におかれた可能性がある。鉄釘はいずれも断面方形を呈し、頭部はL字状に折れ曲がる。鉄釘には棺材と思われる木質が付着しており、板材の厚さは2cmである。これらの鉄釘がある程度単位位置を保っているものと仮定して以下検証を行う。分布状況を見ると、5は木棺の北西角、9・13・16は北東角、11は南西角に位置し、この木棺は長さ約175m、幅約045mほどに復元される。特に北部のものについては原位置を良好に保っていると思われ、これらの出土位置・方向・木目の付着状況から木棺の構造について検討すると、5・9については小口板側から側板に向かって打たれたもの、6は棺蓋の短辺側に打たれたものと考えられる。このことから、側板を小口板でおさえ、板状の棺蓋を打ち付けた構造であったと考えられ、小口板を側板でおさえる例が多数であることを考えると比較的珍しい構造といえよう。小口板と側板の組み合わせは、単純なるはさみ込みであったか納組であったか不明である。棺材の木目の方向は、側板は水平方向であり、小口板は6の木目方向をみると垂直方向となるが、13・16の木目と矛盾するため不明確である。底板については下から上に向けて打たれた鉄釘が確認できないため、初めから存在しなかった可能性も考慮しておきたい。17・20は下位からの出土であるが、出土位置および先端部に横方向の木目が付着していることを考慮すると、棺蓋から側板に向けて打たれた可能性が高い。同様の特徴を有するが出土位置の明確でない10・18・19・22・24についても、棺蓋の長辺側に打たれたものである可能性がある。ただし、小口板と側板の組み合わせが納組であったと仮定すると、側板から小口板に向けて打たれた場合にも同様の木目方向となるため、部位の断定はできない。

滑石製白玉については覆土の洗浄中に検出されたものであり、未加工品から製品までの各工程のものが存在する。古墳時代中期頃のものが混入したと思われる、近辺で玉造りを行っていた可能性があることを示唆している。

・79号土坑（第15・24・25・40図、PL12・23）

E区中央部で検出された。北側を別のピットに切られている。上幅で長さ88cm、幅56cm、深さは確認面より40cmである。

須恵器（1～3）や土師器の台付甕（4）が出土している。

・95号土坑（第15・22・40図、PL12・23）

E区東端で検出された。東側は調査区外にのびる。確認された範囲の幅で長さ92cm、幅56cmで、深さは確認面より30cmである。

須恵器（1・2）やS字甕の台付甕（3）が出土している。

（4）時期不明

・49号土坑（第15・21・40図、PL23）

C区南東端付近に位置する。東側は調査区外にのびる。確認された範囲の上幅で長さ100cm、幅72cmである。大形の布目瓦（1）が出土しているが、小破片で中世の内耳土器が1点出土している。

・97号土坑（第15・27・40図、PL23）

F区北西で検出された土坑で、長さ120cm、幅112cm、深さは確認面より18cmである。

縄文時代の打製石斧（1）が出土しているが、近世の遺物も小破片で出土している。

2）性格不明遺構

（1）近世

・1号性格不明遺構（第15・16・41・42図、PL12・23）

A区中央部から西側にかけての広範囲にわたって検出された土坑状の浅い掘り込みである。近代の39号溝に東側を切られているが、この39号溝をまたぎ4号土坑付近まで続いている。西側は近代の1号溝に切られている。確認される範囲の規模は上幅で南北に7.6m、東西に7.36m、深さは確認面より30cmである。覆土は基本層序でふれているが、土層相当の土が堆積している。

肥前系磁器（1～4）、瀬戸美濃系陶器（5・6）、志戸呂系陶器（7）、堺系陶器（8）などの陶磁器が出土し、他に近世のかわけ（9・10）、植木鉢（11）、火鉢（12）、瓦壇（13・14）、焼塩壺（15～18）などの生産地不明の土器が出土した。中世の遺物としては面子状に外周を打ち欠いた白磁（19）、かわかけ（20）、内耳土器（21）、古代の遺物として布目瓦（22）が出土し、また、鉄滓（23）、寛永通宝（24）、刀子（25）などが出土した。

18世紀後半に位置づく6や18世紀末に位置づく8があるが、主体は18世紀前半頃である。

・2号性格不明遺構（第15・18・42・43図、PL24）

B区西端で検出された。近代の1号建物に切られているが、確認された範囲の上幅で南北に7.36m、東西に5.2mの規模で土坑状の浅い掘り込みである。覆土は基本層序でふれたが、土層相当の土が堆積している。

出土遺物は18世紀代まででほぼおさまり、19世紀以降に位置づく遺物は混入遺物と考えられるガラスが1点、レンガが2点出土しているのみである。1～5が肥前系磁器、6・7が肥前系陶器、8～13が瀬戸美濃系陶器、14は備前系陶器である。近世のかわけは15～19、20・21は瓦である。22は大形の鋳型片である。23は硯、24～27は寛永通宝である。

・3号性格不明遺構（第15・19・20・44図、PL25）

B区南東端で検出された。中央部、北側を掘削で切られている。確認されている範囲の上端で東西に5.6m、南北に4mをはかる土坑状の浅い掘り込みである。深さは確認面より35cmである。

18世紀前半までにおさまるものが多いが、19世紀代に位置づくものも少量出土している。1～5は肥前系磁器、6は瀬戸美濃系磁器、7は肥前系陶器、8・9は瀬戸美濃系陶器、10は近世のかわけである。11は瓦、12は寛永通宝である。

・1号性格不明遺構（C区）（第15・19・44図、PL25）

A区に同一遺構名があるが、遺構名の変更は行わず、調査区が異なるため、そのままの名称にする。

C区北端に位置する。確認された範囲で南北に200cm、東西に180cmをはかる土坑である。深さは確認面から10cmと浅い。隣接するB区ではこの続きが検出されていないが、遺構深度が浅いことと、遺構確認レベルの違いからである。

寛永通宝（1）が出土している。

3) 井戸

(1) 近世

・5号井戸 (第15・19・44・45・46図、PL12・25)

B区東端付近で検出された。上部は攪乱で壊されていたが、攪乱を除去した時点で検出された遺構である。上幅の径120cm、深さは確認面より212cmである。

遺物は大量に出土し、近世の遺物で72点出土した。最新時期は18世紀前半から中葉で、主体は18世紀前半におさまるが、いわゆる初期伊万里といわれる17世紀前半の肥前系磁器(7)も出土し、時期幅はややある。1～9は肥前系磁器、10～13は肥前系陶器、14～19は瀬戸美濃系陶器、20は京都・信楽系陶器、21は志戸呂系陶器である。22～26は近世のかわらけ、27は平底のほうろくで補修孔が4箇所認められる。28・29は瓦、30は鯉瓦片である。31は刀子の鞘部分である。

・8号井戸 (第15・21・46・47・48図、PL12・26)

C区南端付近に位置する。上幅で径116cmで、深さは確認面より270cmである。

近世の遺物は165点と大量に出土した。18世紀中葉から後半に位置づけるのが数点あるが、17世紀末から18世紀前半までに位置づけるのが主体である。また、16世紀後半の染付皿E群(6)や17世紀前半の瀬戸美濃系の皿(27)などもあり時間幅はある。

6は中国製の染付皿、1～5、7～15は肥前系磁器、16～23は肥前系陶器、24～33は瀬戸美濃系陶器、34・35は志戸呂系陶器、36は丹波系陶器である。37～39は近世のかわらけ、40は焼塩釜である。

・10号井戸 (第15・21・48図、PL13・26)

C区南西端付近に位置する。南側は調査区外にのびる。確認された範囲で径140cmをはかる。深さは確認面より280cmである。

調査区の関係上、遺構の半分のみの調査であったが、近世の遺物は60点と多く出土した。18世紀中葉が最新時期で、主体は18世紀前半までである。1・2が肥前系磁器、3・4が瀬戸美濃系陶器、5・6は近世のかわらけ、7・8はほうろくで8は底部内面にスタンプ文がある。9は瓦である。

(2) 中世

・2号井戸 (第15・17・18・49図、PL13・27)

B区北西端付近に位置する。確認面における径は204cm、上部は漏斗状に広がる。深さは確認面より310cmである。上層の3・4層には大量の礫が含まれて、3はそれらの礫に混じって出土している。

1は中世のかわらけ、2・3は内耳土器である。

・3号井戸 (第15・17・18・49図、PL13・27)

B区南西端付近に位置する。近代の3～6号東に四隅を壊されていたが、中央部は残っていた。確認面での径は324cm、上部で漏斗状に広がっている。上層には大量の石が崩落した状況で検出された。北側で最下段の石が残っていたため、これらの石は上部に積まれていた石が崩された石と推測される。

遺物はこれらの石に混じって上層で出土した。古代の遺物が247点出土したが、小破片が大部分を占める。一方、中世の遺物も14点出土しており、この井戸の廃絶年代は遺物の最新時期の中世にあたるであろう。

中世のかわらけ(1・2)の他に、灰釉陶器(3)、須恵器(4～8)を図示した。

(3) 古代

・14号井戸 (第15・21・23・49図、PL14・27)

E区北端で検出した。上部は攪乱によって削平されていたが、攪乱を除去したところ確認された。13号井戸と重複関係にあり、本遺構は切られている。上部の径は136cmで、深さは確認面より175cmである。上層には礫が大量に入り、その中から2が出土している。

中世以降の遺物はなく、残存率の良い2の羽釜の時期に廃絶された井戸になるであろう。他に1の布目瓦片が出土している。

(4) 時期不明

- ・6号井戸 (第15・19・20・49図、PL14・27)

B区東よりの南側で検出した。径112cmで、深さは確認面より310cmである。40号土坑と重複し、本遺構が切られている。中世のかわらけが小破片で2点、古代の遺物は小破片で33点出土している。

須恵器(1)と滑石製品(2)を图示した。

4) 柱穴

本調査では多くの柱穴が確認されたが近代以降の土地利用、あるいは調査区外に柱の並びがのびることによって、明確に掘立柱建物跡と認定できるものは認められなかった。しかしながら、例えば、3本程度が等間隔に並び例は何箇所かで確認されているため、そうした柱穴の並びについて以下に報告する。その他、柱穴出土の遺物についてもふれておく。なお、基本的には柱穴については出土遺物が僅少のため、正確な時期は特定できないが、その大部分は中世から近世の時期と想定しておく。

- ・P102～P105 (第16・17図)

A区東側で検出されている。柱間は芯々距離で、P102～P103間で200cm、P103～P104間で232cm、P104～P105間で244cmである。P102～P104では底面に径30cm程度の平らな川原石が置かれている。なお、P105は東側を近代の1号建物跡に切られており、本来は川原石があった可能性も考慮される。P102・P103の東西方向の並びは東側に続くとは推測されるが、調査区外にのびるため不明である。P103～P105の並びは北側にのびるか東側に曲がると推測されるが、北側の延長先には攪乱があり、また、東側の延長先は近代の1号建物跡にあたるため、詳細は不明である。

- ・P553～P555 (第25・26図)

E区西端で検出した。柱間は芯々距離で160cmずつである。北側が調査区外にのびる。

- ・P557～P559 (第25・26図)

E区西端付近で検出した。柱間は芯々距離で188cmずつである。北側が調査区外にのびる。

- ・P560・P569 (第25・26図)

E区西端付近で検出した。柱間は芯々距離で220cmである。

- ・P555・P572・P569・P567・P563・P549 (第25・26図)

E区西端付近で検出した。柱間は芯々距離で、P555～P572間で148cm、P572～P569間で100cm、P569～P567間で144cm、P567～P563間で100cm、P563～P549間で80cmである。なお、P569で柱痕が確認されている。

- ・P619～622 (第28図、PL14・15)

F区で検出した。柱間は芯々距離で、P619～P620間で90cm、P620～P621間で90cm、P621～P622間で132cmである。P619、P620で柱痕が確認されている。

- ・柱穴から出土した遺物 (第50・51図、PL14・27・28)

柱穴から出土した遺物を第50・51図に示した。P57・P106はA区で検出、P223～P388はB区で検出し、P472～P531はC区で検出、P561～P611はE区で検出した。

P611では須恵器(1)、土師器の坏(2)、土師器の甕(3)がまとまって出土している。

5) 建物跡

(1) 時期不明

- ・2号建物跡 (第16・17図、PL15)

A区中央部の北側で検出された。東側と北側は攪乱等によって残りが悪い。確認された範囲では長さ4.52m、幅3.68mである。深さは確認面より25cmである。壁際に柱穴が集中する。炉跡や竈は検出されていない。

出土遺物は皆無であるが、壁際に柱穴が集中するなどの特徴から、中世の方形堅穴遺構の可能性が考えられる。

6) 溝

(1) 近世

- ・32号溝 (第22・23・51図、PL15・28)

E区東側に検出された。西側は復乱によってほとんど壊されている。確認できる範囲で長さ440cm、幅108cm。深さは確認面より20cmである。

肥前系磁器（1）、瀬戸美濃系陶器（2）、古墳時代前期の土師器（3）、鉄滓（4）が出土している。

・38号溝（第27・52図、PL28）

F区の北西端から南端に走行する溝である。確認できる範囲で幅140cm、深さは確認面より44cmである。

肥前系磁器（1）、土製の耳飾状製品（2）、基石（3）が出土している。

（2）中世

・9号溝（第17・18・52図、PL16・28）

B区の中央付近を北から南に走行し、27号土坑付近で南西方向へ蛇行する。北側と南側は調査区外にのびる。近代の1号建物跡や掘削に一部を切られているが、比較的残っている方の遺構である。上幅で幅70cm、深さは確認面より40cmである。

古代の遺物が47点出土し、1の土鍬や2の布目瓦が出土しているが、中世の遺物も小破片であるが内耳土器が6点出土しており、最新時期の中世の遺構であろう。

・12号溝（第19・20・52図、PL16・28）

B区のやや東よりで検出した。南北方向に走行する。32・40号土坑と重複し、いずれも本遺構が切っている。

出土遺物は古代の遺物が小破片で171点出土し、1の布目瓦や2の須恵器などが出土しているが、中世の遺物も小破片であるが6点出土している。最新時期の中世の遺構であろう。

・16号溝（第19・21・23・51図、PL15・28）

C区の西側で検出された。北側が近代の2号集水溝によって壊されているが、延長ライン上にB区の12号溝が検出されており、両者は同一の溝の可能性があるだろう。幅124cm、深さは確認面より60cmである。15号溝と重複関係にあり本遺構は切られている。

出土遺物は近世の陶磁器が小破片で3点出土し、他に中世が6点、古代が小破片で116点出土している。中世の遺物は比較的残存率がよく、1は白磁の面取盃、2はかわらけ、3は鉢である。

・15号溝（第21・23・52図、PL15・28）

C区南西で検出した。16号溝と重複関係にあり、本遺構は16号溝を切っている。南にいくにしたがつて浅くなりC区南端では掘りこみが認められなくなる。幅112cm、深さは確認面より45cmである。

出土遺物は中世の遺物が小破片で8点、古代の遺物が29点出土し55図には中世のかわらけ（1・2）、内耳土器（3）、須恵器（4）を図示した。

（3）古代

・18号溝（第19・52図、PL18）

C区北東で検出した。北西方向から南東方向へのび、南東方向は調査区外にのびる。幅96cm、深さは確認面より18cmである。

古代の遺物のみの出土で、須恵器（1）を図示した。

7）遺構外出土の遺物（第53～66図）

遺構外から出土した代表的な遺物について以下に報告するが、A区、及びC区ではⅢ層が厚い場所も多く、Ⅲ層を除去するにあたって人力で掘削した。掘削の際には一部でグリットを組んで取り上げを行っているが、特に、グリットごとの傾向は見受けられないこともあり、Ⅲ層一括として報告する。

A区のⅢ層出土遺物は第53～56図に掲載している。A区の中央部より東側で出土している。1～8は肥前系磁器である。このうち、6は鍋島で、また、7・8の南川原窯産の磁器は江戸遺跡においても大名屋敷クラスで出土するものである。9は瀬戸美濃系磁器で大正・昭和期のものである。10～13は肥前系陶器である。14～18は瀬戸美濃系陶器、19は京都・信楽系陶器、20は丹波系陶器、21は堺系陶器である。22～29は近世のかわらけ、30～35は生産地不明の土器類である。36・37は16世紀末～17世紀初頭の中国製の染付皿、38は瀬戸美濃系の天目茶碗で大窯期であろう。39～46は瓦で、46は鯉瓦である。47は煙管をつぶした雁首銭、48～51は寛永通宝で、

53は鉄銭の寛永通宝である。52は宝永通宝（宝永5年（1708）铸造）で裏面の外周部に「永久世用」の文字が鋳込まれている。54は一分金で、表面の「光」の6画目と「次」の4画目が離れており、享保一分金（享保元年～元文元年（1716～1736）铸造）の特徴を有している。長さ1.7cm、幅1.05cm、厚さ0.15cmで重さは4.45gである。裏面の「光」の6画目末端部分に欠損部があるが、それ以外の場所は傷がなく完形である。表面の上部に順棒に五三の桐文、中央部に「一分」の文字、下部に五三の桐文が刻印されている。裏面の上半分に「公次」、下半分に花押が刻印されている。A区東端中央付近で出土し（第16図）、1号建物跡に切られずに残っていた場所である。出土レベルは96.176mである。55・56は硯、57・58は牛伏砂岩製の五輪塔、59は布目瓦である。

A区の表土一括は第56図に掲載している。1は寛永通宝、2は永楽通宝で2枚重ねになっている。3・4は銭種不明である。

A区の攪乱土中から出土した遺物として第56図にA区かく乱一括として掲載している。1は中世の常滑の口縁部である。2は布目瓦片である。

B区のⅢ層出土遺物は少なく、第57図の1に火打ち金を図示した。

B区の表土一括も第57図に掲載した。肥前系磁器は1、3、4、肥前系陶器は2、瀬戸美濃系磁器は5、瀬戸美濃系陶器は6、志戸呂系陶器は7である。8・9は近世のかわらけで、10は中世のかわらけである。11～14は瓦、15は寛永通宝である。16は硯であるが、幅2.7cm、長さ4.2cmとミニチュアである。

B区の攪乱土中から出土した遺物として第58図にB区かく乱一括として掲載している。1は肥前系磁器、2は瀬戸美濃系陶器の碗であるが、内底面付近に茶気痕が認められる。3は中世のかわらけ。4は鬼瓦片である。5は紡錘車、6は皇樂通宝である。

C区のⅢ層一括遺物は多く、第58図～63図に掲載した。1～27は肥前系磁器である。2はヨーロッパ向けの製品で、16は高麗茶碗の模倣品である。28は中国製の白磁皿B群、29～38は肥前系陶器、39～50は瀬戸美濃系陶器、51～56は京都・信楽系陶器である。57は志戸呂系陶器、58は丹波系陶器、59は堺系陶器、60は生産地不明陶器である。これら陶磁器の主体は18世紀前半頃になる。61～65はかわらけで、66～68は生産地不明の土器で、66は火鉢、67は焼塩壺の蓋である。68は近世の鍋である。69は瀬戸美濃系の天目茶碗で古瀬戸期のものであろう。70は瀬戸美濃系の古瀬戸後期Ⅳ期新段階の腰折皿であらう。71は中世の内耳土器で外周を打ち欠いて面子状に利用している。72も中世の腰鉢である。73は瓦、74・75は須恵器、76・77は礫石、78は砥石、79は角閃石安山岩製の五輪塔の水輪、80は石臼、81は寛永通宝である。

C区の表土一括は第63図に掲載した。1が肥前系磁器、2が肥前系陶器、3が瀬戸美濃系陶器、4は京都・信楽系陶器、5は生産地不明陶器である。6・7は焼塩壺の蓋、8・9は瓦である。10は永楽通宝、11・12は寛永通宝である。

C区の攪乱土中から出土した遺物として第64図にC区かく乱一括として掲載している。1は肥前系磁器、2は肥前系陶器、3は京都・信楽系陶器、4は土人形、5・6は瓦、7は寛永通宝である。

D区の表土一括は第64図に1点掲載した。1は瓦である。

D区の攪乱土中からの出土遺物は第64図に掲載した。1から3は近代の瀬戸美濃系磁器であるが、外底面にそれぞれ窯番号が記されている。

E区のⅢ層中からの少なく、第64図に3点掲載した。1は志戸呂系陶器、2は菅玉、3は須恵器である。

E区の表土一括は第64図に掲載した。1は肥前系磁器、2は瀬戸美濃系陶器、3・4は瓦である。

E区の攪乱土中からは比較的多く出土し、第65図に掲載した。1・2、4～7は肥前系磁器、3は近代の瀬戸美濃系磁器、8～10は瀬戸美濃系陶器だが、9は内底面に印花文が施された大瀬戸Ⅰ段階の皿であらう。11は志戸呂系陶器、12は生産地不明陶器、13は近世のかわらけ、14はほうろく、15・16は焼塩壺、17・18は瓦である。

F区の攪乱土中からの出土遺物は第66図に掲載した。1は肥前系磁器、2・3は近代の瀬戸美濃系磁器である。2は外面に「學」、3も底部外面に「學」の字があり、昭和27～36年の高崎経済大学の校舎として1号建物跡が使われていた頃のものであろうか。4は生産地不明の陶器、5は焼瓦片、6・7は砥石である。

遺跡一括として第66図に2点図示した。1は寛永通宝、2は煙管である。

第4章 調査のまとめと課題

第1節 古墳時代～古代

今回の調査では、堅穴住居跡が確認されなかったように、全般的に残りがよい状況ではなかった。そうした中で、C区で確認された50号土坑は大きな成果となった。

50号土坑で出土した第39図1はかえりを有し、環状の蓋になっており、その特徴から7世紀末から8世紀前半に位置づく須恵器である。木質の付着した釘が20点出土し、木棺を止める釘と推測される。このことから石柵内に木棺が納められていたと想定され、この時期の墓制を考える上での貴重な成果となった。

なお、この50号土坑から出土した白玉の未製品は不掲載資料で未加工の滑石が394g、何らかの加工痕がある滑石は68g出土し、うち孔が有るのは32g出土した。古墳時代中期と推測され、石部墓とは直接の関係性はないものである。高崎城遺跡16次調査においても大量の未製品が出土しているように、調査地周辺でこうした製作工房があったことを示しており、今後の調査においても注意が必要である。

その他、平安時代の布目瓦が53点出土した。9次調査においても一定量出土しており、調査地周辺に概期の寺院があったと推測される。

第2節 中世

中世の遺構も残りがよい状況ではなく、目立った遺構としては地下式坑と推測されるE区の71号土坑、及びB区の2・3号井戸である。しかしながら、600基以上の柱穴のうち、中世に該当する柱穴も相当数に上ることも想定できる。いずれにしても、出土遺物から詳細な時期比定できる遺構は限られている。一方、調査地からは中世遺物が比較的時間幅をもって出土している。

11号井戸の1（第30図）は同安瀬系の青磁碗で12世紀後半代に比定され、当遺跡の中世で最も古い時期に位置づく。その後空白期があり、15世紀前半になると遺物が出土するようになる。66号土坑の1（第38図）の器高が高いかわけ、34号土坑の2の口縁部が短い内耳土器（第31図）、16号溝の1（第51図）、C区Ⅲ層一括の28（第59図）の白磁の面取蓋が15世紀前半に該当する。

15世紀後半はB区かく乱一括の3（第58図）の口唇部が突るかわけ、6号集水橋の1（第29図）の口唇部が外面にとび出していない内耳土器が該当する。

16世紀前半から中葉は40号土坑の1～3（第37図）、2号井戸の1（第49図）のように口唇部が丸味をおびるかわけ、2号井戸の3（第49図）の口唇部が外にとび出る形態の内耳土器、27号土坑の1（第37図）の白磁皿C群、E区かく乱一括の9（第65図）の瀬戸美濃の皿などが該当する。

16世紀後半から17世紀初頭は在土土器、瀬戸美濃はなく、近世の8号井戸の6（第46図）やA区Ⅲ層一括の36・37（第55図）の染付皿が該当するが、これらは伝世品であろう。

以上のように遺物が出土しているが、15世紀から16世紀中葉にかけてが本遺跡で比較的中世の遺物がまとまる時期で、16世紀後半から17世紀初頭は在土土器が出土していないように本遺跡周辺ではあまり土地利用されていない時期にあたるであろう。

第3節 近世

調査前には二の丸と西の丸を区画する堀が検出されることも予想されたが、堀については調査区外の西側に位置するよう検出されなかった。そのため、井戸や土坑などが今回の調査では主な遺構になり、5・8・10号井戸や70・86号土坑などで大量の遺物が出土した遺構があった。その他、柱穴の相当数は近世に該当するだろう。

近世の土器・陶磁器は接合後破片数で計2862点も出土した。調査面積は1,134㎡のため、㎡あたり0.396点だった。本丸堀から二の丸堀、及び三の丸の一部を調査した19次調査では㎡あたり0.103点であり、今回調査地はそのおよそ4倍程度の出土量があったことになる。こうした遺物のうち、特に5号井戸からは72点、8号井戸からは165点、10号井戸からは60点、70号土坑からは104点、86号土坑からは165点と井戸を中心に大量の近世の一括遺物が出土

している。

これら一定量以上の遺物が出土した遺構の土器・陶磁器の産地別組成について以下に検討する。

5号井戸の遺物で最新時期は18世紀前半から中葉で、主体は18世紀前半までである。そのため、下限は18世紀中葉で、その時期までに廃棄された遺物群である。接合後破片数で72点出土し第5表1のような組成である。

8号井戸の遺物で最新時期は18世紀中葉から後半に位置づけるのが数点あるが、主体は17世紀末から18世紀前半までのものである。そのため、下限を18世紀中葉から後半において、その時期までに廃棄された遺物群ととらえられるだろう。第5表2に示した組成である。

10号井戸の遺物は、18世紀中葉が最新時期で、主体は18世紀前半までである。そのため、18世紀中葉を下限において、その時期までに廃棄された遺物群ととらえられるだろう。第5表3のような組成である。

70号土坑の遺物は、18世紀後半から19世紀前半代に位置づけるのが1点あるが、主体は18世紀前半の頃のものが多い。そのため、18世紀後半から19世紀前半代を下限において、その時期までに廃棄された遺物群ととらえられるだろう。第5表4のような組成である。

86号土坑の遺物は18世紀後半～19世紀前半に位置づけるのが2点あるが、主体は17世紀末から18世紀前半に位置づけるものである。そのため、18世紀後半から19世紀前半代を下限において、その時期までに廃棄された遺物群ととらえられるだろう。第5表5のような組成となっている。

上記の遺構については下限についてはやや幅があるものの、17世紀末～18世紀前半に主体をおいているのが共通しており、大きくはこの17世紀末～18世紀前半にかけての組成を反映しているといえる。そのため、これらの遺構の数値をまとめたものを第5表6として提示した。また、高崎城遺跡の調査で唯一データ化されている19次調査における幕末期の井戸・土坑をまとめたデータを第5表7としている。第5表6と第5表7の比較を行うと、肥前系磁器についてはほとんど比率が変わらないが、第5表7では肥前系陶器がまったくなくなっていることがわかる。一方、瀬戸系美濃系磁器、及び生産地不明陶器が増加している。こうした事象については、瀬戸系美濃系磁器が19世紀になって本格的に普及するなど、時間的な変化を反映している。ところが、もう一つ大きな変化があり、それは生産地不明土器の組成が異なっていることである。第5表7では7%の組成に対し、第5表6では29%となっており、幕末になると激減していることがわかる。特に、この生産地不明土器の中でかわらけの出土量は大きく異なっている。18次調査の5号井戸では7点(10%)、8号井戸では41点(25%)、10号井戸では12点(20%)、70号井戸では38点(37%)・86号土坑15点(9%)となり各遺構の総合計では総数113点(20%)という組成であるのに対し、19次調査の各遺構の総合計は2点(0.004%)という極めて低比率の組成である。このことは、時間的な変化を示しているかもしれないが、もうひとつは何らかの場の違いを示している可能性もある。いづれにしても、今後過去の高崎城遺跡の調査も含めて、こうしたデータ化を行なって比較することによって各調査地の性格等がさらに明らかになっていくであろう。

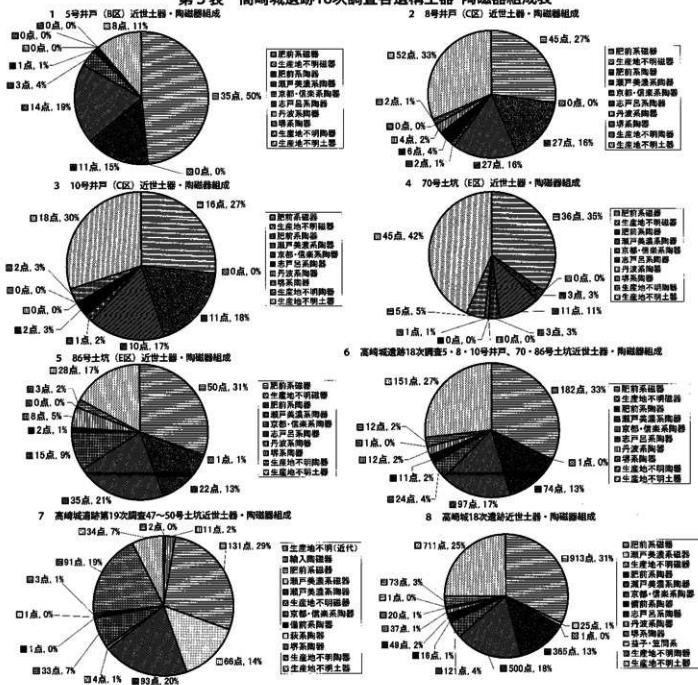
なお、今回の調査では鍋島焼が2点出土している(30号土坑1(第30図)、A区Ⅲ層一括6(第53図))。高崎城遺跡では今までに城下町の松物町遺跡、城内の三ノ丸内で計12点出土している(清水2005)が、こうした比較も今後課題になっていくであろう。

さて、今調査地は遺物が大量に出土した5・8・10号井戸、70・86号土坑に代表されるが、遺跡全体としても17世紀末から18世紀前半が主体となっており、特に19世紀代の遺物はほとんど出土しなかった。遺跡全体の組成として第5表8に示したが、第5表6とほとんど変わらない組成になっていることから、こうした遺跡全体の動向がうかがえる。調査地の絵図では19世紀前半に芝間として描かれており、遺物の消長から18世紀後半にはすでに芝間であった可能性が今回の調査によって高くなったといえよう。

第4節 近代

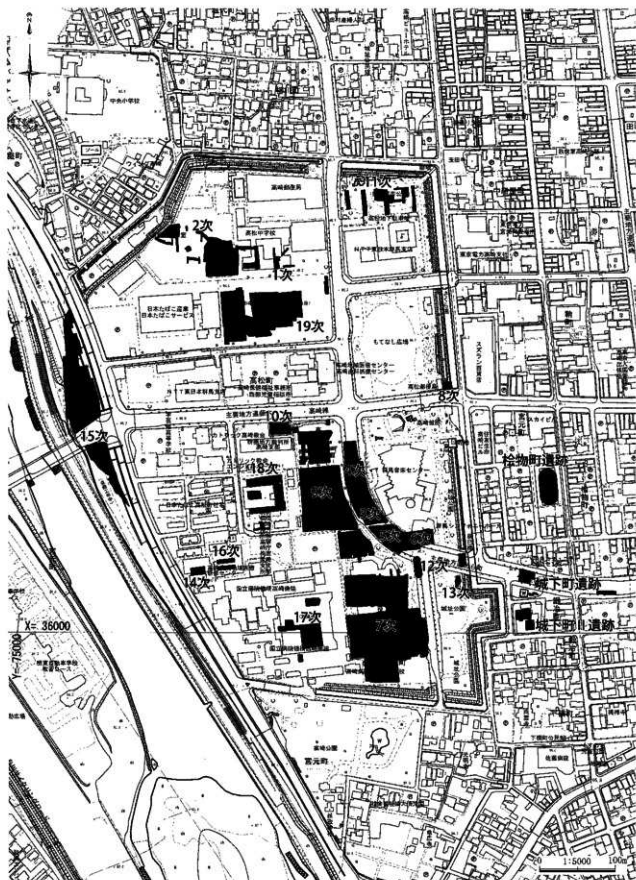
歩兵第15連隊に関わる遺構は調査前から検出されることが予想され、1号建物跡とした15連隊の第3兵舎、及びその後高崎経済大学、さらに東京農業大学第2高等学校の校舎として昭和38年まで使われた建物の基礎が検出された。また、この建物にともなう、水道管、溝、集水机など多くの施設が検出された。

第5表 高崎城遺跡18次調査各遺構土器・陶磁器組成表



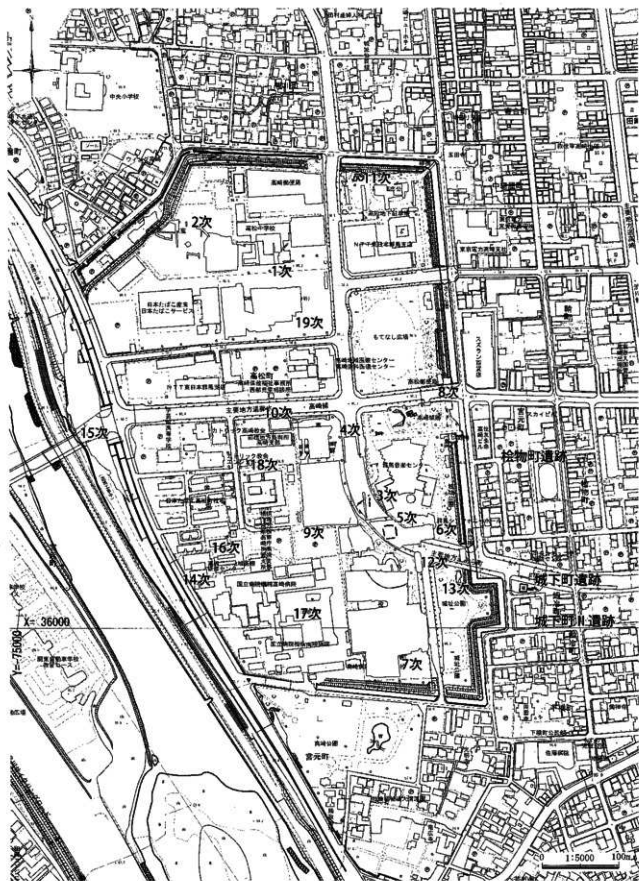
参考文献

- 秋本太郎2010「第4章第4節4 高崎城遺跡19における近世陶磁器の特質」『高崎城遺跡19』高崎市文化財調査報告書第299集 高崎市教育委員会
大西雅也2006『高崎城XV遺跡』(財)群馬県歴史文化財調査事業団調査報告書第309集 四十文編著。(財)群馬県歴史文化財調査事業団
久保幸博他1999『高崎城遺跡Ⅲ・Ⅳ・Ⅴ 坪ノ形形遺跡・坪ノ形形及び三ノ丸遺跡・東門及び三ノ丸遺跡』高崎市文化財調査報告書第107集高崎
市教育委員会
徳澤幸史2010『萩原遺跡』(財)群馬県歴史文化財調査事業団調査報告書第500集 東日本高速道路株式会社。(財)群馬県歴史文化財調査事業団
清水 豊2005『高崎藩の考古学』かみつけの博物館
関口俊明2003『久々戸遺跡・中堀Ⅱ遺跡・下原遺跡・横堀中村遺跡』(財)群馬県歴史文化財調査事業団調査報告書第319集 (財)群馬県歴史文化
財調査事業団
土屋喜美2006『高崎城絵図 - 櫻井一雄家文書を中心に -』高崎市史資料集1 高崎市
中村 茂1994『高崎城三ノ丸遺跡』高崎市教育委員会
中村 茂2001『歩兵第十五連隊第二共会の建築年代について』『高崎市史研究』第13号 高崎市
日本貨幣協同組合2008『日本貨幣カタログ』



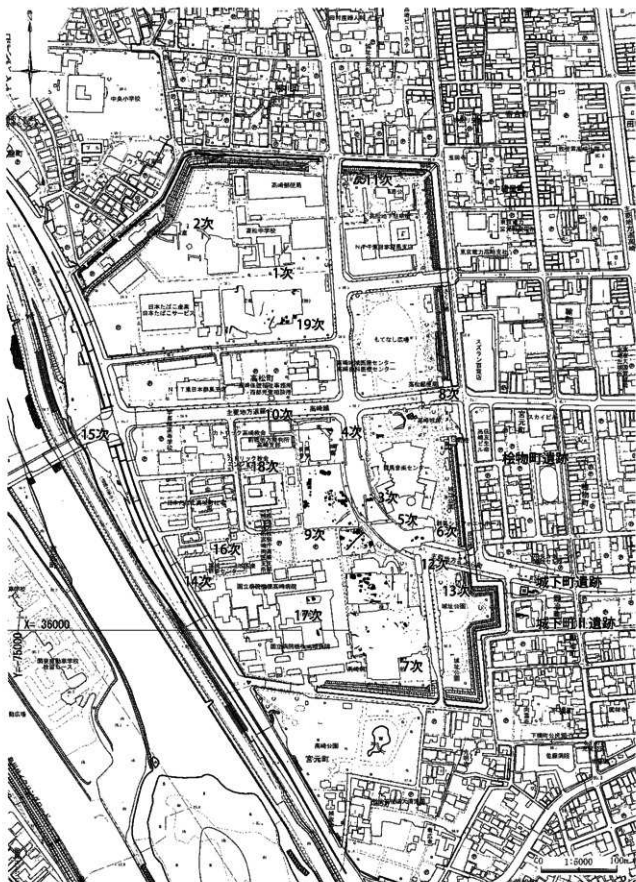
2500分の1『高崎市都市計画基本図』を50%縮小し、これまでの調査区を合成した図である。調査区の座標が不明なものなどがあるため、8・11・12次調査、及び松物町遺跡についてはおおむねの位置を示している。

第1図 高崎城遺跡周辺の発掘調査位置図



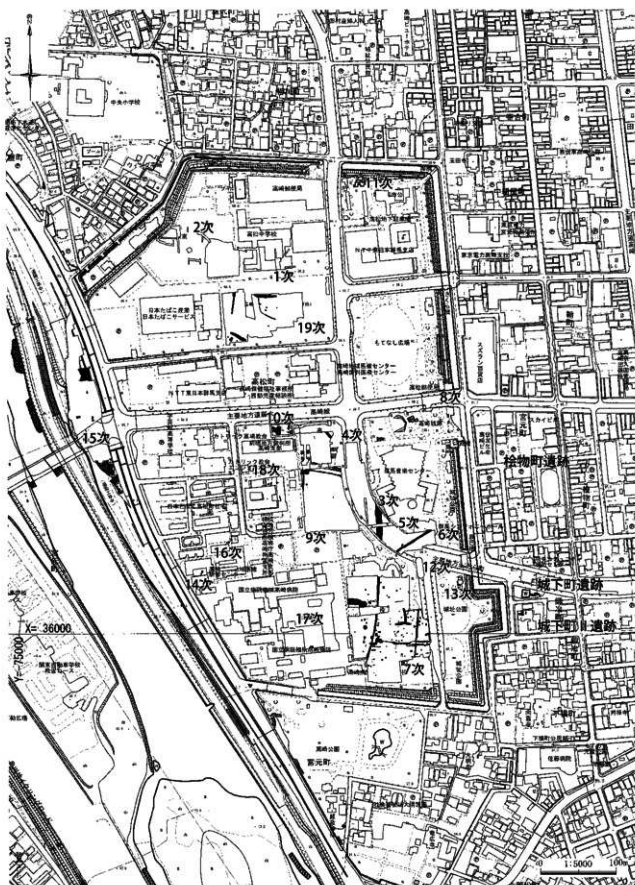
第1図同様、2500分の1「高崎市都市計画基本図」を50%縮小し、これまでの調査区を合成した図である。調査区の座標が不明なものなどがあるため、8・11・12調査、及び松物町遺跡についてはおおむねの位置を示している。

第2図 高崎城遺跡周辺の遺構分布図（弥生時代）



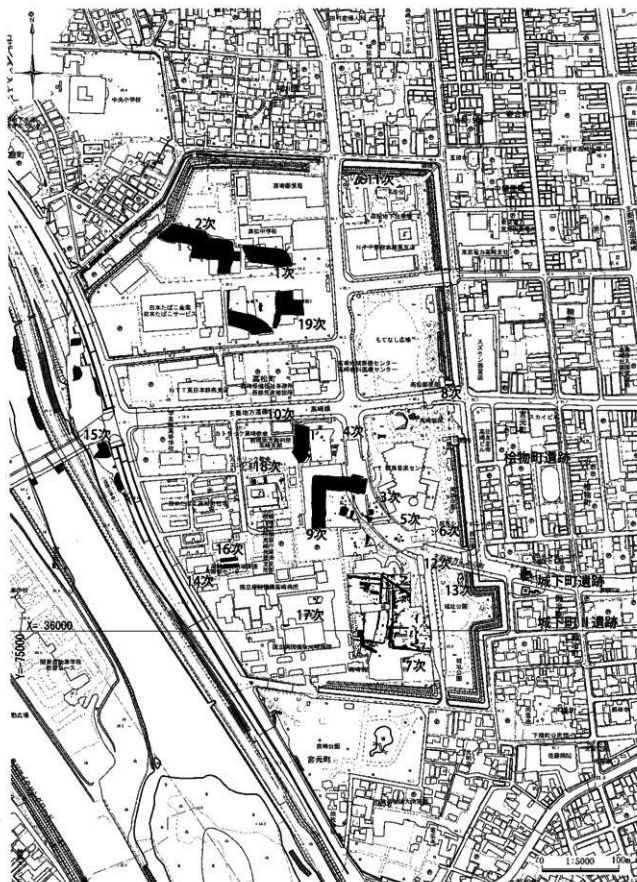
第1～3図同様、2500分の1『高崎市都市計画基本図』を50%縮小し、これまでの調査区を合成した図である。調査区の座標が不明なものなどがあるため、8・11・12次調査、及び松物町遺跡についてはおおむねの位置を示している。

第4図 高崎城遺跡周辺の遺構分布図（奈良・平安時代）



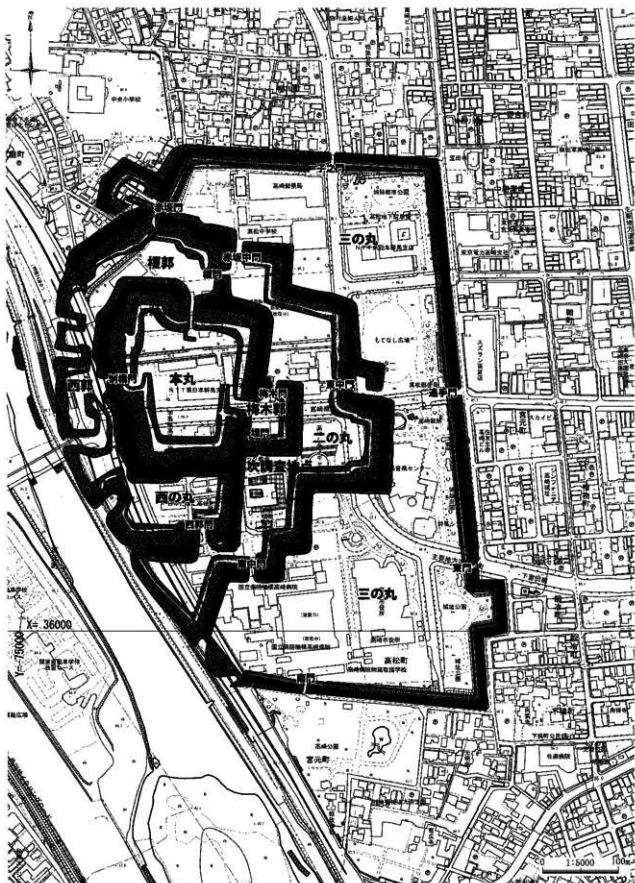
第1～4図同様、2500分の1『高崎市都市計画基本図』を50%縮小し、これまでの調査区を合成した図である。調査区の座標が不明なものなどがあるため、8・11・12次調査、及び松物町遺跡についてはおおむねの位置を示している。

第5図 高崎城遺跡周辺の遺構分布図（中世）



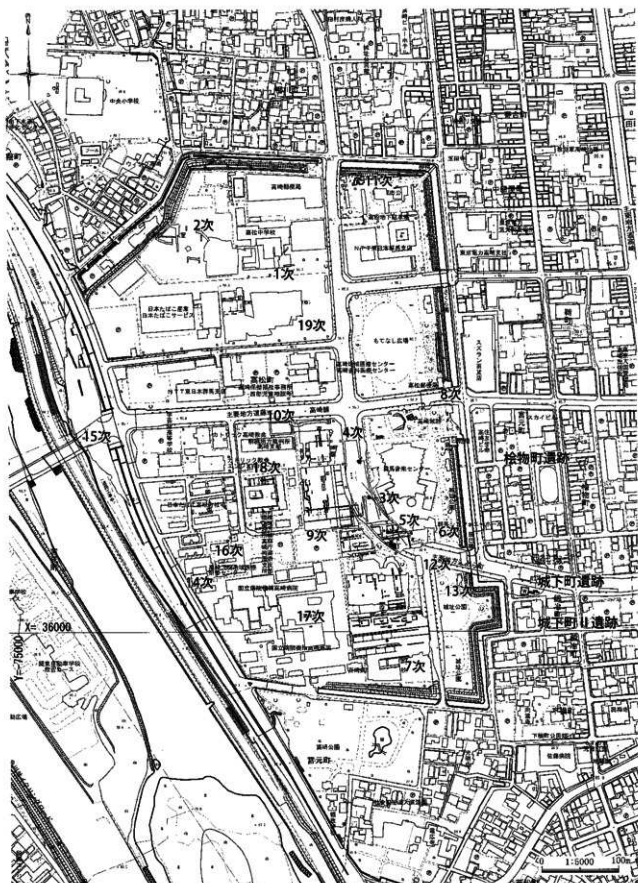
第1～5図同様、2500分の1『高崎市都市計画基本図』を50%縮小し、これまでの調査区を合成した図である。調査区の座標が不明なものなどがあるため、8・11・12次調査、及び松物町遺跡についてはおおむねの位置を示している。

第6図 高崎城遺跡周辺の遺構分布図（近世）



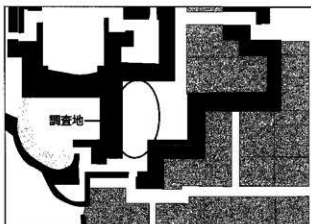
第1～6図同様、2500分の1『高崎市都市計画基本図』を50%縮小し、山崎一氏作成縄張り図（山崎一1978『群馬県古城址の研究』下巻所収）をトレースしたものを重ねたものである。今までの調査で検出された堀などの遺構と縄張り図とは照合させていないため、必ずしも正確ではない。調査地が高崎城のどの部分に概ね該当するかを図示するために作図した。

第7図 高崎城遺跡18次調査地点と高崎城縄張り図

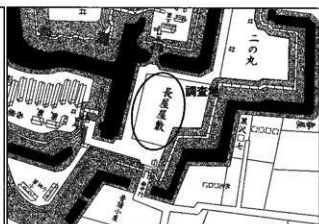


第1～7図同様、2500分の1「高崎市都市計画基本図」を50%縮小し、これまでの調査区を合成した図である。調査区の座標が不明なものなどがあるため、8・11・12次調査、及び松物町遺跡についてはおおむねの位置を示している。

第8図 高崎城遺跡周辺の遺構分布図（近代）



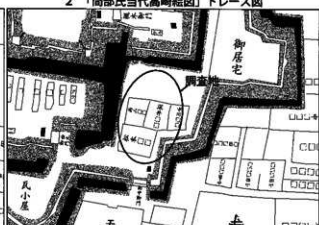
1 「上野高崎城図」トレース図



2 「間部氏当代高崎城図」トレース図



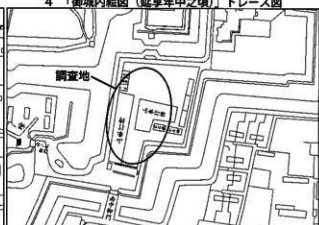
3 「水盛絵図」トレース図



4 「御城内絵図（延享年中之頃）」トレース図



5 「御城内外惣絵図 従道手門内南之方」トレース図



6 「上野国群馬郡高崎御城内外持場惣絵図」トレース図

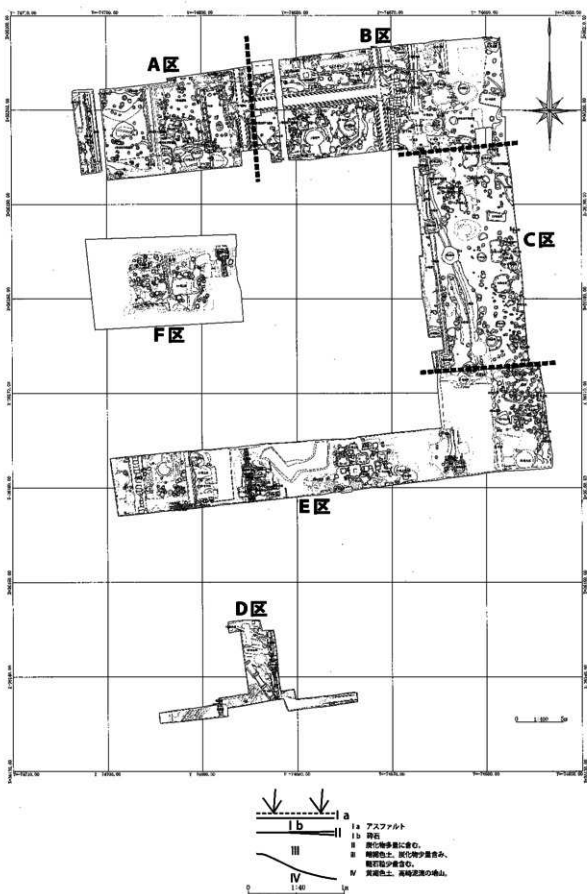


7 「慶応年間絵図」トレース図

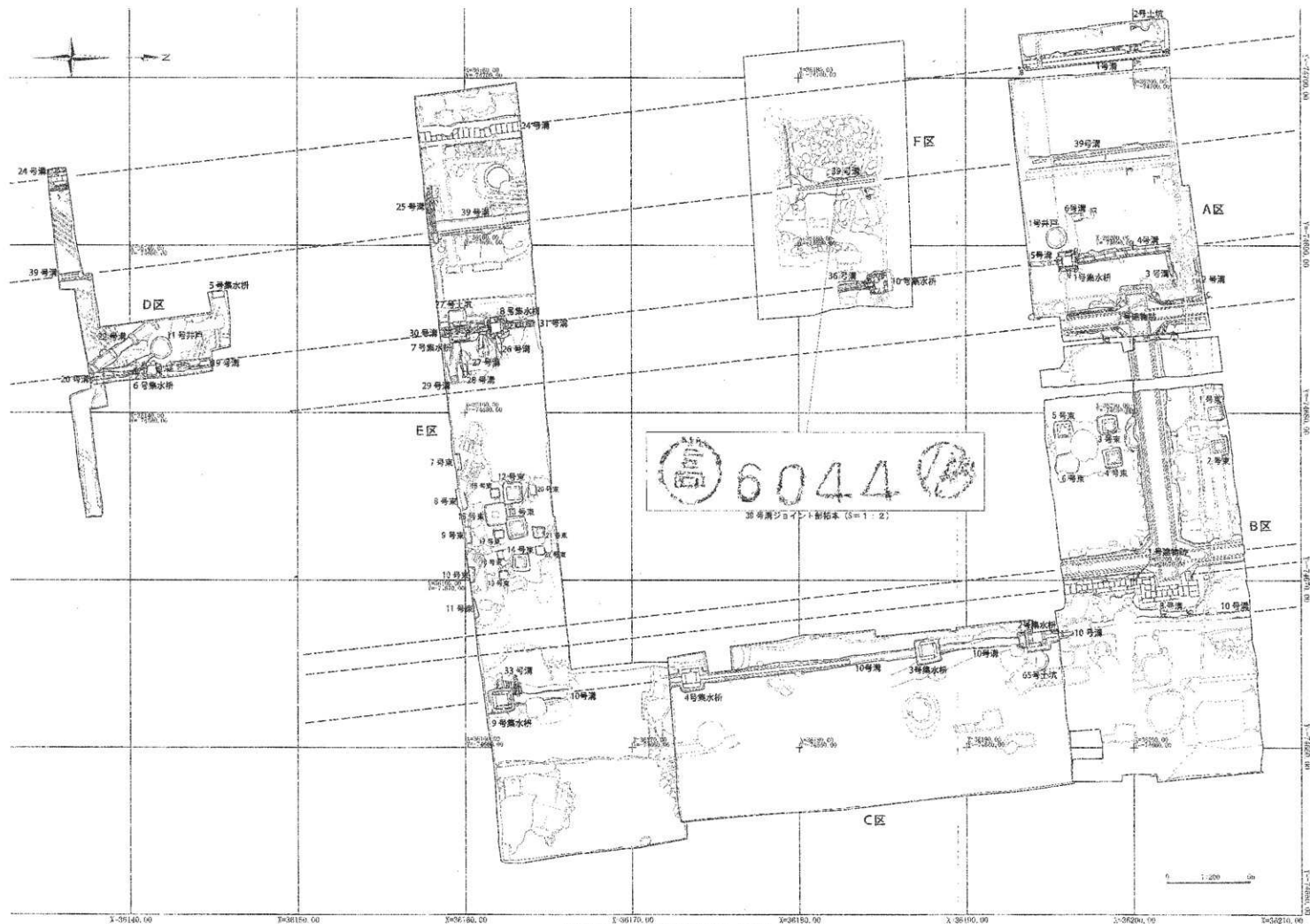


8 昭和9年歩兵第十五連隊平面図 (S=1:4000) を 1/2 に縮小 (大西 2006 より)

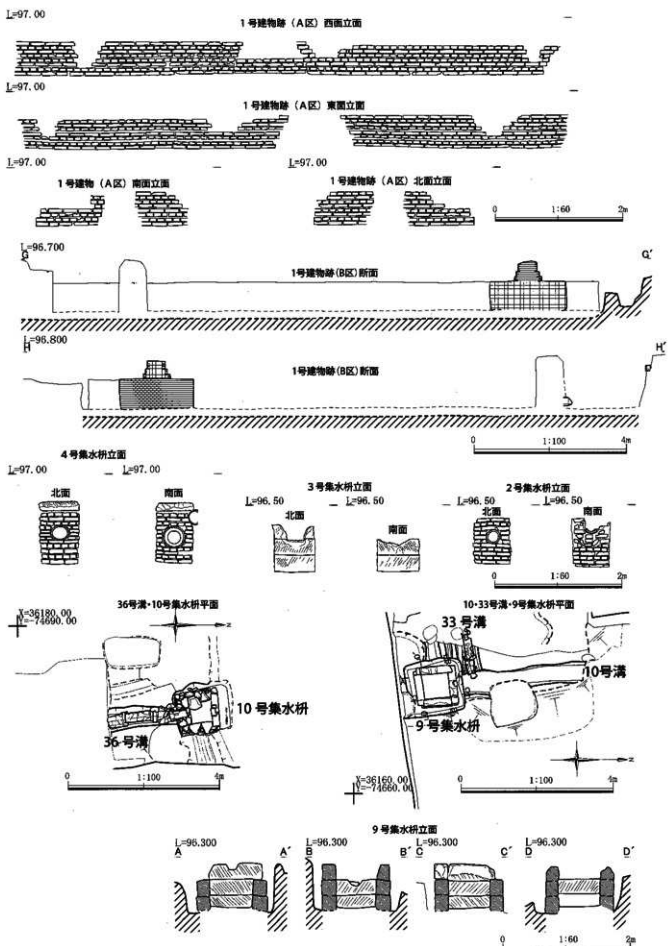
第9図 調査地周辺の絵図の変遷 (各図とも上がおおむねの北)



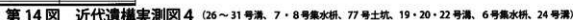
第 10 図 調査全体図、調査区割図、基本層序模式図



第12図 近代遺構実測図2 (全体図)

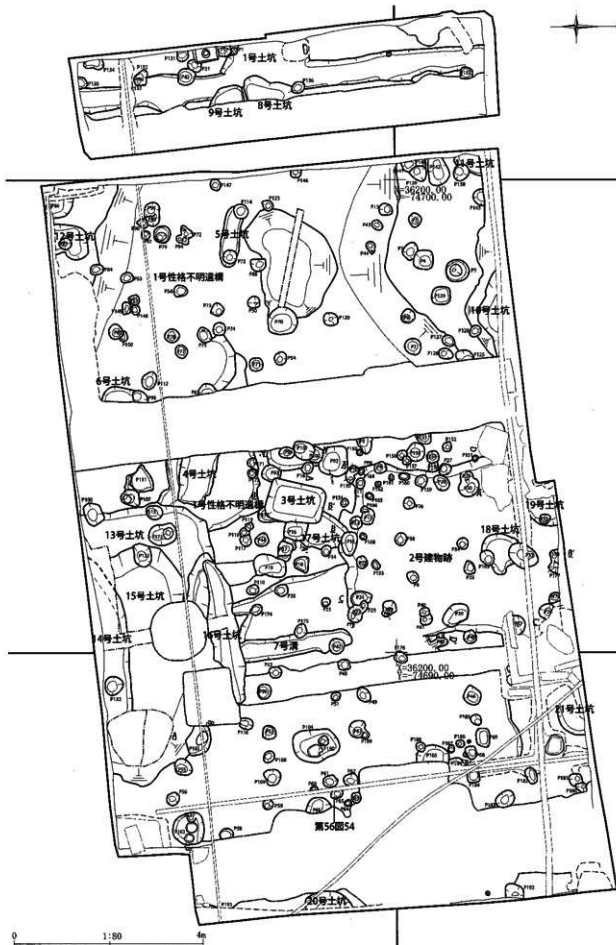


第13図 近代遺構実測図3 (1号建物跡、2~4号集水桥、36号溝・10号集水桥、10・33号溝・9号集水桥)

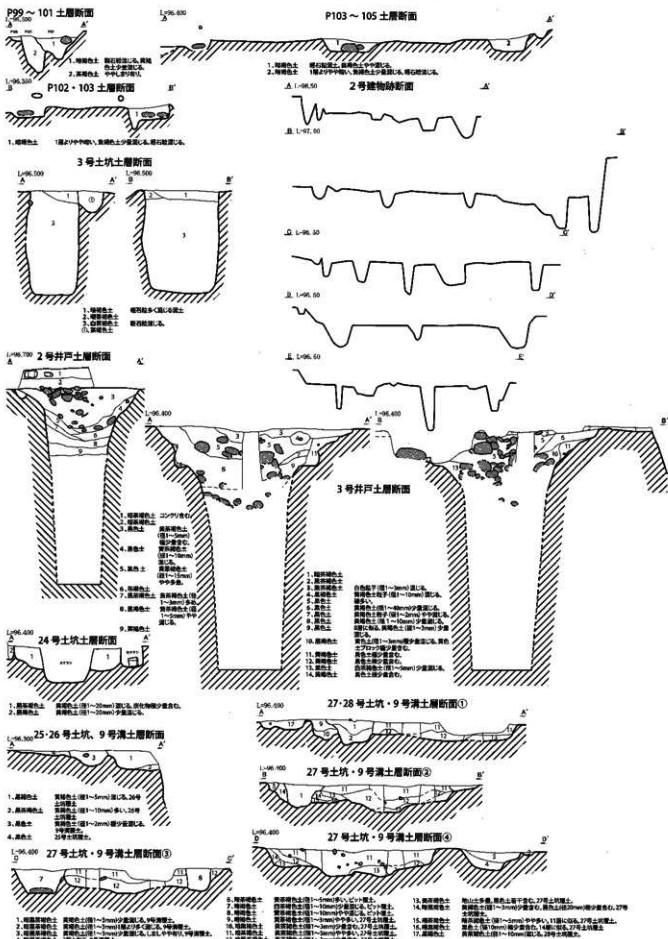




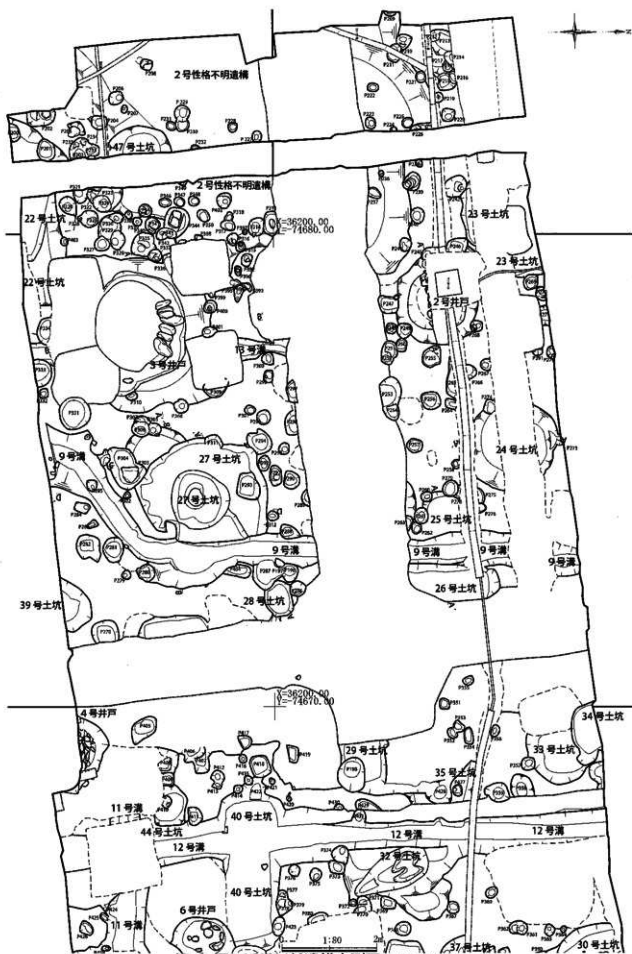
第15图 近世以前遺構実測図1 (全体図)



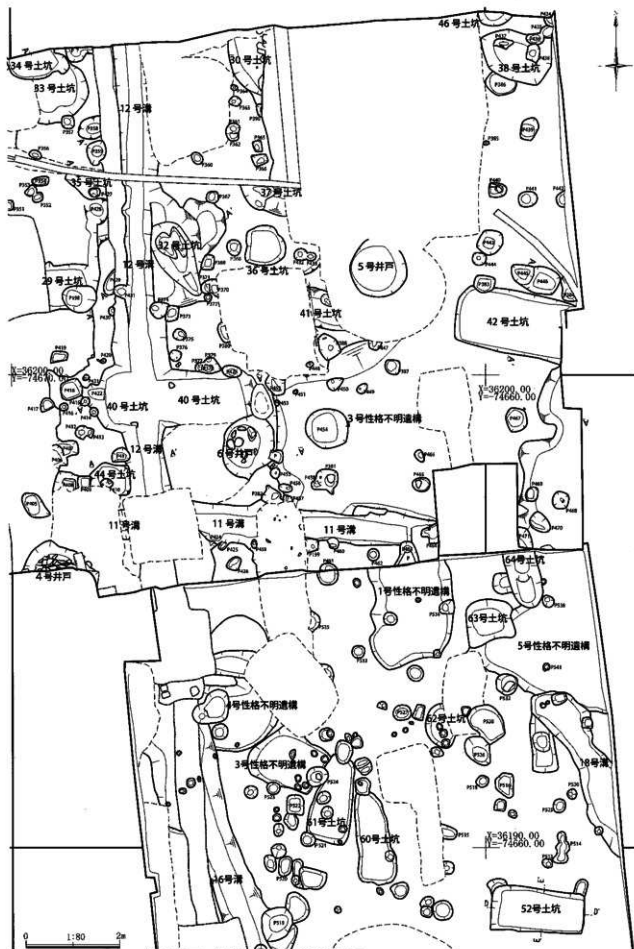
第16图 近世以前遺構実測図2 (A区平面図)



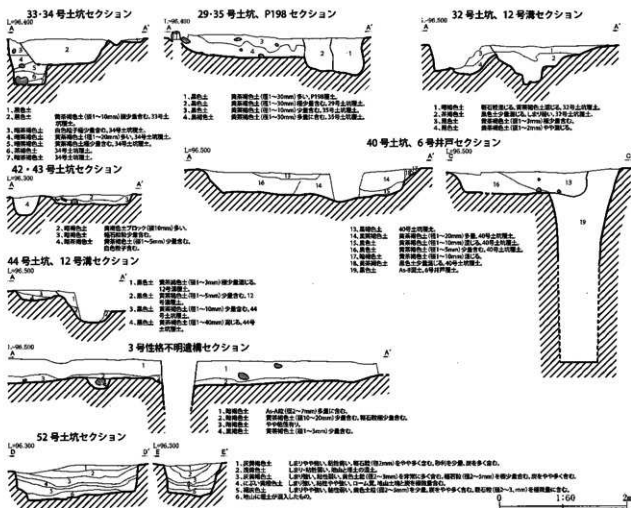
第17図 近世以前遺構実測図3 (P99~101、P103~105、3号土坑、2号井戸、3号井戸、27・28号土坑・9号溝)



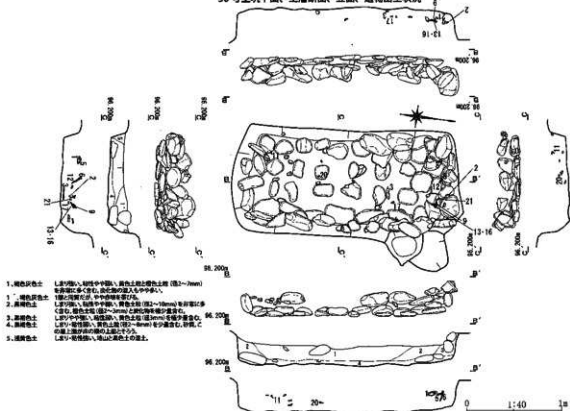
第18图 近世以前遺構実測図4 (B区平面圖①)



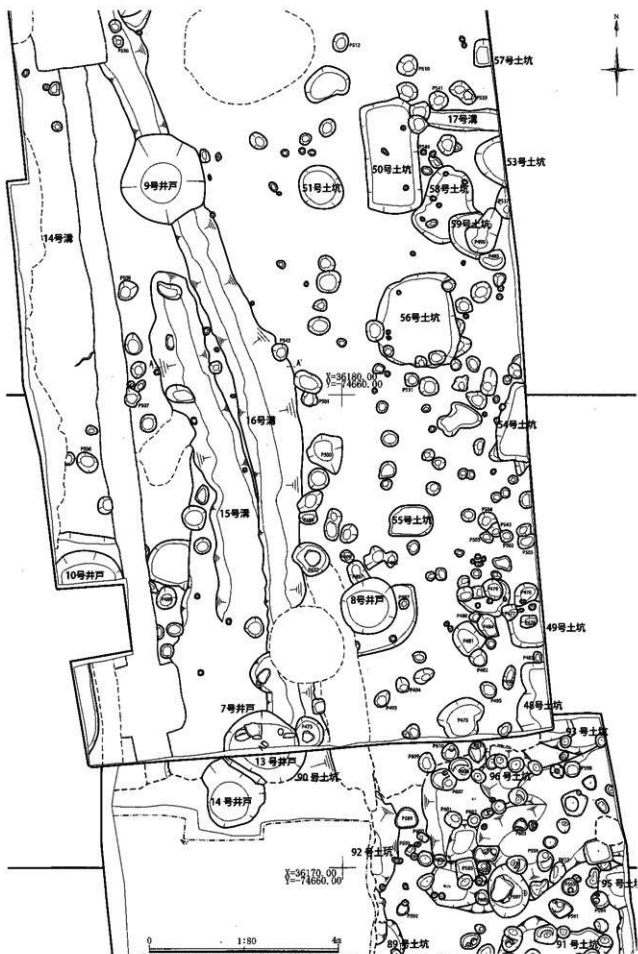
第19图 近世以前遺構実測図5 (B区平面③、C区平面①)



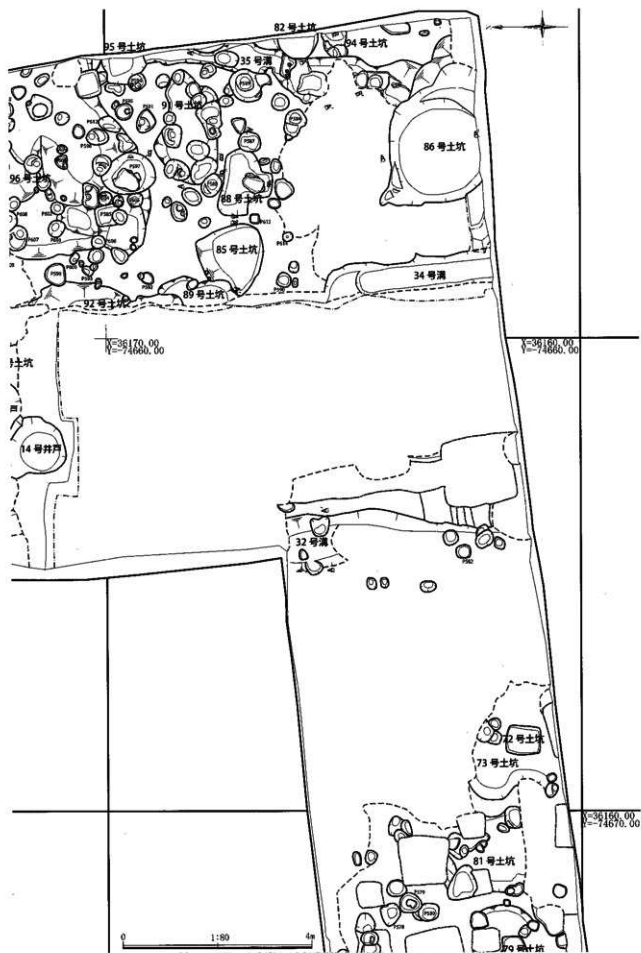
50号土坑平面、土層断面、立面、遺物出土状況



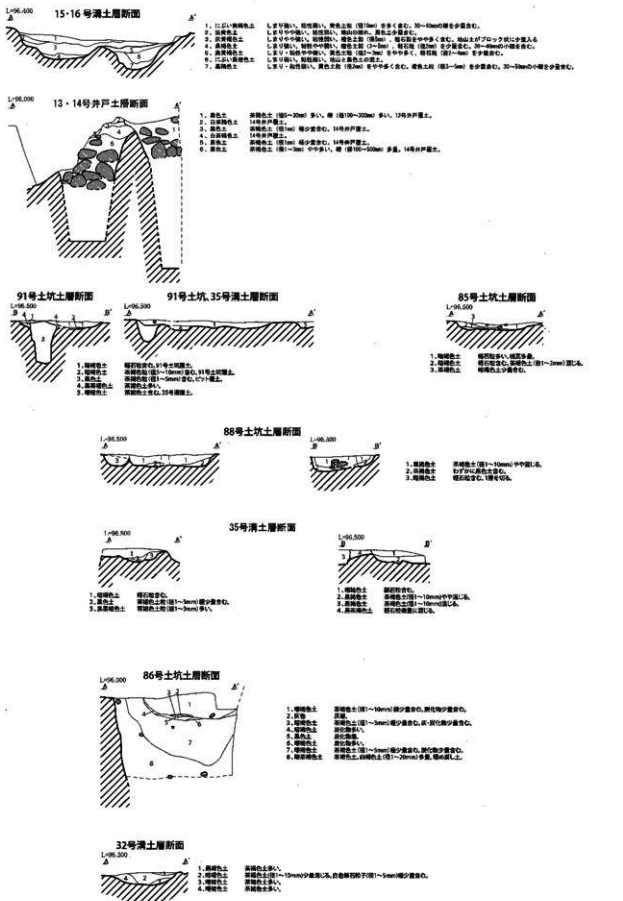
第20図 近世以前遺構実測図6 (33-34号土坑、29-35号土坑、P198、32号土坑・12号溝、42-43号土坑、40号土坑・6号井戸、44号土坑・12号溝、3号性格不明遺構、52号土坑、50号土坑)

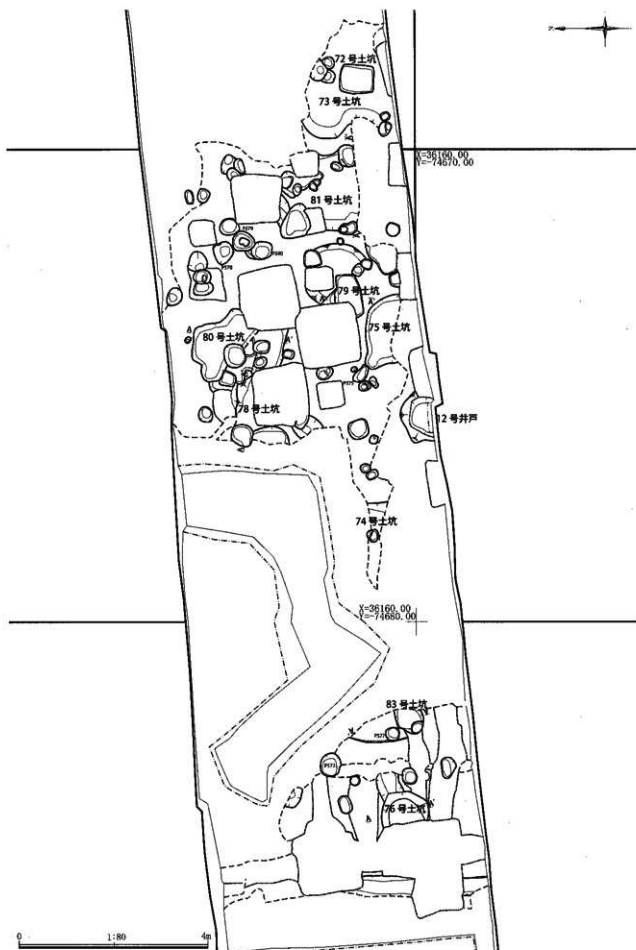


第 21 图 近世以前遺構実測図 7 (C 区平面图②、E 区平面图③)

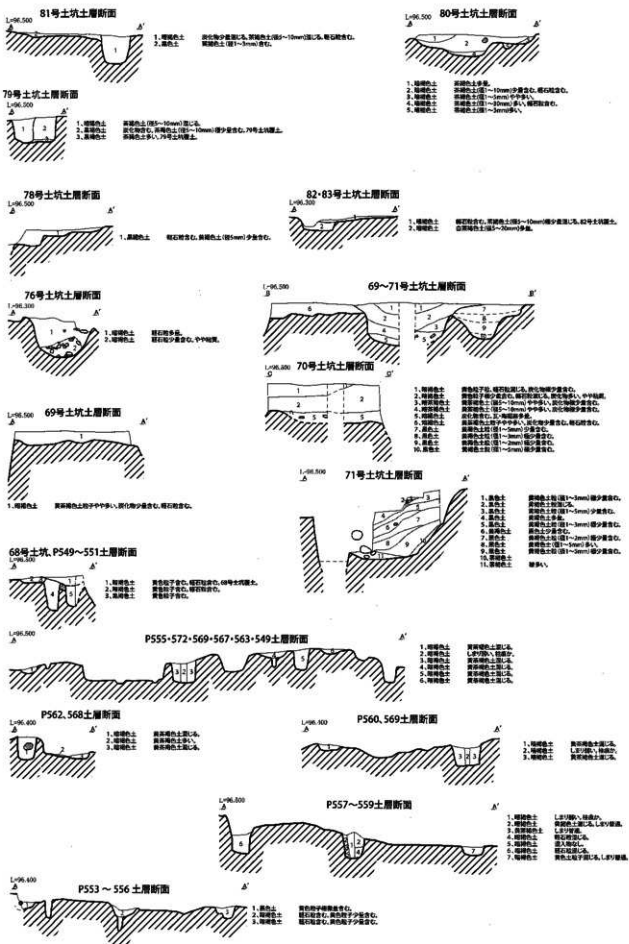


第22图 近世以前遺構実測図8 (E区平面图③)

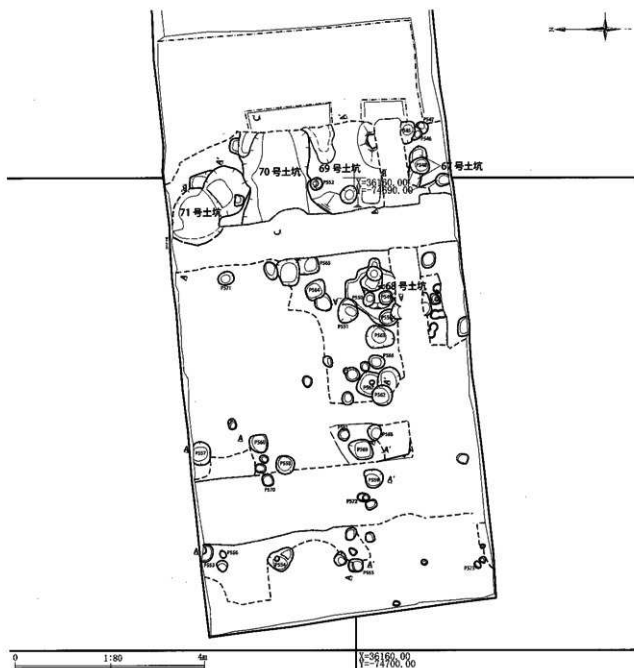




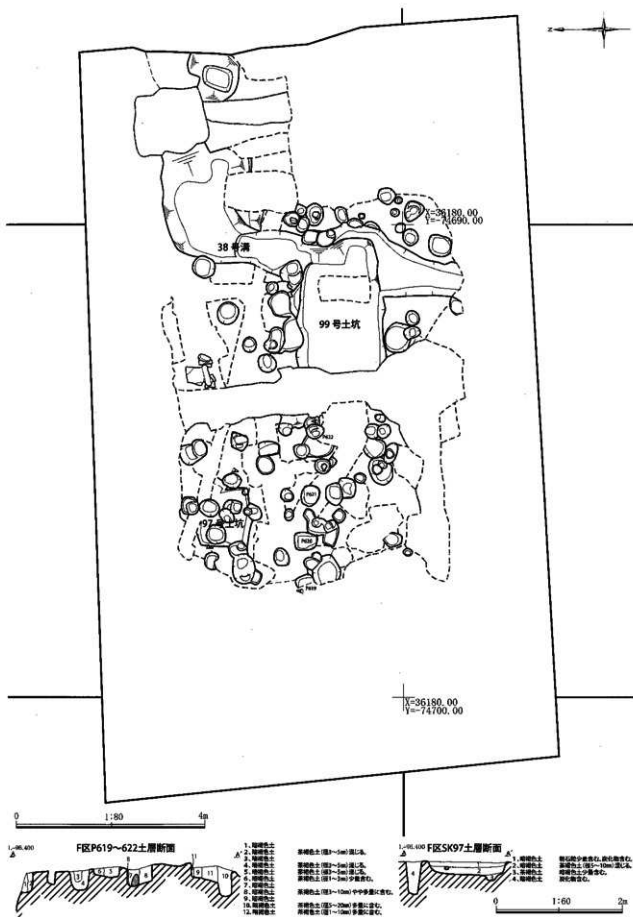
第 24 图 近世以前遺構実測図 10 (E区平面图③)



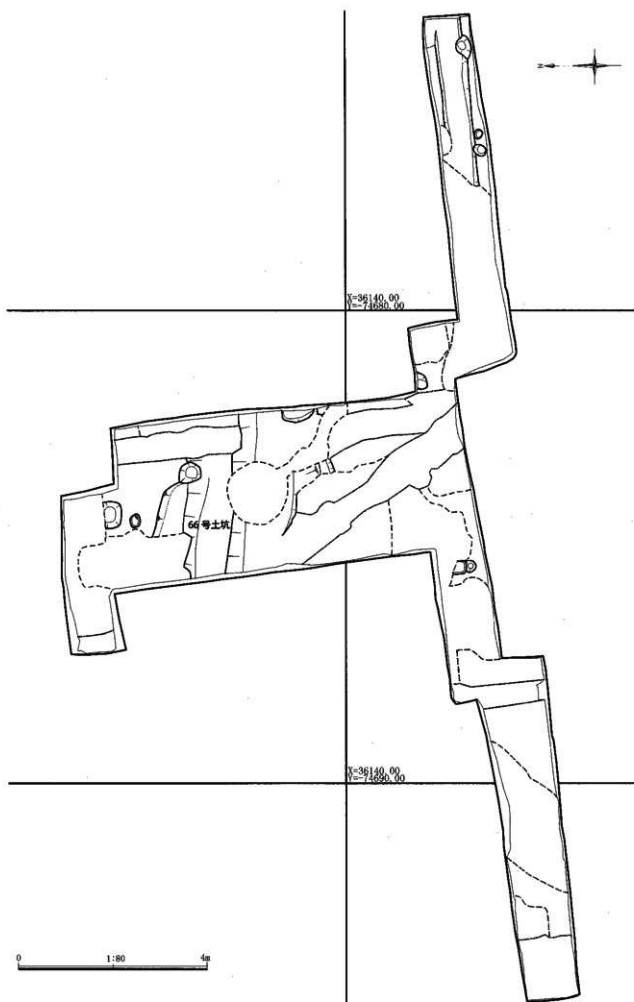
第 25 図 近世以前遺構実測図 11 (81号土坑、80号土坑、79号土坑、78号土坑、82・83号土坑、76号土坑、69~71号土坑、68号土坑、P549~P551、P555・P572・P569・P567・P563・P549、P562・P568、P560・P569、P557~559、P553~P556)
48



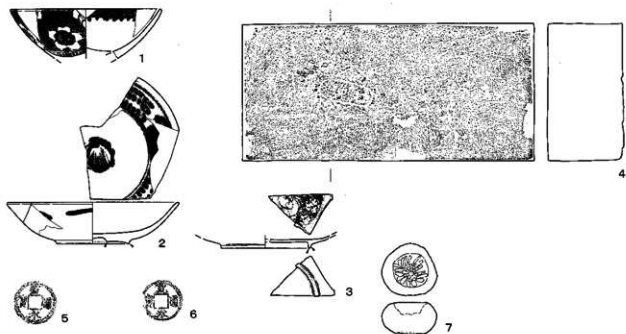
第 26 图 近世以前遺構実測図 12 (E区平面図④)



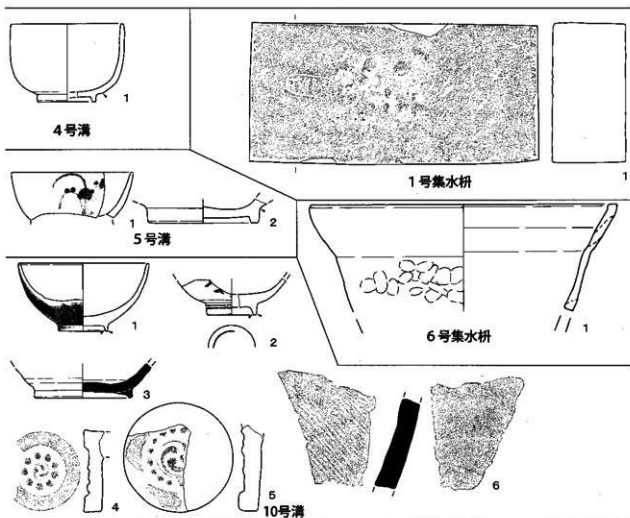
第 27 図 近世以前遺構実測図 13 (F 区平面図、P619~622、97 号土坑)



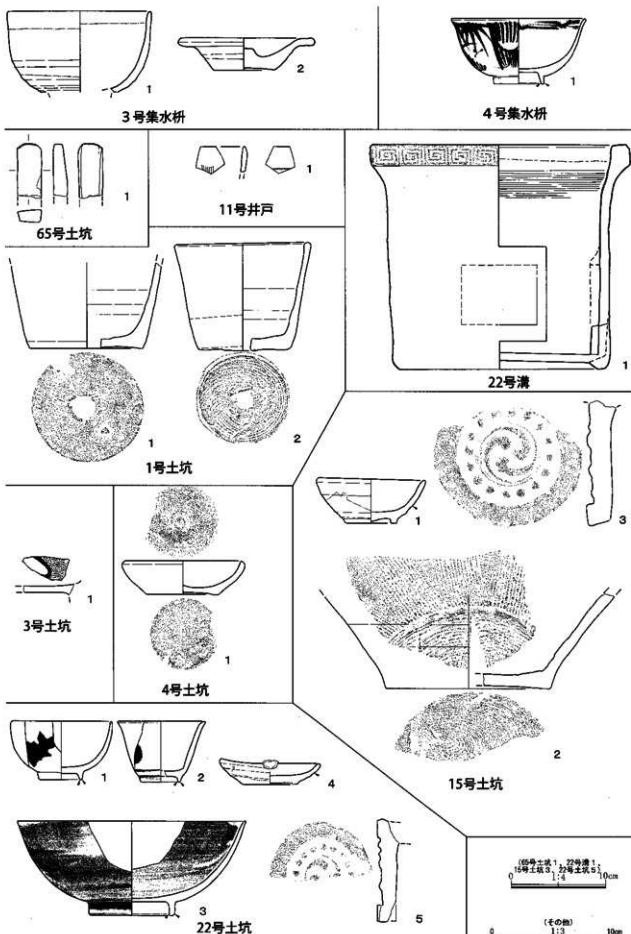
第28图 近世以前遺構実測図14 (D区平面図)



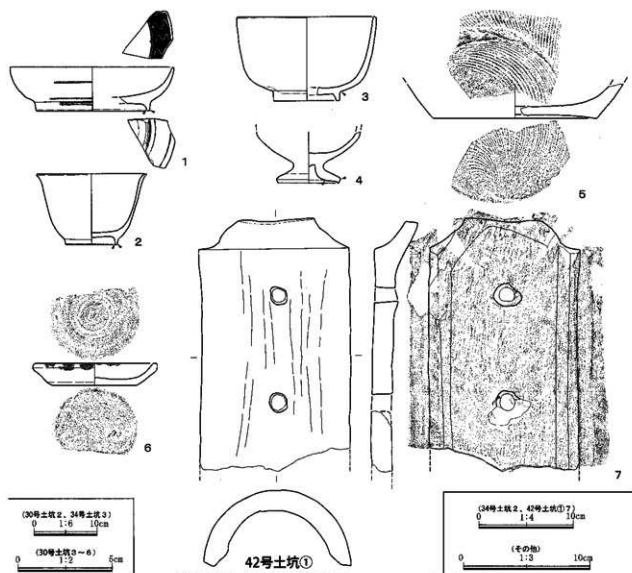
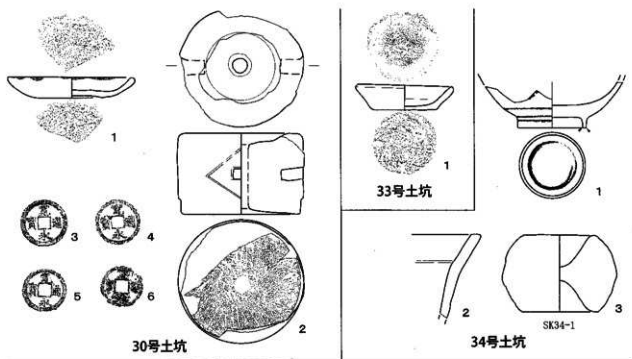
1号建物跡



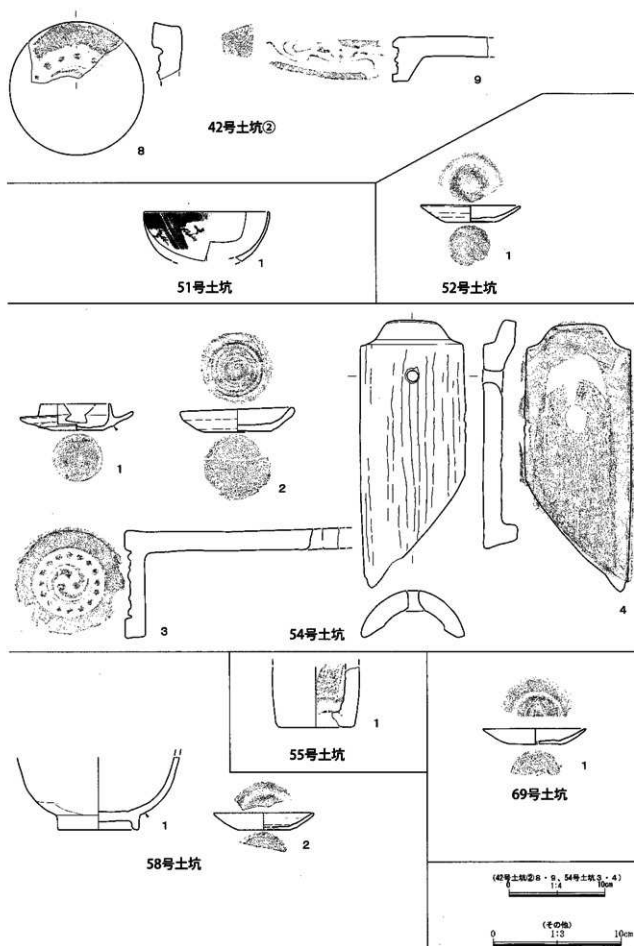
第29図 遺物実測図1 (1号建物跡、1号集水枡、6号集水枡、4、5、10号溝)



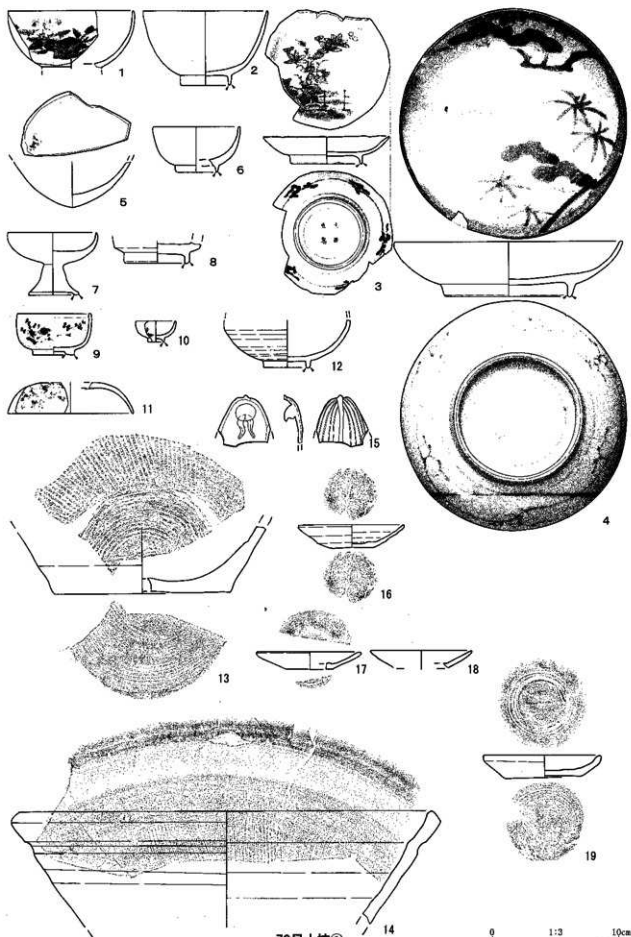
第30図 遺物実測図2 (3号集水橋、4号集水橋、65号土坑、11号井戸、22号溝、1、4、15、22号土坑)



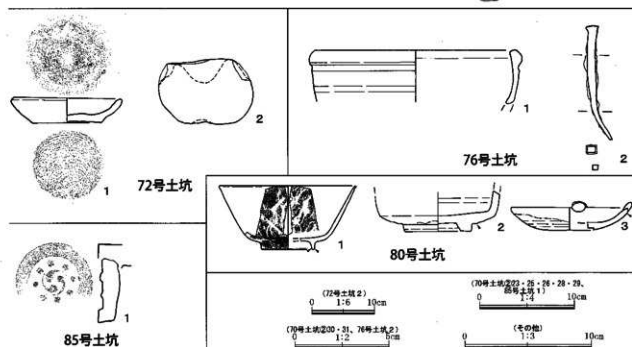
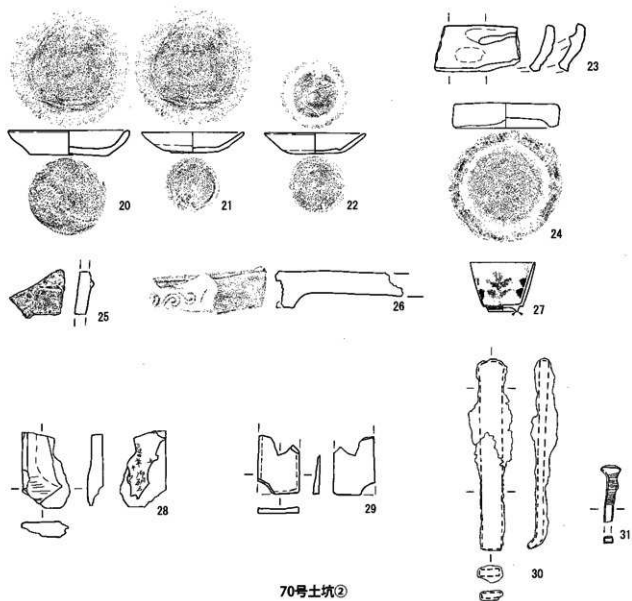
第31図 遺物実測図3 (30、33、34、42号土坑①)



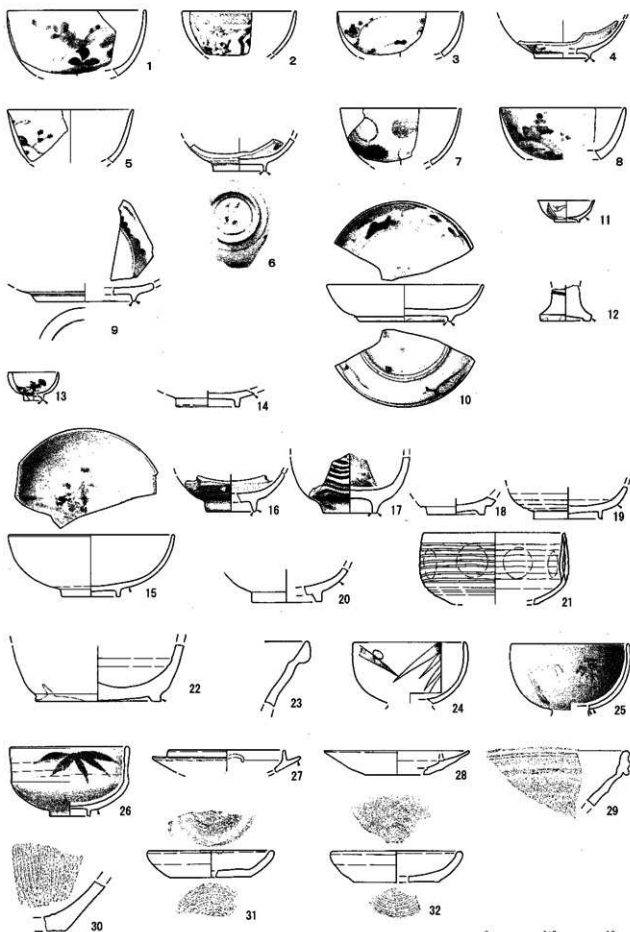
第 32 図 遺物実測図 4 (42 号土坑②、51、52、54、55、58、69 号土坑)



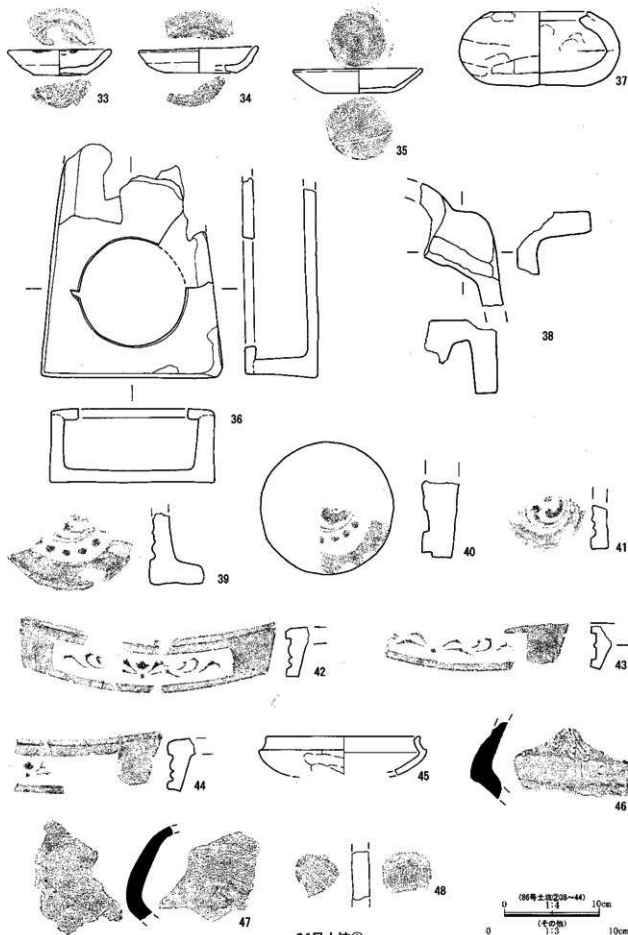
70号土坑①
第33图 遺物実測図5 (70号土坑①)



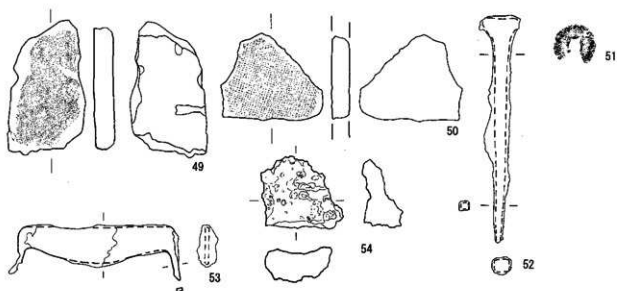
第34图 遺物実測図6 (70号土坑②、72、76、80、85号土坑)



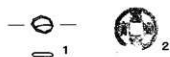
86号土坑①
第35图 遺物実測図7 (86号土坑①)



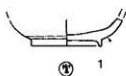
第36図 86号土坑②
遺物実測図8 (86号土坑③)



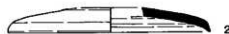
86号土坑③



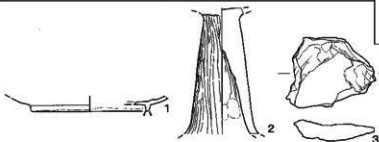
90号土坑



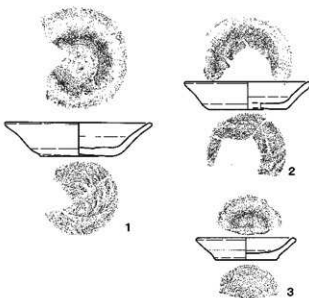
92号土坑



96号土坑



27号土坑



40号土坑



(86号土坑③①～⑤③、80号土坑②)

1:2

(86号土坑③④⑤、80、86号土坑①)

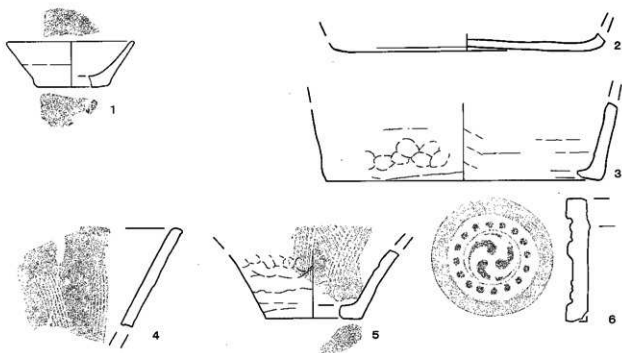
1:4

(その他)

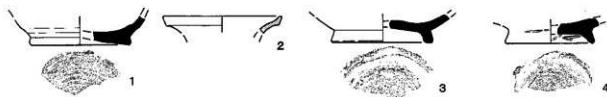
1:3

0 10cm

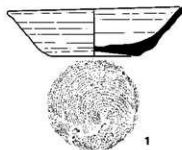
第37図 遺物実測図9 (86号土坑③、90、92、96、27、40号土坑)



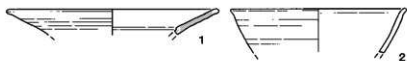
66号土坑



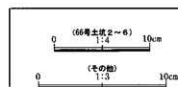
71号土坑



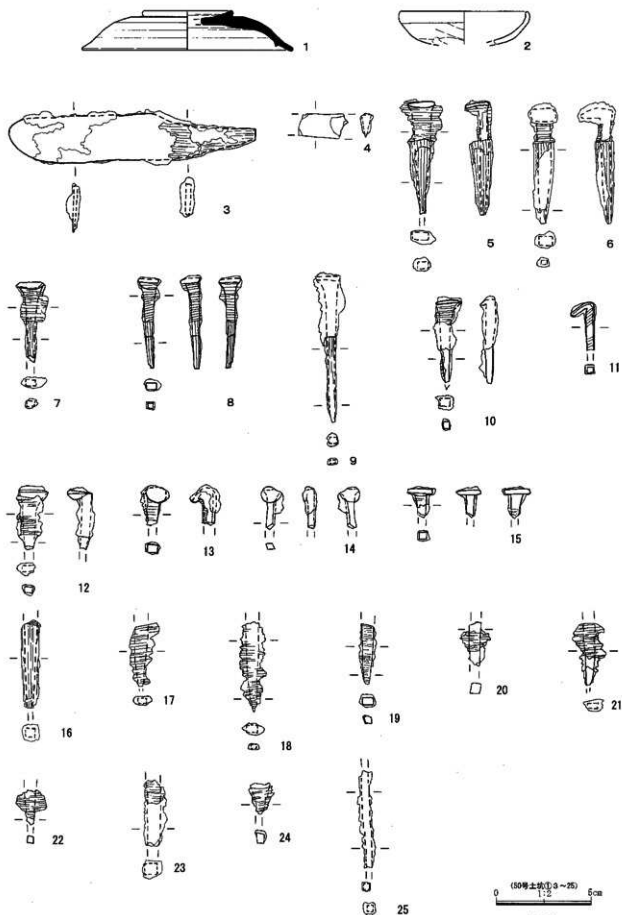
28号土坑



48号土坑



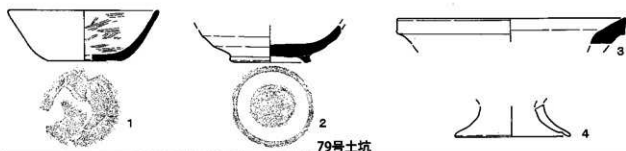
第38図 遺物実測図10 (66、71、28、48号土坑)



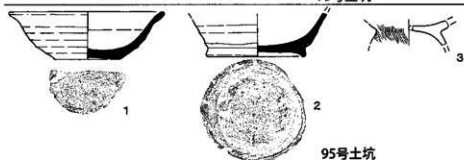
50号土坑①
第39图 遺物実測図11 (50号土坑①)



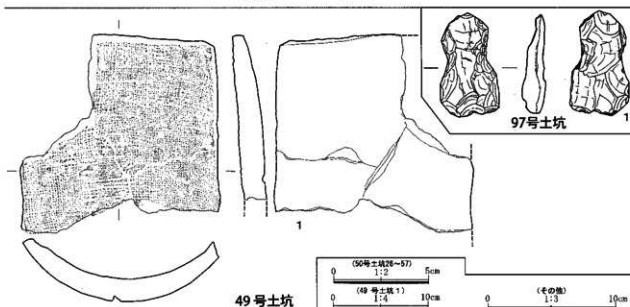
50号土坑②



79号土坑

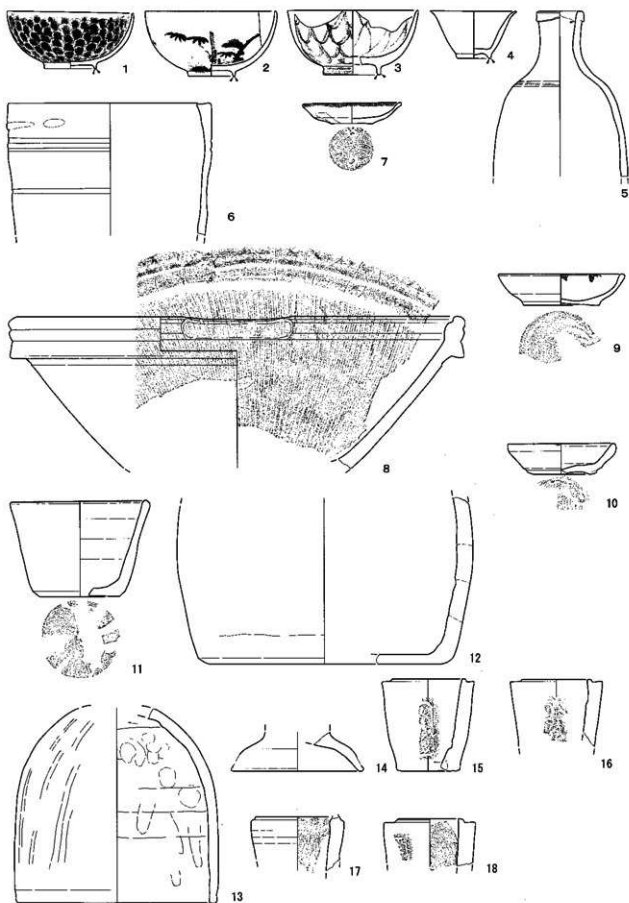


95号土坑

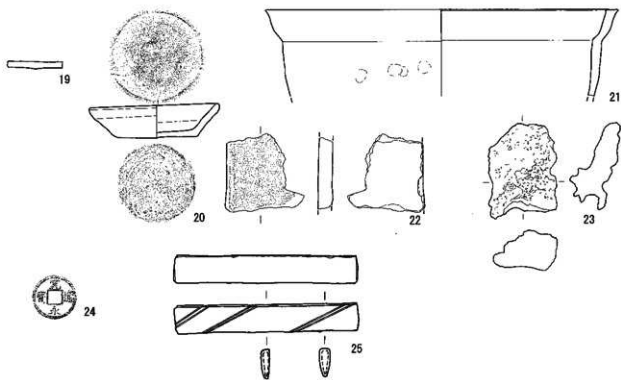


49号土坑

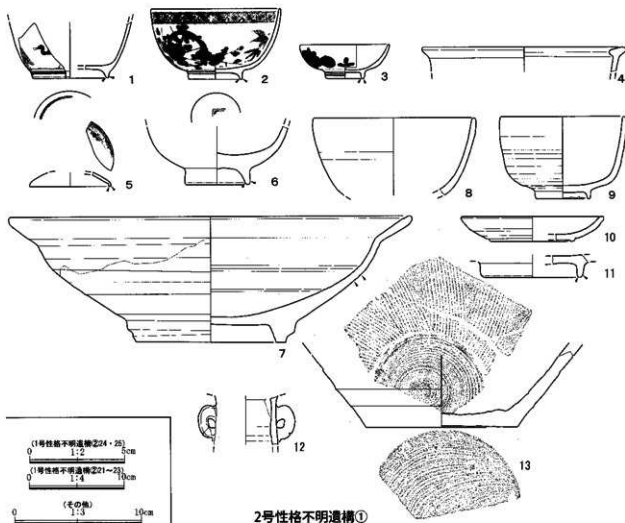
第40图 遺物実測図12 (50号土坑②、79、95、49、97号土坑)



1号性格不明遺構①
 第41図 遺物実測図13 (1号性格不明遺構③)

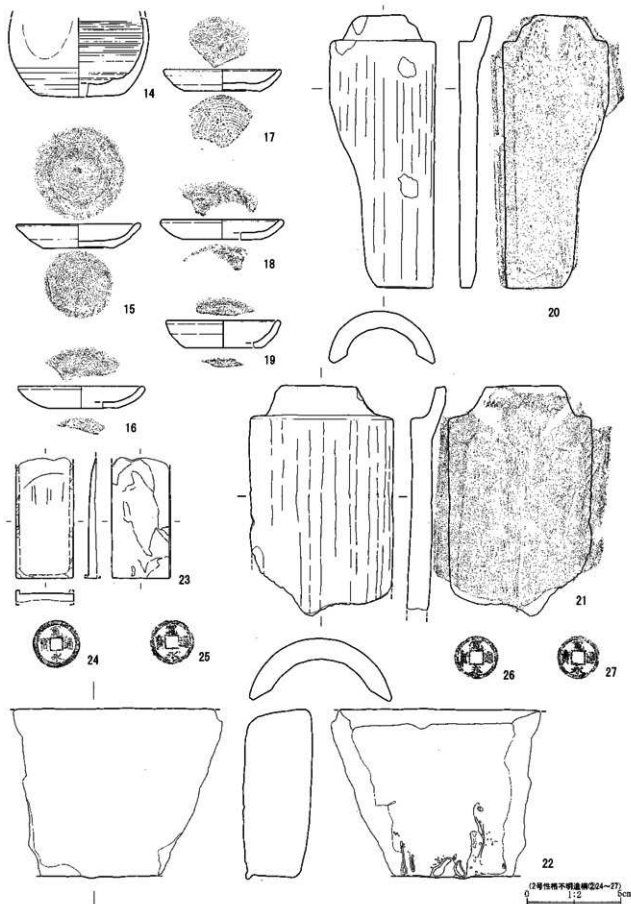


1号性格不明遺構②



2号性格不明遺構①

第42図 遺物実測図14 (1号性格不明遺構③、2号性格不明遺構①)



第 43 図

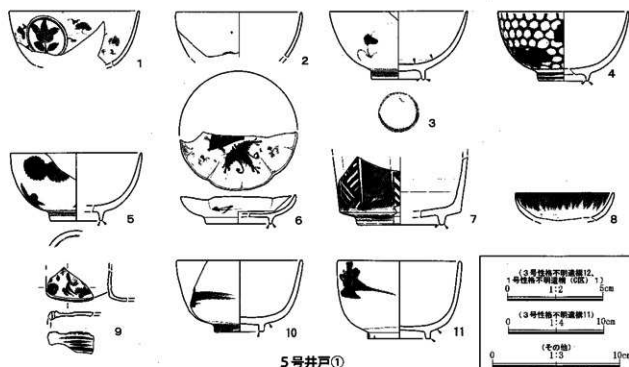
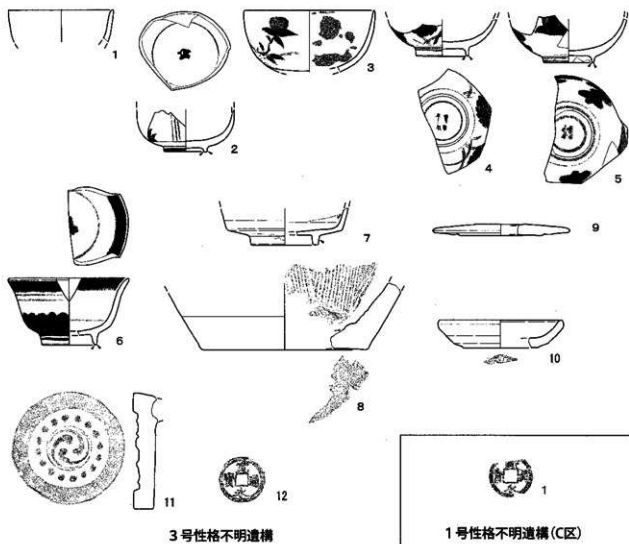
2号性格不明遺構②

遺物実測図 15 (2号性格不明遺構③)

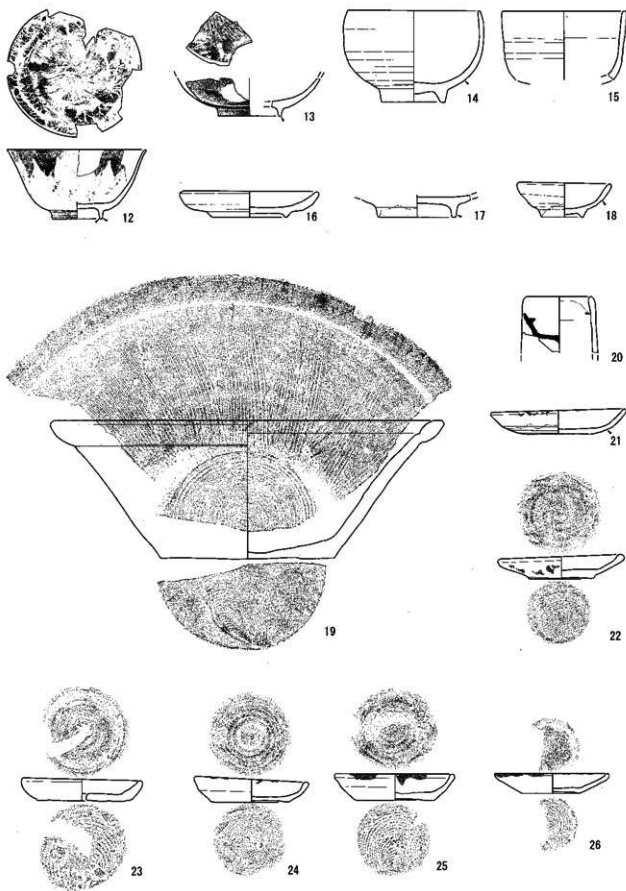
0 10cm (その他) 1:3

(2号性格不明遺構②24~27) 0 5cm 1:2

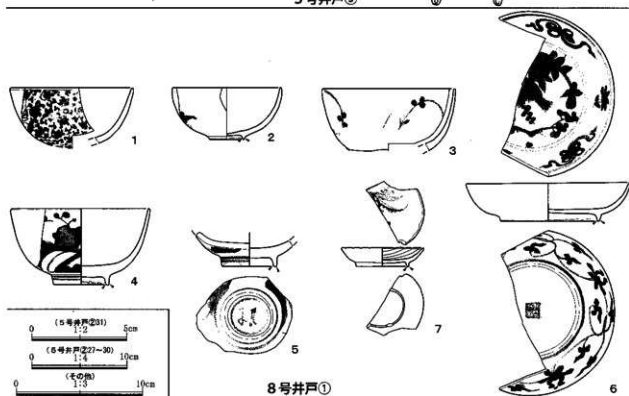
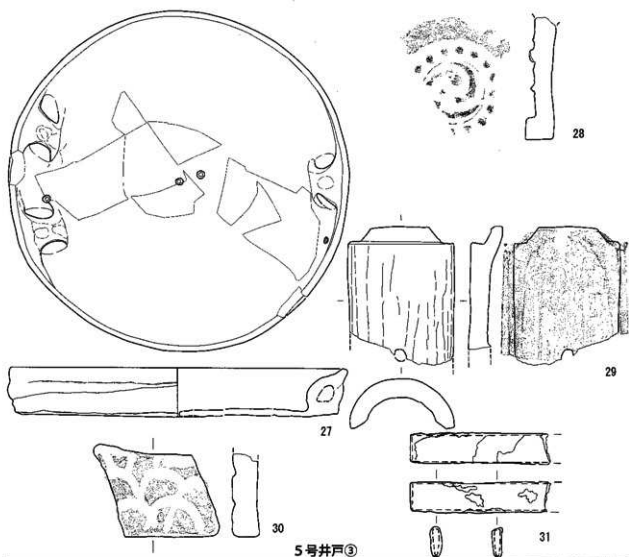
(2号性格不明遺構②20~23) 0 10cm 1:4



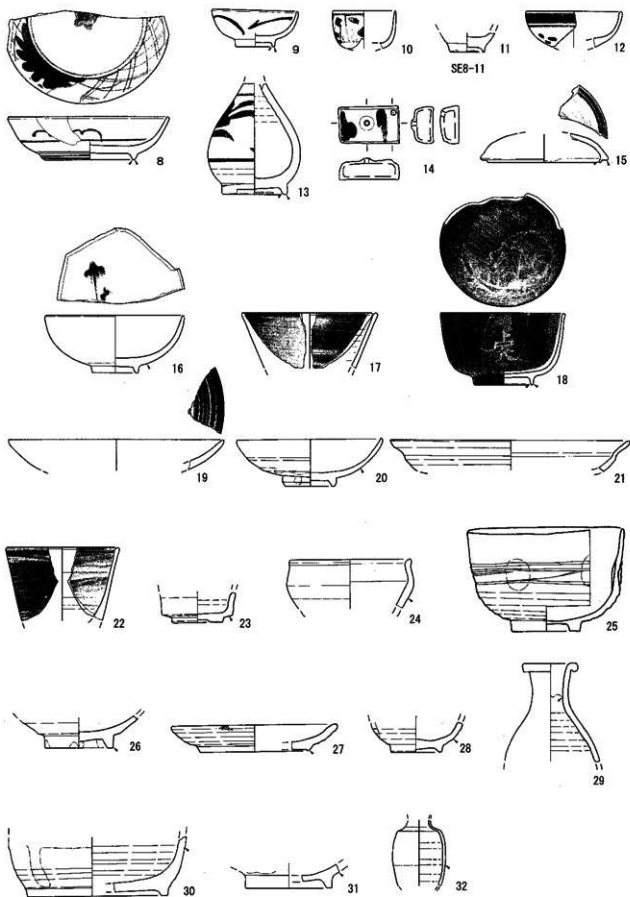
第44図 遺物実測図16 (3号性格不明遺構、1号性格不明遺構 (C区)、5号井戸①)



5号井戸②
第45図 遺物実測図 17 (5号井戸②)

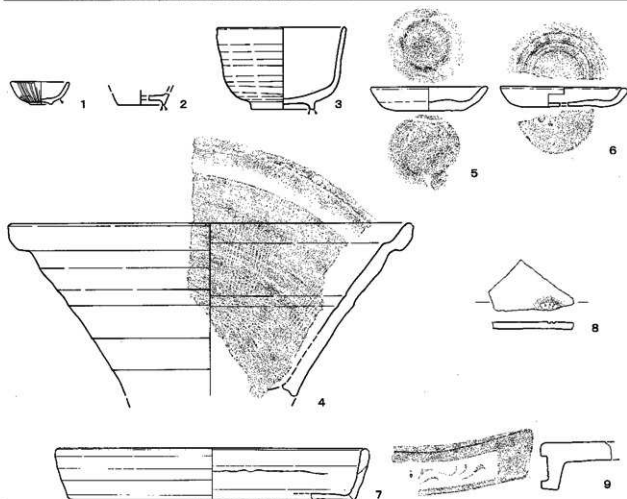
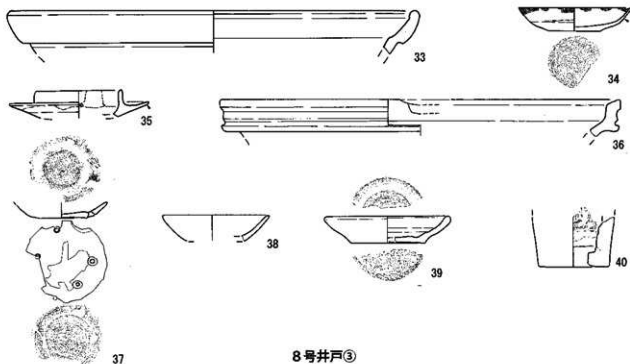


第46図 遺物実測図18 (5号井戸③、8号井戸①)

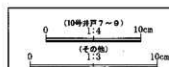


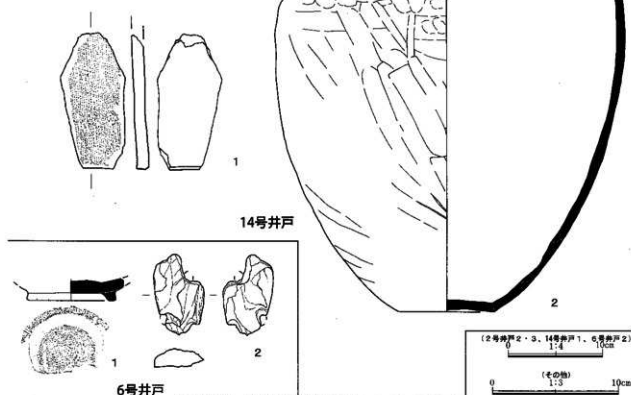
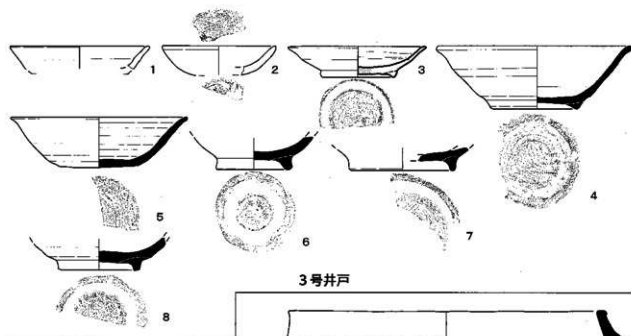
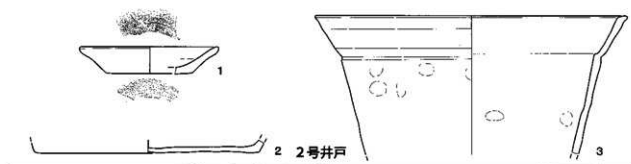
8号井戸②

第47図 遺物実測図19 (8号井戸②)

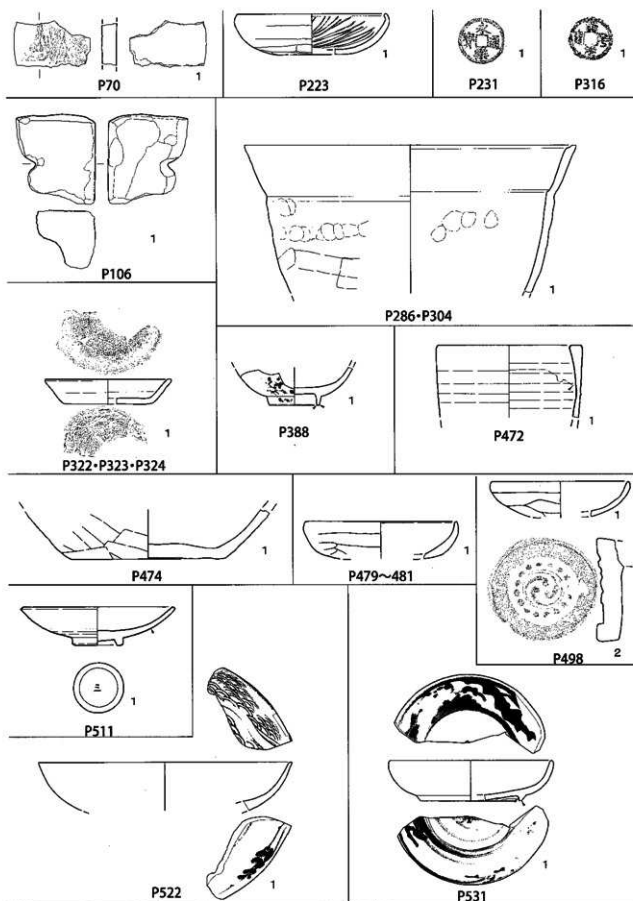


第48図 遺物実測図20 (8号井戸③、10号井戸)

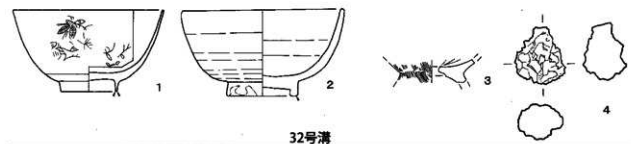
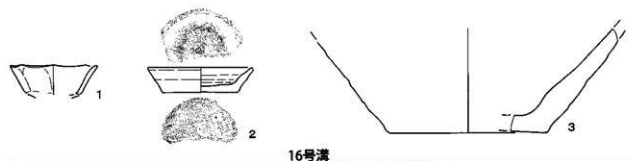
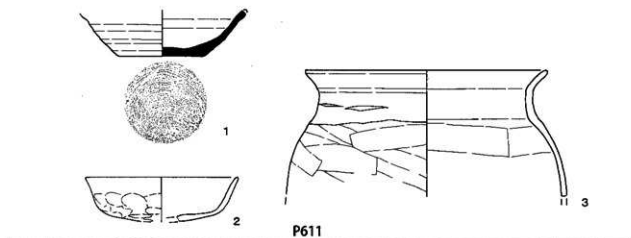
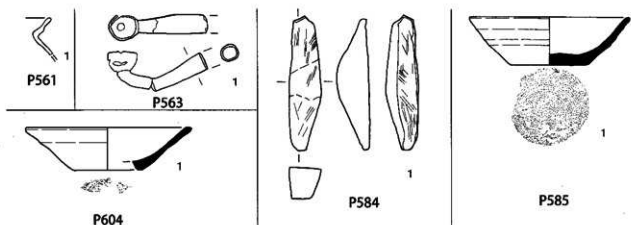




第49図 遺物実測図21 (2、3、14、6号井戸)



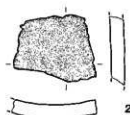
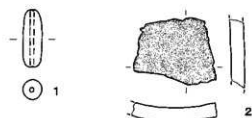
第50図 遺物実測図 22 (P70、223、231、316、106、286・304、322・323・324、388、472、474、479～481、498、511、522、531)



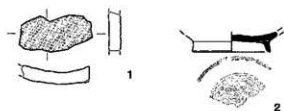
第 51 図 遺物実測図 23 (P561、563、584、585、604、611、16号溝、32号溝)



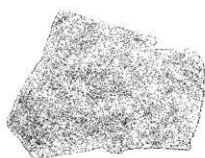
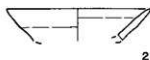
38号溝



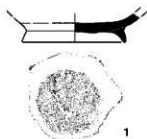
9号溝



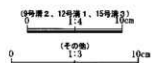
12号溝



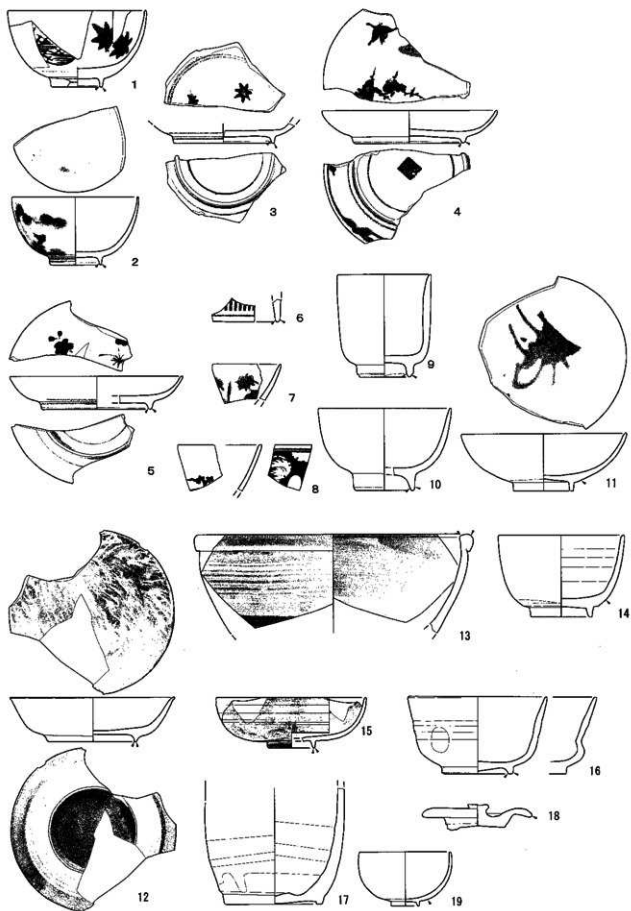
15号溝



18号溝

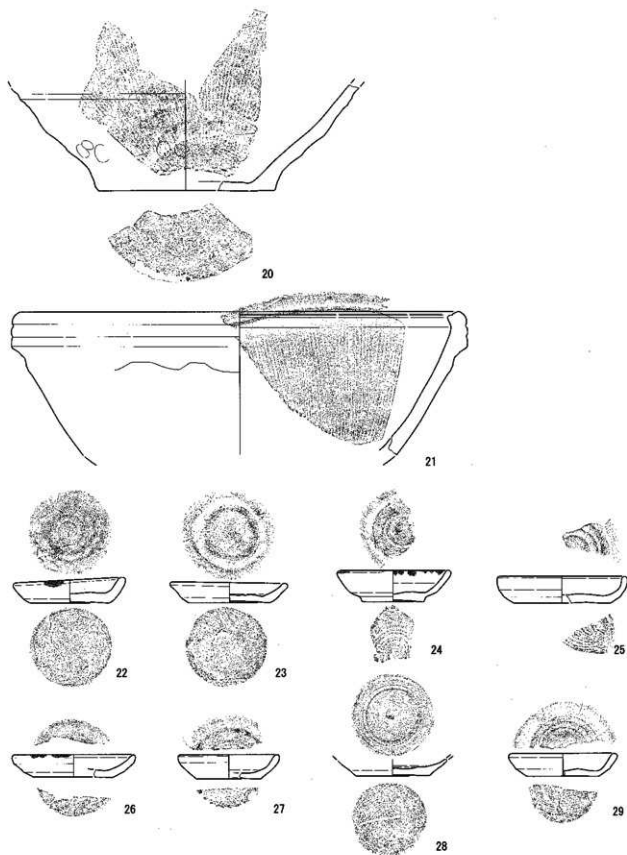


第 52 図 遺物実測図 24 (38、9、12、15、18号溝)



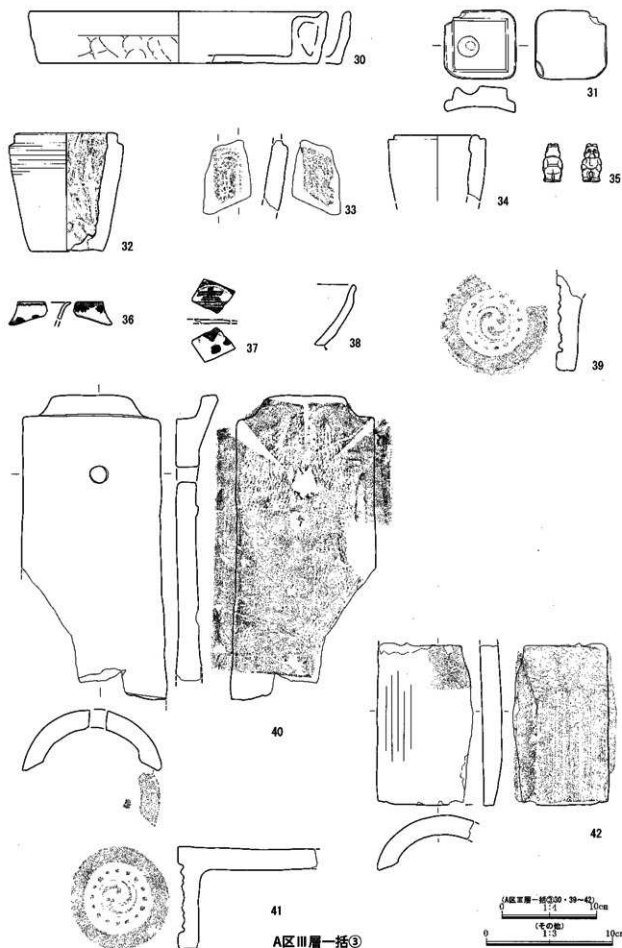
A区III層一括①
第53図 遺物実測図25 (A区III層一括①)

0 1:3 10cm

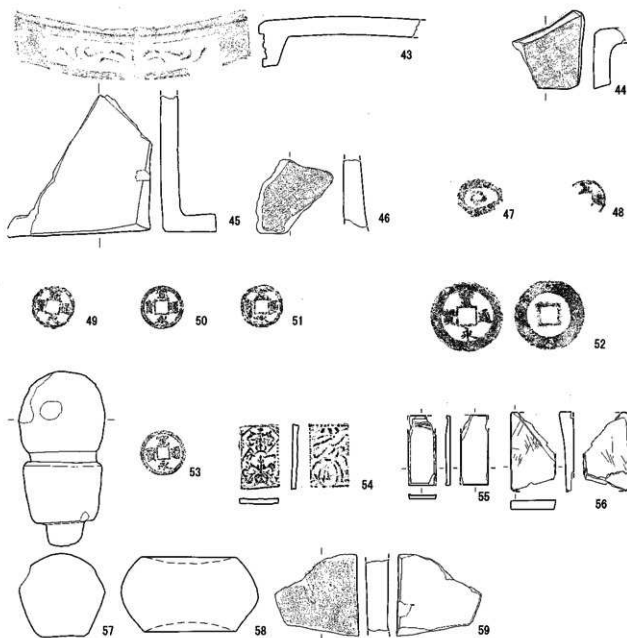


A区Ⅲ层一括②
第 54 图 遗物实测图 26 (A区Ⅲ层一括②)

0 1:3 10cm



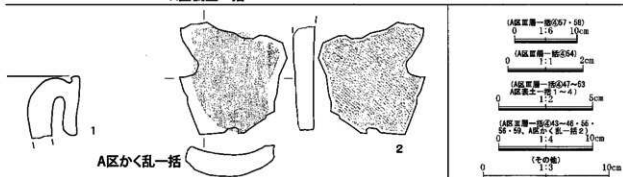
第55図 A区Ⅲ層一括③
遺物実測図 27 (A区Ⅲ層一括③)



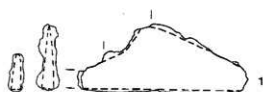
A区III層一括④



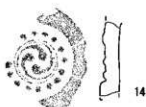
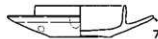
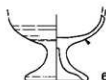
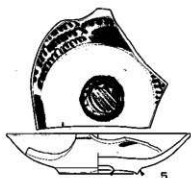
A区表土一括



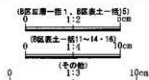
第56図 遺物実測図28 (A区III層一括④、A区表土一括、A区かく乱一括)



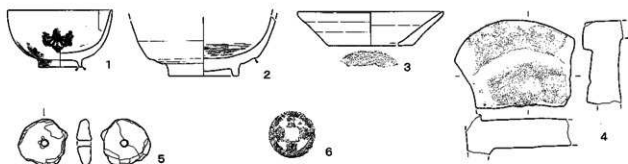
B区III層一括



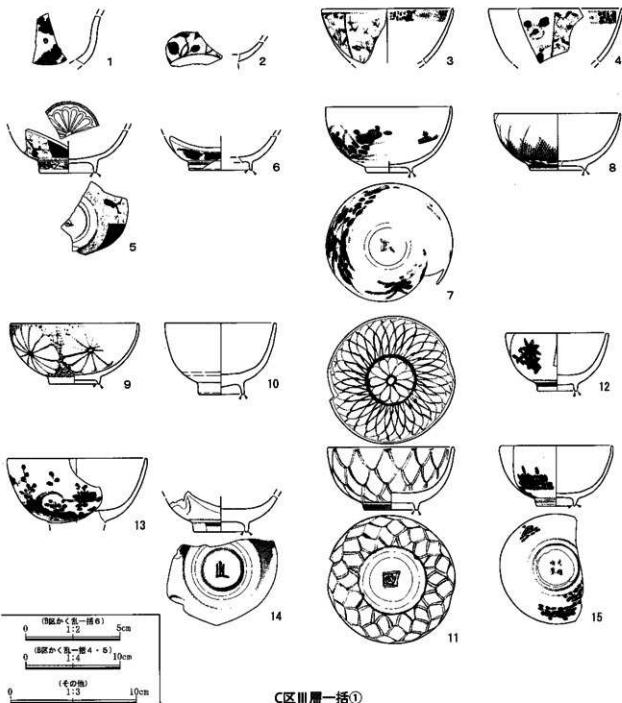
B区表土一括



第 57 図 遺物実測図 29 (B区III層一括、B区表土一括)

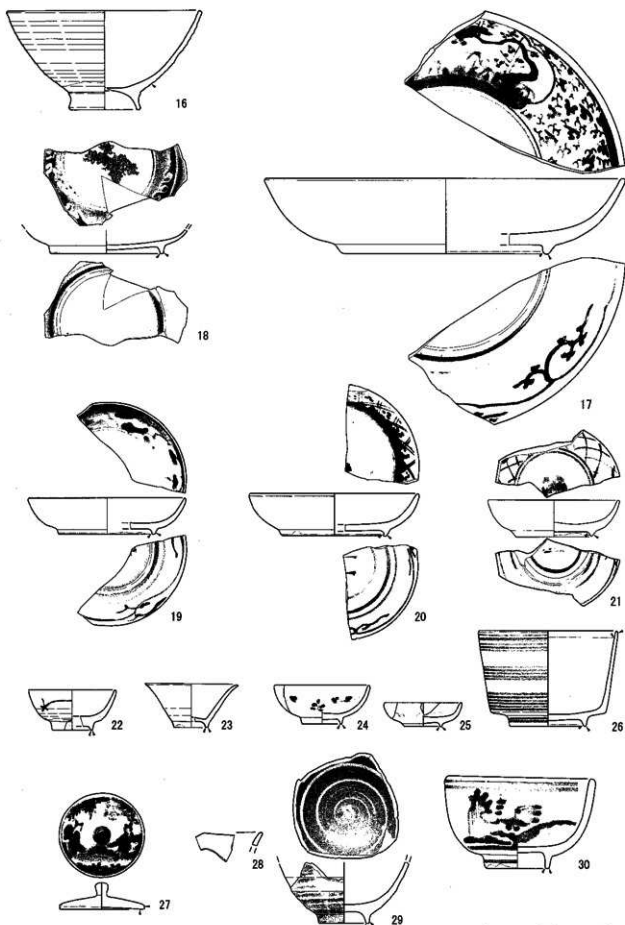


B区かく乱一括



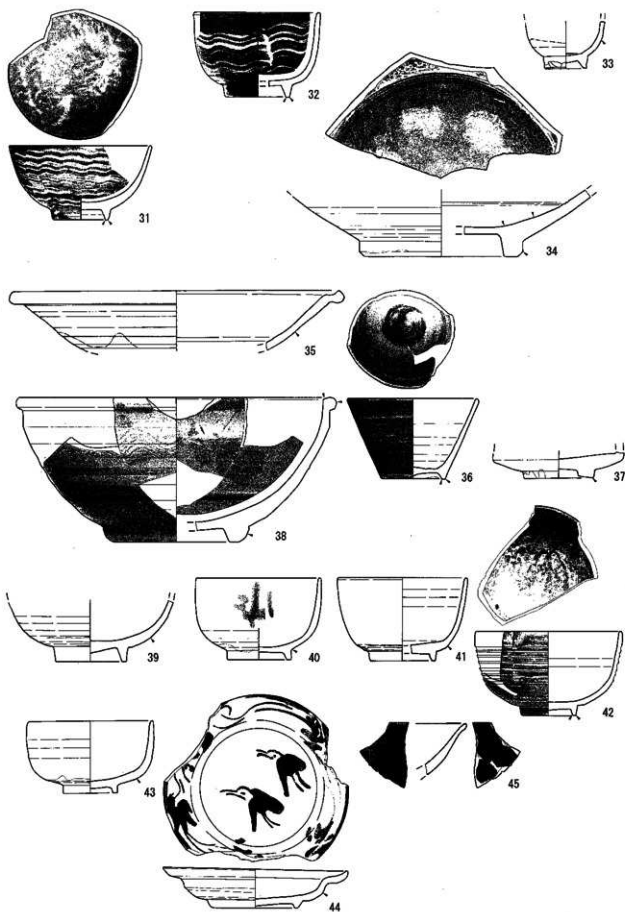
C区III層一括①

第58図 遺物実測図30 (B区かく乱一括、C区III層一括①)

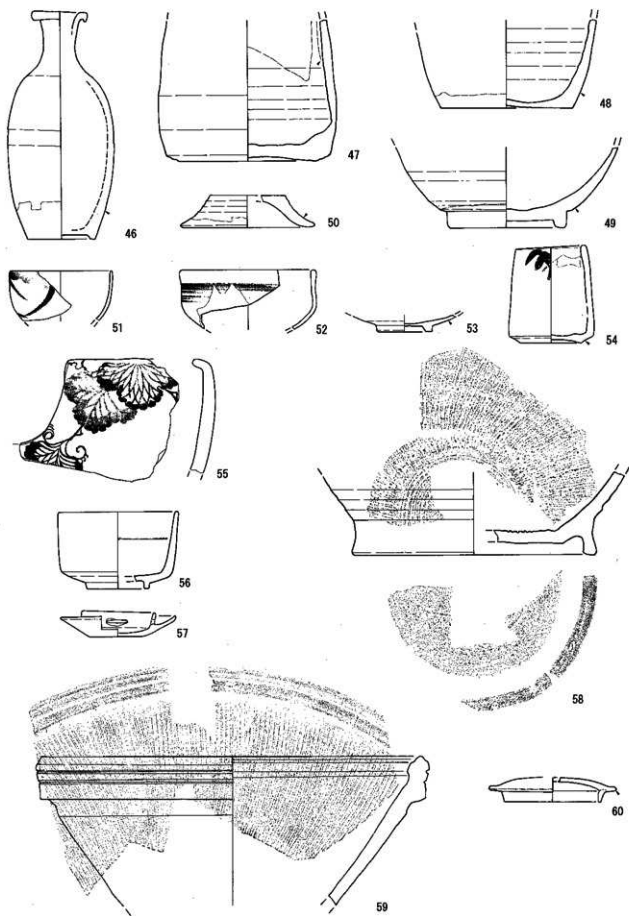


C区III層一括②

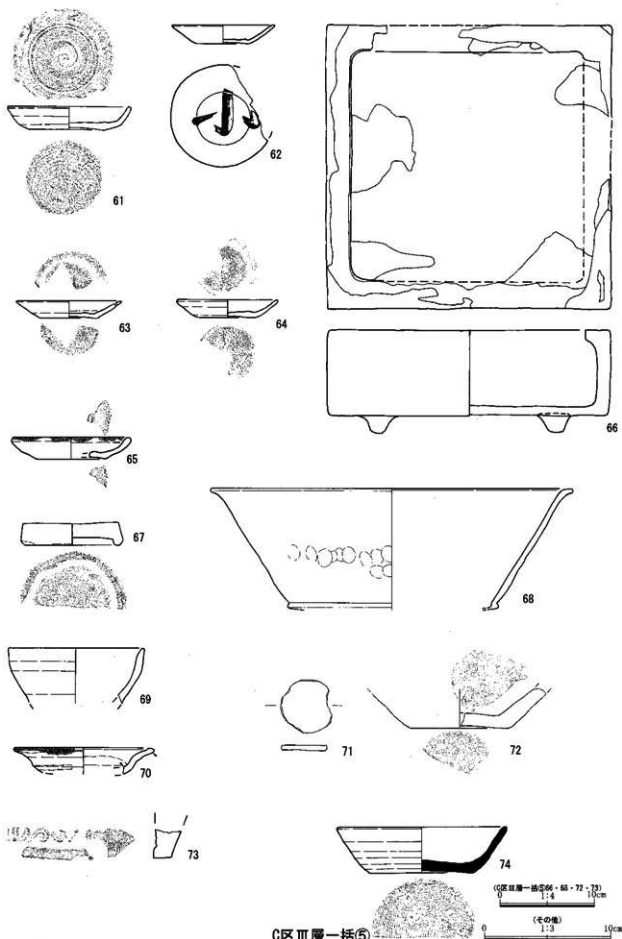
第59図 遺物実測図31 (C区III層一括②)



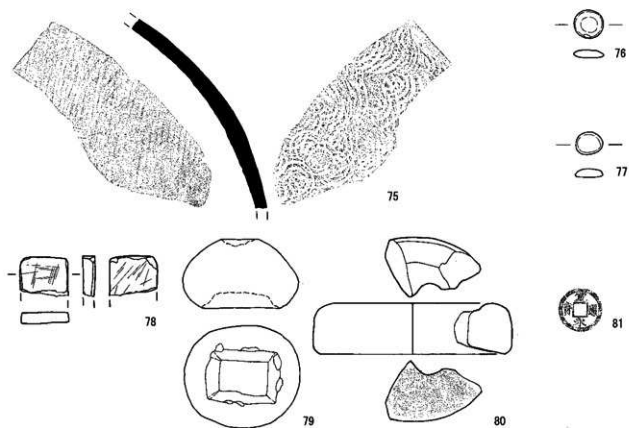
C区皿層一括③
第60圖 遺物実測図32 (C区皿層一括③)



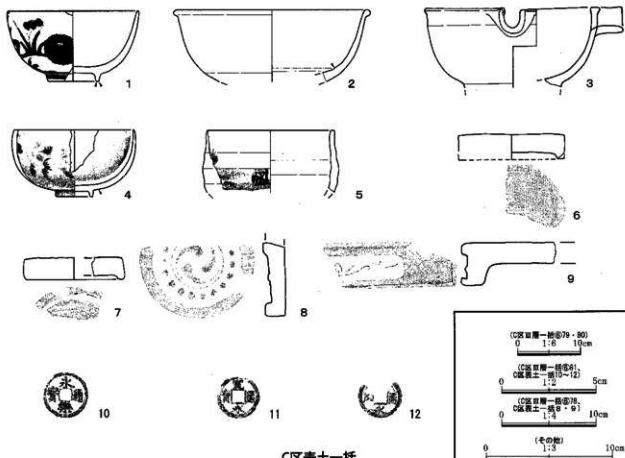
第61图 C区III层一括④
 遗物实测图33 (C区III层一括④)



第62図 C区皿層一括⑤
遺物実測図34 (C区皿層一括⑤)

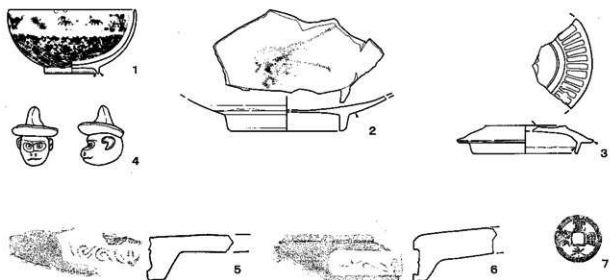


C区III層一括⑥

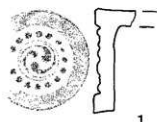


C区表土一括

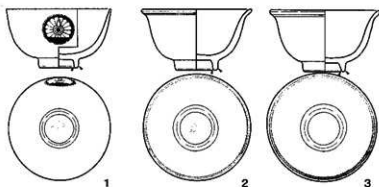
第 63 図 遺物実測図 35 (C区III層一括⑥、C区表土一括)



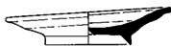
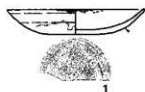
C区かく乱一括



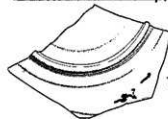
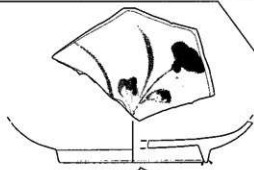
D区表土一括



D区かく乱一括



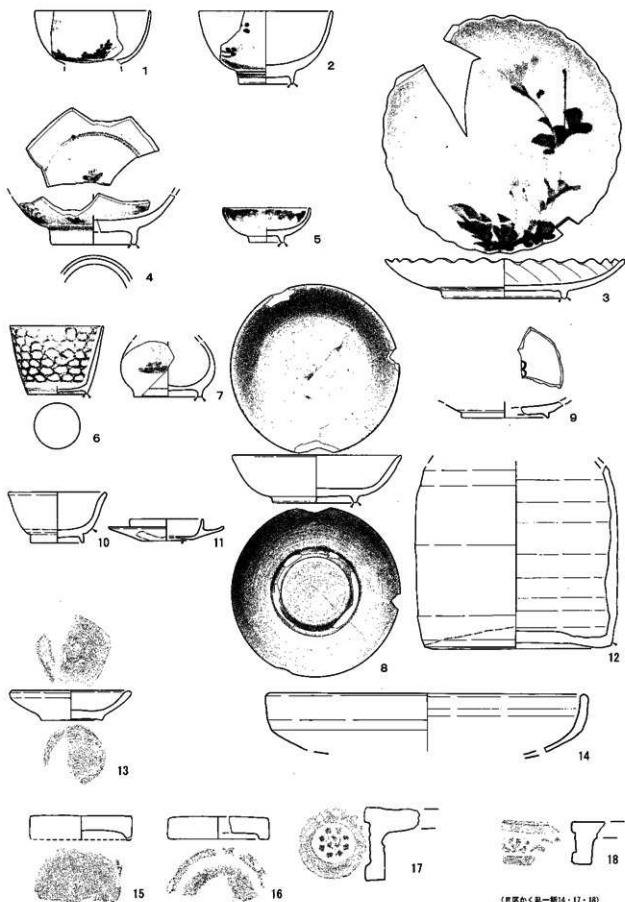
E区III層一括



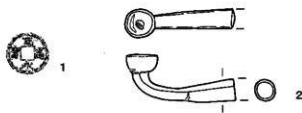
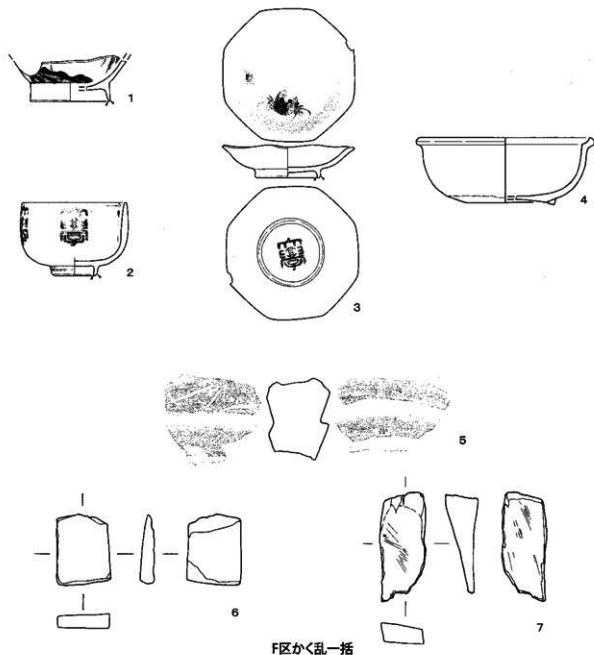
E区表土一括



第64図 遺物実測図36 (C区かく乱一括、D区表土一括、D区かく乱一括、E区III層一括、E区表土一括)



E区かく乱一括
第 65 図 遺物実測図 37 (E 区かく乱一括)



遺跡一括

0 (遺跡一括 1~2) 5cm 0 (F区かく乱一括 5~7) 10cm 0 (その他) 10cm

第 66 図 遺物実測図 38 (F区かく乱一括、遺跡一括)

第6表 出土遺物観察表

番号	図面番号	遺構	調査区	種類	①口径(高さ)②底径(幅)③底径(厚さ)※単位(cm)	残存状態	④地産⑤色調⑥胎土⑦石材⑧成・変形技法の特徴(胎形・文様の特徴)	備考
1	第29図 PL-17	1号 建物跡	B区	磁器 碗	①(11.8)	口縁～底部 30%	②白色③口口口成形	JC-1-a. 明治20年～30年代。表土一括と接合
2	第29図 PL-17	1号 建物跡	B区	磁器 皿	①(13.4)②3.3③(5.6)	30%	②白色③口口口成形	JC-2-a. 明治初
3	第29図 PL-17	1号 建物跡	B区	磁器 染付皿	③6.8	底部10%	②白色③口口口成形	E群。
4	第29図 PL-17	1号 建物跡	A区	レンガ	①10.9②23.0③6.0	完形	②深褐色③白色微粒子	「上敷免張」刷印。
5	第29図 PL-17	1号 建物跡	A区	鉄 更水通管	径2.2	完形		
6	第29図 PL-17	1号 建物跡	A区	鉄 更水通管	径2.1	完形		
7	第29図 PL-17	1号 建物跡	B区	石製品 碁目石	高さ5.1奥行8.4幅8.7	完形	④角閃石安山岩	外面上部棒状工具による刻痕あり。
1	第29図 PL-17	4号溝	A区	陶器 碗	①(8.7)②6.2③(4.5)	20%	②白色③口口口成形、灰釉施釉	TB-1-a. 18世紀前。Ⅲ層一括と接合
1	第29図 PL-17	3号 集水 槽	A区	レンガ	①11.3②22.7③5.8	完形	②茶褐色③白色微粒子	裏込出土。「上敷免張」刷印。
1	第29図 PL-17	5号溝	A区	磁器 碗	①(9.5)	20%	②白色③口口口成形	JB-1-V. 18世紀
2	第29図 PL-17	5号溝	A区	陶器 鉢	③8.5	底部75%	②灰白色③口口口成形	TC-5. 17世紀後～18世紀初
1	第29図 PL-17	3号 集水 槽	D区	土器 内耳	①(32.0)	口縁部～胴部10%	①還元灰味②黒褐色③白色・赤色微粒子④外面:口縁部横ナデ。体部指サエ。内面:横ナデ	裏込出土。外面スエ付。中世。
1	第29図 PL-17	10号溝	C区	磁器 碗	①(10.2)②5.4③(3.8)	30%	②白色③口口口成形	JB-1-a. 18世紀中
2	第29図 PL-17	10号溝	B区	磁器 碗	③(3.7)	体部～底部30%	②白色③口口口成形	JB-1-a. 18世紀初
3	第29図 PL-17	10号溝	C区	須恵器 高台付鉢	③7.5	底部80%	①還元②黄灰色③白色微粒子④口口口成形。外面:底部回転糸切後高台貼付	平安
4	第29図 PL-17	10号溝	B区	瓦 軒丸瓦	高さ8.5厚さ1.9	瓦当部分90%	①普通②褐色③白色・赤色微粒子。縦線雲母	
5	第29図 PL-17	10号溝	C区	瓦 軒丸瓦	厚さ2.1	瓦当部分40%	①普通②褐色③白色・赤色微粒子	
6	第29図 PL-17	10号溝	B区	須恵器 鉢		破片	①還元②灰白色③白色微粒子④外面:平行印。内面:指サエ	
1	第30図 PL-17	3号 集水 槽	C区	陶器 鉢	①(11.0)②(5.0)	20%	②白色③口口口成形。鉄釉施釉後、口縁部にうのふ輪	TC-1-a. 17世紀後
2	第30図 PL-17	3号 集水 槽	C区	陶器 鉢	①10.6②2.6③4.8	70%	②白色③口口口成形。外面:底部右側回転糸切	TC-00-a. 18世紀
1	第30図 PL-17	4号 集水 槽	C区	陶器 鉢	①(10.4)②5.2③3.8	40%	②白色③口口口成形。	JC-1-a. 19世紀後
1	第30図 PL-17	22号溝	D区	土器 七輪	①(26.5)②23.7③21.4	40%	①②還元③白色微粒子。金銅④外面:無釉。口縁部にスリキス文。底部回転糸切後高台付サエ。体部:指サエ。口縁部指サエは体部指サエで覆ナデ。口部部分は粘土を敷き塗り	DZ-48-a. 近代
1	第30図 PL-17	65号土坑	C区	石製品 礎石	②2.5③1.4	破片	④波紋岩	
1	第30図 PL-17	11号井戸	D区	磁器 碗		口縁部5%	④オリブ灰色③口口口成形。外面:轆轤による施文	同安楽。青磁
1	第30図 PL-17	1号土坑	A区	土器 鉢鉢鉢	③8.8	体部50%、底部100%	①普通②褐色③白色微粒子。縦線雲母。白色針状物。灰④口口口成形。底部無釉。焼成前底部穿孔	DZ-21-a
2	第30図 PL-17	1号土坑	A区	土器 鉢鉢鉢	①10.1②8.5③7.0	口縁部～体部80%、底部100%	①普通②褐色③白色・赤色微粒子。縦線雲母④口口口成形。底部回転糸切。焼成前底部穿孔	DZ-21-a
1	第30図 PL-17	3号土坑	A区	磁器 鉢		破片	②白色③口口口成形	JB-2-a. 17世紀末～18世紀初
1	第30図 PL-17	1号土坑	A区	土器 かわらけ	①(9.2)②2.7③5.6	口縁部10%、体部～底部50%	①普通②褐色③白色・赤色・黒色微粒子④口口口成形。外面:底部回転糸切	DZ-2
1	第30図 PL-17	15号土坑	A区	陶器 鉢	③8.5②3.5③4.1	完形	②白色③口口口成形。鉄釉施釉。外面:底部無釉	TC-6. 18世紀
2	第30図 PL-17	15号土坑	A区	陶器 鉢	③(13.0)	底部30%	②白色③口口口成形。鉄釉施釉。外面:回転糸切。内面:底面回転糸切。内面:底面18本筋。	TC-29. 18世紀前。指目器
3	第30図 PL-17	15号土坑	A区	瓦 軒丸瓦	①(15.7)②2.6	瓦当部分80%	①普通②灰白色③白色・黒色微粒子	
1	第30図 PL-18	22号土坑	B区	磁器 鉢	①(7.8)②4.6③3.3	口縁～体部5%、底部100%	②白色③口口口成形	JB-1-a. 18世紀初
2	第30図 PL-18	22号土坑	B区	磁器 鉢	①(6.9)②4.8③(3.1)	口縁～体部10%、底部30%	②白色③口口口成形	JB-6-a. 17世紀末～18世紀初
3	第30図 PL-18	22号土坑	B区	陶器 鉢	①(18.0)②7.5③6.6	40%	②にぶい褐色③きめ細かい④口口口成形。付高台。白化粘土の跡あり	TB-5. 17世紀末～18世紀初
4	第30図 PL-18	22号土坑	B区	陶器 鉢	①7.8②1.9③4.3	完形	②白色③口口口成形。削り出し高台。灰釉施釉で外面底部無釉。	TC-2-p. 18世紀前
5	第30図 PL-18	22号土坑	B区	瓦 軒丸瓦	径10.7厚さ1.8	瓦当部分50%	①普通②灰白色③白色微粒子	
1	第31図 PL-18	30号土坑	B区	土器 皿	①(9.9)②1.6③(5.0)	30%	①普通②淡黄褐色③白色・赤色微粒子④口口口成形。外面:底部回転糸切	DZ-2. 2号性格不明遺構と接合。内外面の口部部にスエ付
2	第31図 PL-18	30号土坑	B区	石製品 茶臼(上臼)	径19.5厚さ12.8	60%	③麻石安山岩	
3	第31図 PL-18	30号土坑	B区	鉄 更水通管	径2.4	完形		

番号	調査番号	遺構	調査区	種類	①口縁(高さ)②器高(幅) ③底径(厚さ)単位cm	残存状態	①焼成②色調③胎土④石材⑤成・整形技法の特 徴(器形、文様の特徴)	備考
4	第31回 PL18	30号土坑	B区	縄 文・通宝	径2.3	完形		
5	第31回 PL18	30号土坑	B区	縄 文・通宝	径2.3	完形		
6	第31回 PL18	30号土坑	B区	縄 文・通宝	径2.2	完形		
1	第31回 PL18	33号土坑	B区	土器 かわらけ	①7.4②2.0③4.9	口縁～体部 60%、底部 100%	①普通②明赤褐色③白色、赤色、黒色微粒子 ④ロクロ成形。外面：底部回転糸切	中世
2	第31回 PL18	34号土坑	B区	磁器 碗	③5.4	底部100%	②白色③ロクロ成形	JB-1-g, 17世紀後。外面に若干スズ付着
3	第31回 PL18	34号土坑	B区	土器 内耳		口縁～体部 5%	①還元気焼②黄褐色③白色、赤色、黒色微粒子④外面：口縁部横ナデ。体部部サナエ。内面：横ナデ	中世。外面スズ付着
1	第31回 PL18	42号土坑	B区	磁器 皿	①(12.8)②3.5③(8.8)	10%	②白色③ロクロ成形	JB-2-e, 17世紀末～18世紀初
2	第31回 PL18	42号土坑	B区	磁器 杯	①(8.6)②5.6③4.0	口縁～体部 60%、底部 100%	②白色③ロクロ成形	JB-6-b, 17世紀末～18世紀初。白磁。内外面底部若干スズ付着
3	第31回 PL18	42号土坑	B区	陶器 碗	①(10.8)②6.7③5.1	30%	②白色③ロクロ成形。灰釉施釉で外面底部無釉	TC-1-d, 18世紀前
4	第31回 PL18	42号土坑	B区	陶器 仏飯器	③4.8	体部～底部 90%	②白色③ロクロ成形。灰釉施釉で外面底部無釉	TC-8, 18世紀前
5	第31回 PL18	42号土坑	B区	陶器 椀鉢	③(13.0)	底部30%	②白色③ロクロ成形。鉄釉施釉	TC-29, 17世紀末～18世紀初
6	第31回 PL18	42号土坑	B区	土器 皿	①9.7②1.8③6.5	60%	①普通②褐色③白色、赤色、黒色微粒子④ロクロ成形。外面：底部回転糸切	DZ-2
7	第31回 PL18	42号土坑	B区	瓦 丸瓦	①(26.8)②15.7③2.1	80%	①断面サンドイッチ状②黄灰色③白色、黒色微粒子④焼成前に2箇所穿孔	
8	第32回 PL18	42号土坑	B区	瓦 軒丸瓦	径(14.0)	瓦当部分30%	①普通②黄灰色③白色、黒色微粒子	
9	第32回 PL18	42号土坑	B区	瓦 軒平瓦	高さ4.7幅(10.1)厚さ2.1	瓦当部分60%	①普通②灰色③白色、黒色微粒子	
1	第32回 PL18	51号土坑	C区	磁器 碗	①(9.8)	口縁～体部 30%	②白色③ロクロ成形	JB-1-f, 18世紀前半
1	第32回 PL18	52号土坑	C区	土器 皿	①7.7②1.3③3.8	50%	①やや硬質②にぶい褐色③白、黒色微粒子。横筋施釉④ロクロ成形。外面：底部左回転糸切	DZ-2-b
1	第32回 PL19	54号土坑	C区	陶器 油受け皿	①8.8②2.1③4.0	90%	②にぶい褐色③ロクロ成形。外面：底部回転糸切へう張り	TF-40, 17世紀末～18世紀初。外面にわずかにスズ付着
2	第32回 PL19	54号土坑	C区	土器 皿	①8.8②1.8③5.2	完形	①やや軟質②にぶい褐色③黒色微粒子④ロクロ成形。外面：底部左回転糸切	DZ-2-b
3	第32回 PL19	54号土坑	C区	瓦 軒丸瓦	径11.4厚さ2.0	瓦当部分 100%	①断面サンドイッチ状②青灰色③赤色微粒子④焼成前に1箇所穿孔	
4	第32回 PL19	54号土坑	C区	瓦 丸瓦	①28.3②11.0③2.0	完形	①普通②黄灰色③赤色微粒子④焼成前に1箇所穿孔	
1	第32回 PL19	56号土坑	C区	土器 皿	③(5.6)	体部～底部 30%	①普通②褐色③白色微粒子、金象母④板作成形	DZ-51
1	第32回 PL19	56号土坑	C区	陶器 片口鉢	③6.3	体部40%、底 部100%	②灰白色③ロクロ成形。灰釉施釉で外面底部無釉	TC-23-b, 18世紀後
2	第32回 PL19	56号土坑	C区	土器 皿	①(7.8)②1.4③(4.0)	30%	①やや硬質②褐色③白色、黒色微粒子④ロクロ成形。外面：底部回転糸切	DZ-2
1	第32回 PL19	69号土坑	E区	土器 皿	①(7.9)②1.2③(4.0)	30%	①普通②褐色③白色、赤色微粒子④ロクロ成形。外面：底部回転糸切	DZ-2
1	第33回 PL19	70号土坑	E区	磁器 碗	①(10.0)	口縁～体部 30%	②白色③ロクロ成形	JB-1-f, 18世紀前半
2	第33回 PL19	70号土坑	E区	磁器 碗	①9.9②5.9③3.8	口縁～体部 30%、底部 100%	②白色③ロクロ成形	JB-1-u, 17世紀末～18世紀初。白磁。90号土坑、P552と接合
3	第33回 PL19	70号土坑	E区	磁器 皿	①10.0②2.2③5.5	口縁～体部 60%、底部 100%	②白色③ロクロ成形。外面：底部「大明年」の文字	JB-2-e, 18世紀前
4	第33回 PL19	70号土坑	E区	磁器 皿	①18.0②4.4③9.9	完形	②白色③ロクロ成形。口唇部口縁	JB-2-e, 18世紀後半～19世紀初
5	第33回 PL19	70号土坑	E区	磁器 鉢		底部50%	②白色③ロクロ成形	JB-5-f, 17世紀後半。69号土坑・P552と接合
6	第33回 PL19	70号土坑	E区	磁器 杯	①(8.9)②3.6③(3.2)	20%	②白色③ロクロ成形	JB-6-a, 18世紀
7	第33回 PL19	70号土坑	E区	磁器 仏飯器	①6.9②4.9③4.0	口縁部70%、体 部～底部100%	②白色③ロクロ成形	JB-8-b, 18世紀前
8	第33回 PL19	70号土坑	E区	磁器 碗	③4.9	底部100%	②灰白色③ロクロ成形	JB-10, 近世
9	第33回 PL19	70号土坑	E区	磁器 蓋物	①5.8②3.3③3.2	70%	②白色③ロクロ成形。口唇部内面・高台部無釉	JB-13-a, 近世
10	第33回 PL19	70号土坑	E区	磁器 ミニチュア	①(3.1)②1.7③1.3	50%	②白色③ロクロ成形	JB-81, 18世紀。黄土と接合
11	第33回 PL19	70号土坑	E区	磁器 蓋	①(9.8)	口縁～体部 20%	②白色③ロクロ成形	JB-00-k, 18世紀
12	第33回 PL19	70号土坑	E区	陶器 鉢	③3.5	体部85%、底 部100%	②にぶい褐色③ロクロ成形。内外面：横筋施釉	TC-1-q, 18世紀中
13	第33回 PL19	70号土坑	E区	陶器 椀鉢	③(13.9)	底部30%	②白色③ロクロ成形。外面：体部回転糸切へう張り。内面：横筋施釉。内面：横筋11～12本	TC-29, 18世紀。横筋入り減る。

番号	図版番号	遺構	調査区	種類	①口径(角)②器高(幅) ③底径(厚さ)※単位cm	残存状態	①焼成②釉③胎土④石材⑤成・製形技法の特 徴(形状・文様の特徴)	備考
14	第33図 PL-19	70号土坑	E区	陶器 鉢	①32.4	口縁部50%	②白色③ロウロ成。内面：菊目16本	TC-25。17世紀末～ 18世紀初。69号土坑、 P552と接合
15	第33図 PL-19	70号土坑	E区	陶器 ミニチュア	長さ(4.1)器高1.5幅(4.1)	50%	②白色	TZ-61。近世
16	第33図 PL-19	70号土坑	E区	土器 皿	①6.2②1.8③3.3	口縁～底部 60%、底部 100%	①やや硬質②褐色③黒色微粒子。微細雲母、 金雲母④ロウロ成。外面：底部回転糸切	DZ-2
17	第33図 PL-19	70号土坑	E区	土器 皿	①(8.0)②1.4③(3.7)	口縁～底部 40%、底部 20%	①やや硬質②褐色③白色・黒色微粒子④ロウ ロ成。外面：底部回転糸切	DZ-2
18	第33図 PL-19	70号土坑	E区	土器 皿	①7.9	口縁～底部 50%	①やや硬質②褐色③白・赤・黒色微粒子④ロ ウロ成。外面：底部回転糸切	DZ-2。76号土坑と接合
19	第33図 PL-19	70号土坑	E区	土器 皿	①6.0②1.8③6.2	90%	①普通②褐色③白色・黒色微粒子④ロウロ成 形。外面：底部左回転糸切	DZ-2b
20	第34図 PL-19	70号土坑	E区	土器 皿	①6.3②2.0③6.0	80%	①普通②褐色③白色・赤色・黒色微粒子 ④ロウロ成。外面：底部左回転糸切	DZ-2b
21	第34図 PL-19	70号土坑	E区	土器 皿	①8.0②1.5③3.2	90%	①やや硬質②褐色③白色・黒色微粒子。微細 雲母④ロウロ成。外面：底部左回転糸切	DZ-2b
22	第34図 PL-19	70号土坑	E区	土器 皿	①7.8②1.5③4.0	70%	①やや硬質②褐色③白色微粒子。赤色微粒子。微 細雲母④ロウロ成。外面：底部左回転糸切	DZ-2b
23	第34図 PL-19	70号土坑	E区	土器 鉢	②4.9	破片	①断面サンドイッチ状②暗褐色③黒色微粒子 ④外面：口縁部横ナデ、底部無調整、底部磨 れ粉。内面：横ナデ	DZ-47b
24	第34図 PL-19	70号土坑	E区	土器 蓋	①7.9②2.0③8.2	完形	①普通②褐色③白色・赤色微粒子・金雲母④ 内面：菊目直	DZ-00
25	第34図 PL-19	70号土坑	E区	火鉢		破片	①普通②灰褐色③白色・赤色微粒子。微細雲 母④外面：スタンプ文施文	中世
26	第34図 PL-19	70号土坑	E区	瓦 軒平瓦	②3.8③2.3	瓦当部分40%	①普通②灰褐色③赤色・黒色微粒子	
27	第34図 PL-19	70号土坑	E区	磁器 杯	①5.1②3.9③2.3	口縁～底部 50%、底部 100%	②白色③ロウロ成。外面：底部「大明年製」 の字款	JB-6-d。17世紀末～ 18世紀初。69号土坑、 P552と接合
28	第34図 PL-19	70号土坑	E区	石製品 破	③1.6	破片	④粘板岩	裏面に字有
29	第34図 PL-19	70号土坑	E区	石製品 破	②4.3③0.6	破片	④粘板岩	
30	第34図 PL-19	70号土坑	E区	鉄製品 刀子	①10.1②2.2③(10.4)	完形		
31	第34図 PL-19	70号土坑	E区	鉄製品 針	①2.9②0.6③0.3	破片		
1	第34図 PL-20	72号土坑	E区	土器 皿(内面回転糸切)	①6.3②2.0③5.6	口縁～底部 70%、底部 100%	①普通②褐色③赤色微粒子④ロウロ成。外 外面：底部左回転糸切	DZ-2b。73号土坑と接 合。破損(内外面磨耗)
2	第34図 PL-20	72号土坑	E区	石製品 石臼(石)	真行13.5幅15.0高さ10.4	壳形	④輝石安山岩	水輪にしては形がいびつ
1	第34図 PL-20	76号土坑	E区	陶器 片口鉢	①(16.0)	口縁部20%	②白色③ロウロ成。内外面：灰釉	TC-23b。18世紀初
2	第34図 PL-20	76号土坑	E区	鉄製品 針	①6.1②0.7③0.4	完形		
1	第34図 PL-20	80号土坑	E区	陶器 鉢	①(10.8)②5.1③(4.0)	口縁～底部 20%、底部 40%	②にぶい褐色③ロウロ成。白化磁土の遺状 の刷毛目	TB-1-g。17世紀末～18 世紀初
2	第34図 PL-20	80号土坑	E区	陶器 香炉・火入れ	③(5.2)	底部50%	②にぶい褐色③ロウロ成。陶胎染付	TB-9。17世紀～18世紀 初。重層一括と接合
3	第34図 PL-20	80号土坑	E区	陶器 鉢	①(9.0)②1.8③(3.8)	口縁～底部 40%、底部5%	②白色③ロウロ成。内外面：灰釉。外面： 底部無釉	TC-2-a。17世紀。重層 一括と接合
1	第34図 PL-20	85号土坑	E区	土器 軒瓦	径8.2厚さ1.9	瓦当部分90%	①普通②灰色③白色・赤色微粒子。微細雲母	
1	第35図 PL-20	86号土坑	E区	磁器 鉢	①(10.8)	口縁～底部 30%	②白色③ロウロ成	JB-1。18世紀
2	第35図 PL-20	86号土坑	E区	磁器 鉢	①(8.8)	口縁～底部 30%	②白色③ロウロ成	JB-1-4。17世紀末～18 世紀初
3	第35図 PL-20	86号土坑	E区	磁器 鉢	①(9.8)	口縁～底部 30%	②白色③ロウロ成	JB-1-4。17世紀末～18 世紀初
4	第35図 PL-20	86号土坑	E区	磁器 鉢	③(4.3)	底部～底部 30%	②白色③ロウロ成	JB-1-4。17世紀末～18 世紀初
5	第35図 PL-20	86号土坑	E区	磁器 鉢	①(9.8)	口縁～底部 20%	②白色③ロウロ成	JB-1-g。16世紀前～中
6	第35図 PL-20	86号土坑	E区	磁器 鉢	③4.2	底部80%	②白色③ロウロ成。外面：底部「大明年製」 の字款	JB-1-g。16世紀前
7	第35図 PL-20	86号土坑	E区	磁器 鉢	①(9.4)	口縁～底部 30%	②白色③ロウロ成	JB-1-u。17世紀末～18 世紀初
8	第35図 PL-20	86号土坑	E区	磁器 鉢	①(9.9)	口縁～底部 40%	②白色③ロウロ成	JB-1-v。18世紀前～中
9	第35図 PL-20	86号土坑	E区	磁器 皿	③(7.8)	底部20%	②白色③ロウロ成	JB-2-a。17世紀末～18 世紀初
10	第35図 PL-20	86号土坑	E区	磁器 皿	①(12.3)②2.9③(7.2)	40%	②白色③ロウロ成	JB-2-g。18世紀前～中。
11	第35図 PL-20	86号土坑	E区	陶器 鉢	①(4.4)②1.7③(1.9)	20%	②白色③型作リ	JB-8-a。18世紀後～19 世紀初
12	第35図 PL-20	86号土坑	E区	磁器 仏師器	③3.8	底部90%	②白色③ロウロ成	JB-8-c。18世紀

番号	図番番号	通称	調査区	種類	①口径(高さ)②器高(幅)③底径(厚さ)※単位cm	残存状況	④胎成⑤色調⑥胎土⑦石材⑧成・整形技法の特徴(胎形・文様の特徴)	備考
13	第35図 PL-20	86号土坑	E区	磁器 ミニチュア	①(3.9)②1.8③(1.5)	40%	②白色③ロウ口成形	JB-61. 18世紀か
14	第35図 PL-20	86号土坑	E区	陶器 碗	②7.0	底部100%	②白色③ロウ口成形。外面:底部「輪」の刻印。 底面無釉。内外面:灰焼。	TB-1-b. 17世紀末～18世紀初
15	第35図 PL-20	86号土坑	E区	陶器 碗	①(13.0)②4.9③4.6	40%	②白色③ロウ口成形。内外面:灰焼。外面: 底面無釉。細い貫入	TB-1-c. 18世紀前。かく乱と接合
16	第35図 PL-20	86号土坑	E区	陶器 碗	③(3.8)	体部～底部 30%	②にぶい褐色③ロウ口成形。白化粘土の刷毛 塗	TB-1-d. 17世紀末～18世紀前
17	第35図 PL-20	86号土坑	E区	陶器 碗	②4.3	体部20%、底 部100%	②にぶい褐色③ロウ口成形。白化粘土の波状 刷毛目	TB-1-g. 17世紀末～18世紀前
18	第35図 PL-20	86号土坑	E区	陶器 碗	②4.4	底部60%	②灰白色③ロウ口成形。内外面:鉄焼。外面: 底面無釉。	TC-1-a. 17世紀
19	第35図 PL-20	86号土坑	E区	陶器 碗	②(5.4)	体部～底部 20%	②白色③ロウ口成形。内外面:灰焼。外面: 底面無釉。細い貫入	TC-1-d. 18世紀前～中
20	第35図 PL-20	86号土坑	E区	陶器 碗	②(5.4)	底部20%	②白色③ロウ口成形。内外面:鉄焼。外面: 底面無釉。	TC-1-a. 17世紀末～18世紀前
21	第35図 PL-20	86号土坑	E区	陶器 碗	①(11.0)	口縁～体部 40%	②にぶい褐色③ロウ口成形。体部に横オウエ 痕有。鉄焼	TC-1-q. 18世紀前～中
22	第35図 PL-20	86号土坑	E区	陶器 底	②0.9	底部60%	②白色③ロウ口成形。外面:鉄焼。底面無釉。 内面:無釉	TC-10-d. 17世紀末 18世紀初
23	第35図 PL-20	86号土坑	E区	陶器 鉢		口縁部破片	②白色③ロウ口成形。鉄焼	TC-29. 17世紀。口 部内面磨り減る
24	第35図 PL-20	86号土坑	E区	陶器 碗	①(8.6)	口縁～体部 30%	②白色③ロウ口成形。内外面:灰焼。外面: 底面無釉。色絵	TD-1-b. 18世紀前～中。 色絵の輪郭ほとんど削 落
25	第35図 PL-20	86号土坑	E区	陶器 碗	②0.3	口縁～体部 60%	②灰白色③ロウ口成形。内外面:灰焼。外面: 底面無釉。色絵	TD-1-b. 18世紀前～中
26	第35図 PL-20	86号土坑	E区	陶器 碗	①0.4②5.5③(3.3)	口縁～体部 70%、底 部100%	②白色③ロウ口成形。内外面:灰焼。外面: 底面無釉。	TD-1-b. 18世紀中
27	第35図 PL-20	86号土坑	E区	陶器 油受け皿	①(11.6)	口縁～体部 30%	②にぶい褐色③ロウ口成形	TE-40. 17世紀後
28	第35図 PL-20	86号土坑	E区	陶器 油受け皿	①(11.3)②1.9③(5.0)	口縁～体部 30%	②灰褐色③ロウ口成形。鉄焼	TF-40. 17世紀末～18世紀前
29	第35図 PL-20	86号土坑	E区	陶器 鉢		口縁部破片	②灰褐色③ロウ口成形。鉄焼	TK-29. 17世紀後
30	第35図 PL-20	86号土坑	E区	陶器 鉢		底面破片	②赤褐色③ロウ口成形。外面:体部凹転へ 形	TL-29. 18世紀前
31	第35図 PL-20	86号土坑	E区	土器 皿	①(9.7)②2.1③(6.3)	40%	①普通②褐色③白色・黄色微粒子③ロウ口成 形。外面:底面凹転未切	DZ-2. 内外面口唇部 にス付着
32	第35図 PL-20	86号土坑	E区	土器 皿	①(9.9)②2.5③(6.6)	30%	①普通②黒褐色③白色・赤色微粒子③ロウ口成 形。外面:底面凹転未切	DZ-2. 被熱(内外面黒 色)
33	第35図 PL-20	86号土坑	E区	土器 皿	①(8.0)②2.0③(4.1)	30%	①普通②にぶい褐色③白色・赤色・黒色微粒 子③ロウ口成形。外面:底面凹転未切	DZ-2. 内外面口唇部 にス付着
34	第35図 PL-20	86号土坑	E区	土器 皿	①(9.2)②1.9③(5.7)	30%	①普通②褐色③白色・赤色・黒色微粒子③ロ ウ口成形。外面:底面凹転未切	DZ-2
35	第35図 PL-20	86号土坑	E区	土器 皿	①(10.0)②1.9③5.0	口縁～体部 40%、底 部100%	①やや硬質②褐色③白色微粒子。微細磨母③ ロウ口成形。外面:底面凹転未切	DZ-2b
36	第35図 PL-20	86号土坑	E区	土器 七輪(開口)		60%	②普通②にぶい褐色③白色微粒子	DZ-48-c
37	第35図 PL-20	86号土坑	E区	土器	①7.7②6.9	70%	①普通②明褐色③白色・黒色微粒子	DZ. 内面ス付着
38	第35図 PL-20	86号土坑	E区	瓦 瓦	③(2.8)	破片	①普通②灰色③白色微粒子	
39	第35図 PL-20	86号土坑	E区	瓦 軒丸瓦	径(15.0)厚み2.2	瓦当部分30%	①普通②黄灰色③黒色微粒子	
40	第35図 PL-20	86号土坑	E区	瓦 軒丸瓦	径(14.0)厚み3.7	瓦当部分30%	①普通②灰色③白色微粒子	
41	第35図 PL-21	86号土坑	E区	瓦 軒丸瓦	径(8.0)厚み1.8	瓦当部分50%	①普通②黄灰色③白色微粒子	
42	第35図 PL-21	86号土坑	E区	瓦 軒平瓦	①27.0②5.2③2.3	瓦当部分90%	①普通②黄灰色③白色・赤色・黒色微粒子	
43	第35図 PL-21	86号土坑	E区	瓦 軒平瓦	①4.5②(19.5)③1.4	瓦当部分50%	①普通②灰色③白色・赤色・黒色微粒子	
44	第35図 PL-21	86号土坑	E区	瓦 軒平瓦	①6.5③(2.0)	瓦当部分30%	①普通②灰色③白色・赤色・黒色微粒子	
45	第35図 PL-21	86号土坑	E区	土器 鉢	①(12.0)	20%	①普通②褐色③白色微粒子④外面:口縁部 横ナデ。体部へくすり。内面:横ナデ	古墳後期
46	第35図 PL-21	86号土坑	E区	陶器 鉢		破片	①酸化臭気味②にぶい褐色③白色微粒子。片岩 ④外面:磨面状工具による波状文	
47	第35図 PL-21	86号土坑	E区	陶器 鉢		破片	①還元②灰色③白色微粒子④外面:磨面状工 具による波状文	
48	第35図 PL-21	86号土坑	E区	陶器 鉢	①3.9②1.3③1.4	破片	①普通②灰黄褐色③白色・黒色微粒子④外面: 縦方向の刷毛目。内面:縦方向の刷毛目	古墳
49	第37図 PL-21	86号土坑	E区	瓦 市目瓦	③2.1	破片	①酸化臭気味②灰黄褐色③白色微粒子	
50	第37図 PL-21	86号土坑	E区	瓦 市目瓦	③1.8	破片	①普通②にぶい褐色③白色微粒子	
51	第37図 PL-21	86号土坑	E区	瓦 瓦	径2.2	80%		
52	第37図 PL-21	86号土坑	E区	鉄製品 釘	①12.1②2.1③(0.7)	陶形		

番号	図号番号	遺構	調査区	種類	①口径(長さ)②高さ(幅) ③底径(厚さ)※単位cm	残存状態	④焼成⑤色⑥土質⑦石材⑧成・変形技法の特 徴(彫形・文様の特徴)	備考
53	第37図 PL-21	66号土坑	E区	鉄製品 鉄片	①8.9②2.3③0.2	残片		
54	第37図 PL-21	66号土坑	E区	鉄製品 鉄片	①5.7②5.5③2.2長さ 33.07g	破片		
1	第37図 PL-21	90号土坑	E区	磁器 碗	①1.3②1.6③0.3	破片	②白色	J9-1。近世。外周打ち欠 かれ二次利用されている
2	第37図 PL-21	90号土坑	E区	鏡 寛永通寶	径2.3	完形		
1	第37図 PL-21	92号土坑	E区	陶器 鉢	①5.4	底部100%	②灰白色③ロクロ成形。内外面：灰釉。外面： 底部無釉。細かき貫入。外面：底部中央に「小 松青」の刻印	TB-1-b。18世紀
1	第37図 PL-21	96号土坑	E区	鉢		底部10%		中世。内面磨耗
2	第37図 PL-21	96号土坑	E区	須恵器 器	①(15.8)	口縁30%	①還元気味②灰白色③白色微粒子④外面：体部 横ナデ。底部面転糸切	
1	第37図 PL-21	27号土坑	B区	磁器 白磁皿	③(9.0)	底部10%	②還元③灰白色④白色微粒子⑤ロクロ成形	
2	第37図 PL-21	27号土坑	B区	土器 高杯		胴部80%	②白色③ロクロ成形。内面：底部重々焼き直 有	C群。焼戻
3	第37図 PL-21	27号土坑	B区	土製品 (滑石)	①6.6②7.1③1.7		①滑石②褐色③白色・黒色微粒子④外面：ミ ガサ。内面・上部しぼり模有。中位～下部 縦方向のナデと横ナデ	古墳中期。9号溝と接合
1	第37図 PL-21	40号土坑	B区	土器 かわらけ	①(11.5)②2.7③5.9	口縁～体部 70%。底部 90%	①普通②褐色③白・赤・黒色微粒子④ロクロ成形。 外面：底部面転糸切	中世
2	第37図 PL-21	40号土坑	B区	土器 かわらけ	①(9.7)②2.2③6.0	30%	①普通②明赤褐色③白・赤・黒色微粒子④ロ クロ成形。外面：底部面転糸切	中世
3	第37図 PL-21	40号土坑	B区	土器 かわらけ	①(7.4)②1.8③4.2	口縁～体部 20%。底部 50%	①普通②褐色③白・赤・黒色微粒子④ロクロ成形。 外面：底部面転糸切	中世
4	第37図 PL-21	40号土坑	B区	須恵器 器	①(17.2)	口縁部50%	①酸化気味②にぶい黄褐色③白・赤・黒色微 粒子④ロクロ成形	平安
1	第38図 PL-21	66号土坑	D区	土器 かわらけ	①(9.8)②3.6③(5.3)	20%	①普通②にぶい黄褐色③白・赤・黒色微粒子。 きめ細かい④ロクロ成形。外面：底部面転糸切	中世
2	第38図 PL-21	66号土坑	D区	土器 内耳	③(26.4)	底部30%	①酸化②灰褐色③白・赤・黒色微粒子。復原 破。片巻④外面：体部、底部外周1cm横ナデ。 底部面転糸切。内面：横ナデ	中世
3	第38図 PL-21	66号土坑	D区	土器 内耳	③(28.8)	体部～底部 20%	①酸化②灰褐色③白・赤色微粒子④外面：体 部指オサエ。体部下位・底部外周1cm横ナデ。 底部面転糸切。内面：横ナデ	中世。外面体部ス付 留
4	第38図 PL-21	66号土坑	D区	磁鉢		口縁～体部 破片	①酸化②灰褐色③白・黒色微粒子④外面： 口縁部横ナデ。体部指オサエ。内面：口縁部 横ナデ。体部7本の横目	中世
5	第38図 PL-21	66号土坑	D区	磁鉢	③(10.0)	体部～底部 10%	①酸化②にぶい黄褐色③白・黒色微粒子④外面： 体部指オサエ。体部下位あるいは横ナデ。底部 面転糸切。内面：7本の横目	中世
6	第38図 PL-21	66号土坑	D区	瓦 軒丸瓦	径13.0厚さ2.2	瓦当部分 100%	①普通②暗灰色③白色微粒子	
1	第38図 PL-22	71号土坑	E区	須恵器 杯	③(7.6)	底部30%	①酸化気味②にぶい黄褐色③白・赤色微粒子 ④ロクロ成形。底部面転糸切	平安
2	第38図 PL-22	71号土坑	E区	灰釉陶器 器	①(9.3)	口縁部10%	①還元②灰白色③ロクロ成形。内外面：灰釉	平安
3	第38図 PL-22	71号土坑	E区	須恵器 重台付椀	③(8.0)	底部40%	①還元②灰白色③白色微粒子④ロクロ成形。外面： 底部面転糸切体部糸結	平安
4	第38図 PL-22	71号土坑	E区	須恵器 重台付椀	③(6.7)	底部40%	①還元②褐色③白色微粒子④ロクロ成形。外面： 底部面転糸切体部糸結。内外面：黒色結	平安
1	第38図 PL-22	28号土坑	B区	須恵器 杯	①13.8②3.7③7.0	完形	①還元②灰白色③ロクロ成形。外面：底部面 転糸切	平安
1	第38図 PL-22	48号土坑	C区	灰釉陶器 段皿	①(16.4)	口縁部30%	①還元②灰白色③ロクロ成形。内外面：灰釉	平安
2	第38図 PL-22	48号土坑	C区	灰釉陶器 重台付椀	①(13.8)	口縁部20%	①還元②灰白色③ロクロ成形。内外面： 灰釉	
1	第39図 PL-22	50号土坑	C区	須恵器 器	①(18.4)②3.2③(6.8)	30%	①還元②褐色③白色微粒子④ロクロ成形。 外面：つまみ外周は面転糸ヘラ削り	
2	第39図 PL-22	50号土坑	C区	土器 土器	①(10.0)	口縁～体部 20%	①普通②褐色③白色・赤色微粒子④外面：口 縁部横ナデ。体部ヘラ削り。内面：横ナデ	
3	第39図 PL-22	50号土坑	C区	鉄製品 刀子	①12.9②2.8③(0.3)	完形		確認。基部に木質残存
4	第39図 PL-22	50号土坑	C区	鉄製品 刀子	②1.3	破片		
5	第39図 PL-22	50号土坑	C区	鉄製品 釘	①6.0②2.2③(0.4)	ほぼ完形		上部、横方向に木目片 残る。下部、縦方向に 木目片残る
6	第39図 PL-22	50号土坑	C区	鉄製品 釘	①6.6②1.0③(0.5)	完形		上部、横方向に木目片 残る。下部、縦方向に 木目片残る
7	第39図 PL-22	50号土坑	C区	鉄製品 釘	②1.7③(0.3)	破片		上部、横方向に木目片 残る。下部、縦方向に 木目片残る
8	第39図 PL-22	50号土坑	C区	鉄製品 釘	①4.9②0.7③(0.4)	完形		上部、横方向に木目片 残る。下部、縦方向に 木目片残る

番号	図面番号	遺構	調査区	種類	①口径(長さ)②幅高(幅) ③底径(長さ)※単位cm	残存状態	①焼成②色調③胎土④石村⑤成・彫技法の特 徴(彫・文様の特徴)	備考
9	第39図 PL.22	50号土坑	C区	鉄製品 釘	①7.9②1.6③(0.3)	完形		上部、サビで詳細不明、 下部は縦方向に木目片 残る
10	第39図 PL.22	50号土坑	C区	鉄製品 釘	②1.5③(0.4)	完形		全体に横方向に木目片 残る。木目方向の細み をわせた他と異なる
11	第39図 PL.22	50号土坑	C区	鉄製品 釘	②0.6③0.3	破片		上縁、斜めに木目片残 る。下部横方向に木目 片残る
12	第39図 PL.22	50号土坑	C区	鉄製品 釘	②1.6③0.3	破片		全体に横方向に木目片 残る
13	第39図 PL.22	50号土坑	C区	鉄製品 釘	②1.5③(0.4)	破片		横方向に木目片残る
14	第39図 PL.22	50号土坑	C区	鉄製品 釘	②0.45③0.3	破片		上縁、横方向に木目片 残る
15	第39図 PL.22	50号土坑	C区	鉄製品 釘	②1.1③0.35	破片		横方向に木目片残る
16	第39図 PL.22	50号土坑	C区	鉄製品 釘	②0.9③(0.5)	破片		全体に縦方向に木目片 残る
17	第39図 PL.22	50号土坑	C区	鉄製品 釘	②1.5③(0.3)	破片		横方向に木目片残る
18	第39図 PL.22	50号土坑	C区	鉄製品 釘	②1.3③0.3	破片		横方向に木目片残る
19	第39図 PL.22	50号土坑	C区	鉄製品 釘	②0.9③0.3	破片		横方向に木目片残る
20	第39図 PL.22	50号土坑	C区	鉄製品 釘	②1.6③0.6	破片		横方向に木目片残る
21	第39図 PL.22	50号土坑	C区	鉄製品 釘	②1.7③(0.3)	破片		全体に横方向に木目片 残る
22	第39図 PL.22	50号土坑	C区	鉄製品 釘	②1.6③0.4	破片		横方向に木目片残る
23	第39図 PL.22	50号土坑	C区	鉄製品 釘	②1.2	破片		横方向に木目片残る
24	第39図 PL.22	50号土坑	C区	鉄製品 釘	②1.4③(0.4)	破片		全体に横方向に木目片 残る
25	第39図 PL.22	50号土坑	C区	鉄製品 釘	②0.9③0.4	破片		
26	第40図 PL.22	50号土坑	C区	石製品 白玉(未製品)	長さ2.4幅1.0厚さ0.4孔径 0.15重さ1.15g	破片		未加工。2箇所に孔有
27	第40図 PL.22	50号土坑	C区	石製品 白玉(未製品)	長さ1.1幅1.4厚さ0.25重 さ0.73g	破片		未加工
28	第40図 PL.22	50号土坑	C区	石製品 白玉(未製品)	長さ1.8幅0.9厚さ0.4重さ 0.73g	破片		未加工
29	第40図 PL.22	50号土坑	C区	石製品 白玉(未製品)	長さ1.3幅1.2厚さ0.4重さ 0.91g	破片		孔無。磨痕有。
30	第40図 PL.22	50号土坑	C区	石製品 白玉(未製品)	長さ1.5幅1.2厚さ0.3重さ 0.80g	破片		孔無。磨痕有。孔貫通 していない
31	第40図 PL.22	50号土坑	C区	石製品 白玉(未製品)	長さ1.2幅1.0厚さ0.35重 さ0.55g	破片		磨痕有。孔無
32	第40図 PL.22	50号土坑	C区	石製品 白玉(未製品)	長さ0.5幅1.1厚さ0.2重さ 0.22g	破片		微妙な孔
33	第40図 PL.22	50号土坑	C区	石製品 白玉(未製品)	タテ0.7ヨコ0.9厚さ0.2孔 径(0.1)重さ0.25g	破片		微妙な孔
34	第40図 PL.22	50号土坑	C区	石製品 白玉(未製品)	長さ1.2幅1.1厚さ0.3孔径 0.2重さ0.67g	破片		孔有。磨痕有。外周角 鋭る
35	第40図 PL.22	50号土坑	C区	石製品 白玉(未製品)	長さ1.1幅1.2厚さ0.4孔径 0.2重さ0.81g	破片		孔有。磨痕有。外周角 鋭る。裏からも孔を開 けている
36	第40図 PL.22	50号土坑	C区	石製品 白玉(未製品)	長さ0.7幅1.4厚さ0.3孔径 0.18重さ0.50g	破片		孔有。磨痕有。外周角 鋭る
37	第40図 PL.22	50号土坑	C区	石製品 白玉(未製品)	長さ0.7幅1.3厚さ0.5孔径 (0.2)重さ0.71g	破片		孔有。磨痕有。外周角 鋭る。孔角鋭る
38	第40図 PL.22	50号土坑	C区	石製品 白玉(未製品)	長さ1.0幅0.9厚さ0.3重さ 0.35g	破片		孔有。磨痕有。外周角鋭 る。孔貫通していない
39	第40図 PL.22	50号土坑	C区	石製品 白玉(未製品)	長さ0.9幅0.9厚さ0.3孔径 0.2重さ0.31g	破片		孔有。磨痕有。外周角鋭 る。孔貫通していない
40	第40図 PL.22	50号土坑	C区	石製品 白玉(未製品)	長さ0.9幅0.5厚さ0.5孔径 0.2重さ0.31g	破片		孔有。磨痕有。外周角 鋭る
41	第40図 PL.22	50号土坑	C区	石製品 白玉(未製品)	長さ0.8幅1.1厚さ0.4孔径 0.3重さ0.45g	破片		孔有。磨痕有。外周角 鋭る
42	第40図 PL.22	50号土坑	C区	石製品 白玉(未製品)	長さ0.9幅0.9厚さ0.3孔径 0.3重さ0.30g	破片		孔有。磨痕有。外周角 鋭る
43	第40図 PL.22	50号土坑	C区	石製品 白玉(未製品)	長さ0.8幅1.3厚さ0.5孔径 0.2重さ0.68g	破片		孔有。磨痕有。外周角 鋭る
44	第40図 PL.22	50号土坑	C区	石製品 白玉(未製品)	長さ0.7幅1.1厚さ0.3孔径 0.2重さ0.49g	破片		孔有。磨痕有。外周角鋭 る。孔角鋭る。孔に段有
45	第40図 PL.22	50号土坑	C区	石製品 白玉(未製品)	径0.9厚さ0.4孔径0.2重 さ0.26g	破片		孔有。磨痕有。外周角 鋭る
46	第40図 PL.22	50号土坑	C区	石製品 白玉(未製品)	長さ0.8幅0.7厚さ0.3孔径 0.2重さ0.28g	破片		孔有。磨痕有。外周角 鋭る
47	第40図 PL.22	50号土坑	C区	石製品 白玉(未製品)	径0.9厚さ0.4孔径0.2重 さ0.30g	破片		孔有。磨痕有。外周角 鋭る

番号	図面番号	遺構	調査区	種類	①口径(長さ) ②高さ(幅) ③底径(厚さ) ④厚さ⑤容	現状状態	①施成②色調③胎土④石材⑤⑥・整形技法の特徴(図形・文様の特徴)	備考
48	第40図 PL-22	50号土坑	C区	石製品 白玉(未製品)	径1.0厚さ0.4口径0.2重さ0.45g	破片		孔有。擦痕有。外周磨き有
49	第40図 PL-22	50号土坑	C区	石製品 白玉(未製品)	タテ0.5ヨコ0.7厚さ0.3口径(0.2)重さ0.18g	破片		孔有。擦痕無。外周磨き有
50	第40図 PL-22	50号土坑	C区	石製品 白玉(未製品)	長さ0.5幅1.0厚さ0.3口径0.25重さ0.17g	破片		孔有。擦痕無。外周一部磨き有
51	第40図 PL-22	50号土坑	C区	石製品 白玉(未製品)	径0.9厚さ0.45口径0.2重さ0.40g	破片		孔有。擦痕無。外周磨き有
52	第40図 PL-22	50号土坑	C区	石製品 白玉(未製品)	長さ0.6幅0.7厚さ0.2口径0.2重さ0.09g	破片		孔有。擦痕無。外周磨き有
53	第40図 PL-22	50号土坑	C区	石製品 白玉(未製品)	長さ0.7幅0.4厚さ0.2口径0.2重さ0.09g	破片		孔有。擦痕無。外周磨き有
54	第40図 PL-22	50号土坑	C区	石製品 白玉(未製品)	径0.7厚さ0.2口径0.2重さ0.07g	破片		孔有。擦痕無。外周磨き有
55	第40図 PL-22	50号土坑	C区	石製品 白玉(未製品)	径0.9厚さ0.2口径0.2重さ0.13g	破片		孔有。擦痕無。外周磨き有
56	第40図 PL-22	50号土坑	C区	石製品 白玉	径0.8厚さ0.3口径0.25重さ0.27g	実形		磨痕有
57	第40図 PL-22	50号土坑	C区	石製品 白玉	径0.9厚さ0.5口径0.2重さ0.79g	実形		磨痕有
1	第40図 PL-23	79号土坑	E区	須恵器 灰	①(11.7)②4.0③5.8	口縁～底部20%、底部80%	①酸化②褐色③白色・黒色微粒子④口口成形。外面：底面凹状切。内面：磨き処理。ミガキ	平安
2	第40図 PL-23	79号土坑	E区	須恵器 灰付付焼	③6.0	底部100%	①還元②黄灰色③白色・黒色微粒子④口口成形。外面：底面凹状切縁高台貼付	平安
3	第40図 PL-23	79号土坑	E区	須恵器 灰	①(17.8)	口縁部10%	①還元②にぶい黄褐色③白・赤・黒色微粒子④口口成形	
4	第40図 PL-23	79号土坑	E区	須恵器 灰付付焼	①(8.9)	底部30%	①普通②灰褐色③黒色微粒子・微細雲母④内外磨ナデ	平安
1	第40図 PL-23	95号土坑	E区	須恵器 灰	①(12.1)②3.8③5.2	口縁～底部30%、底部50%	①還元②灰色③白色・黒色微粒子④口口成形。外面：底面凹状切	平安
2	第40図 PL-23	95号土坑	E区	須恵器 灰付付焼	③7.6	底部100%	①還元②褐色③白・黒色微粒子④口口成形。外面：底面凹状切縁高台貼付	平安
3	第40図 PL-23	95号土坑	E区	須恵器 灰付付焼		底部～底部20%	①普通②にぶい褐色③白色微粒子④外面：磨ナデ	古墳前期
1	第40図 PL-23	49号土坑	C区	瓦 青瓦	②20.9③2.4	破片	①酸化気味②褐色③白色・赤色微粒子④内面：有目度	平安
1	第40図 PL-23	97号土坑	F区	石製品 打石片	①8.2②4.6③1.4	実形	④安山岩	
1	第41図 PL-23	1号 性格不明遺構	A区	磁器 碗	①9.8②4.5③4.0	90%	②白色③口口成形	JB-1-f. 18世紀前。内外面うすスス付量多
2	第41図 PL-23	1号 性格不明遺構	A区	磁器 碗	①(10.2)②5.2③3.7	口縁～底部70%、底部100%	②白色③口口成形	JB-1-f. 18世紀前
3	第41図 PL-23	1号 性格不明遺構	A区	磁器 碗	①(10.2)②5.1③(4.4)	20%	②灰白色③口口成形	JB-1-g. 18世紀前
4	第41図 PL-23	1号 性格不明遺構	A区	磁器 碗	①(6.8)②3.8③2.6	50%	②白色③口口成形	JB-6-c. 18世紀
5	第41図 PL-23	1号 性格不明遺構	A区	陶磁 灰	③3.6	口縁100%、底部30%	②白色③口口成形。外面：灰粒沈みかけ	TC-10-d. 18世紀前～今。五合鉢。A区から乱と接合
6	第41図 PL-23	1号 性格不明遺構	A区	陶磁 灰	①15.9	口縁～底部60%	②白色③口口成形。内外面：磨ナデ。外面：口縁部に重なり焼き有	TC-15-a. 18世紀後。皿と接合
7	第41図 PL-23	1号 性格不明遺構	A区	陶磁 灰	①7.3②1.6③3.3	70%	②にぶい褐色③口口成形。外面：底部右面転ナデ	TF-2. 17末～18末。内外面口唇部にスス付着
8	第41図 PL-23	1号 性格不明遺構	A区	陶磁 灰	①(34.9)	口縁～底部50%	②にぶい褐色④外面：口縁部ナデナ。内部：磨ナデ	TL-29. 18世紀末
9	第41図 PL-23	1号 性格不明遺構	A区	土器 皿	①(9.8)②2.5③6.0	40%	①普通②褐色③白色・黒色微粒子④口口成形。外面：底面凹状切	DZ-2. 内面口唇部にスス付着
10	第41図 PL-23	1号 性格不明遺構	A区	土器 皿	①(8.3)②(4.7)	口縁～底部30%、底部20%	①普通②透黄褐色③赤色・黒色微粒子④口口成形。外面：底面凹状切	DZ-2. 内外面口唇部にスス付着
11	第41図 PL-23	1号 性格不明遺構	A区	土器 鉢鉢	①10.6②7.6③6.3	90%	①普通②明赤褐色③赤色微粒子・微細雲母・白色粒状物質④口口成形。底面焼成前にミガキ	DZ-21-a
12	第41図 PL-23	1号 性格不明遺構	A区	土器 火鉢	③(18.8)	底部10%、底部30%	①普通②にぶい黄褐色③赤色微粒子・微細雲母・白色粒状物質④外面：磨ナデ。内面：磨ナデと底面の流線ナデ。底面磨ナデ。内面：磨ナデ	DZ-31-f
13	第41図 PL-23	1号 性格不明遺構	A区	土器 瓦	①(15.4)	口縁～底部20%	①普通②明赤褐色③白色・赤色微粒子④外面：体部縦方向のミガキ口縁部ナデ。内面：口縁部・体部ナデ。体部下位部ナデ	DZ-45
14	第41図 PL-23	1号 性格不明遺構	A区	土器 瓦	③10.2	底部90%	①普通②明赤褐色③白色・赤色・黒色微粒子④口口成形	DZ-45
15	第41図 PL-23	1号 性格不明遺構	A区	土器 鉢	①(5.8)②7.3③(4.8)	20%	①普通②褐色③白色・黒色微粒子・金雲母④板作成形。外面：「唐津作」刻印	DZ-51-g
16	第41図 PL-23	1号 性格不明遺構	A区	土器 鉢	①(5.5)	口縁～底部20%	①普通②褐色③白色・黒色微粒子・金雲母④板作成形。外面：「唐津作」刻印	DZ-51-g
17	第41図 PL-23	1号 性格不明遺構	A区	土器 鉢	①(6.8)	口縁～底部20%	①普通②褐色③白色・赤色微粒子④板作成形	DZ-51
18	第41図 PL-23	1号 性格不明遺構	A区	土器 鉢	①(4.8)	口縁～底部20%	①普通②褐色③白色・赤色微粒子④板作成形。外面刻印有るが、本不明	DZ-51
19	第42図 PL-23	1号 性格不明遺構	A区	白磁 杯		底部80%	②白色③口口成形	湯川窯か。外周打欠カケルニ状

番号	国産番号	遺構	調査区	種類	①口径(長さ)②高さ(幅) ③底径(厚さ)※単位	残存状態	①焼成②色調③釉土④石材⑤底・型材技法の特徴 (彫形・文様の特徴)	備考
20	第42回 PL-23	1号 性 格 不明遺構	A区	土師 かわらけ	①10.0②2.6③6.2	底面	①普通②明赤褐色③白色・赤色・黒色微粒子 ④口口成形成。外面：底部左回転糸切	中世
21	第42回 PL-23	1号 性 格 不明遺構	A区	土師 内瓦土器	①(37.0)	口縁～体部 10%	①酸化②黒褐色③白色・黒色微粒子④外面： 口縁部横ナデ、体部指すサエ。内面：横ナデ	中世。外面スス付着。 口唇部内面磨光
22	第42回 PL-23	1号 性 格 不明遺構	A区	瓦 布目瓦	③1.6	破片	①還元②灰白色③黒色微粒子④内面：布目痕	平安
23	第42回 PL-23	1号 性 格 不明遺構	A区	金属 鉄滓	①11.2②8.0③4.3	破片		
24	第42回 PL-23	1号 性 格 不明遺構	A区	銭 寛永通寶	径2.3	完形		
25	第42回 PL-23	1号 性 格 不明遺構	A区	金属 刀子	①9.6②1.5③0.55	完形		編刺有
1	第42回 PL-24	2号性格 不明遺構	B区	磁器 碗	③(5.9)	体部～底部 20%	②白色③口口成形成	JB-1-c. 17世紀後半
2	第42回 PL-24	2号性格 不明遺構	B区	磁器 碗	①10.2②5.6③4.2	50%	②白色③口口成形成	JB-1-e. 17世紀末～18 世紀初。30号土灰と磨 合
3	第42回 PL-24	2号性格 不明遺構	B区	磁器 鉢	①7.0②2.7③2.9	50%	②白色③口口成形成	JB-4-a. 17世紀末～18 世紀初
4	第42回 PL-24	2号性格 不明遺構	B区	磁器 香炉・火入れ	①(15.7)	口縁部40%	②灰オリブ色③口口成形成	JB-9-a. 17世紀後半～18 世紀初。青磁
5	第42回 PL-24	2号性格 不明遺構	B区	磁器 合子	①(6.4)	口縁部30%	②白色③口口成形成	JB-18
6	第42回 PL-24	2号性格 不明遺構	B区	陶器 碗	③5.0	底部50%	②白色③口口成形成。内外面：灰釉。細い 貫入	TB-1-a. 17世紀末～18 世紀初
7	第42回 PL-24	2号性格 不明遺構	B区	陶器 鉢	①(32.0)②10.0③11.8	口縁～体部 40%・底部 100%	②灰オリブ色③口口成形成。三鳥手の象嵌	TB-5-b. 18世紀前
8	第42回 PL-24	2号性格 不明遺構	B区	陶器 碗	①(12.8)	口縁～体部 20%	②白色③口口成形成。内外面：灰釉。細い 貫入	TC-1-c. 18世紀前
9	第42回 PL-24	2号性格 不明遺構	B区	陶器 碗	①9.6②6.5③4.2	口縁～体部 30%・底部 100%	②白色③口口成形成。内外面：上部灰釉。外面： 下半部緑釉	TC-1-u. 18世紀前
10	第42回 PL-24	2号性格 不明遺構	B区	陶器 皿	①(11.1)②2.0③6.2	30%	②白色③口口成形成。外面：厚い長石釉	TC-2-c. 17世紀前
11	第42回 PL-24	2号性格 不明遺構	B区	陶器 皿	③(7.6)	底部20%	②白色③口口成形成。内外面：長石釉	TC-2-c. 17世紀前
12	第42回 PL-24	2号性格 不明遺構	B区	陶器 花土		口縁部20%	②白色③口口成形成。外面：灰釉	TC-22. 17世紀後半～18 世紀初
13	第42回 PL-24	2号性格 不明遺構	B区	陶器 鉢	③12.0	底部50%	②白色③口口成形成。外面：体部回転ヘラ削り、 底部回転糸切。内面：15本歯目	TC-29. 17世紀後半～18 世紀初
14	第42回 PL-24	2号性格 不明遺構	B区	陶器 碗	③(6.4)	体部～底部 40%	②灰オリブ色③口口成形成。外面：底部無磨 整	TE-10-a. 17世紀末～18 世紀初。敷上手
15	第43回 PL-24	2号性格 不明遺構	B区	土器 皿	①9.6②1.9③5.6	90%	①普通②淡黄褐色③黒色微粒子④口口成形成。 外面：底部回転糸切	DZ-2-a
16	第43回 PL-24	2号性格 不明遺構	B区	土器 皿	①(9.8)②1.7③(5.5)	30%	①普通②淡黄褐色③黒色微粒子④口口成形成。 外面：底部回転糸切	DZ-2
17	第43回 PL-24	2号性格 不明遺構	B区	土器 皿	①(9.0)②1.7③(6.0)	30%	①普通②灰白色③黒色微粒子④口口成形成。 外面：底部回転糸切	DZ-2
18	第43回 PL-24	2号性格 不明遺構	B区	土器 皿	①(9.4)②1.6③(6.2)	20%	①普通②淡黄褐色③赤色・黒色微粒子④口口 成形成。外面：底部回転糸切	DZ-2
19	第43回 PL-24	2号性格 不明遺構	B区	土器 皿	①(8.8)②2.2③(6.0)	20%	①普通②淡黄褐色③黒色微粒子④口口成形成。 外面：底部回転糸切	DZ-2
20	第43回 PL-24	2号性格 不明遺構	B区	瓦 瓦	①29.0②11.2③1.7	80%	①普通②緑灰色③黒色微粒子	
21	第43回 PL-24	2号性格 不明遺構	B区	瓦 瓦	②15.0③2.2	70%	①普通②緑灰色③黒色微粒子	
22	第43回 PL-24	2号性格 不明遺構	B区	鉢型	径(68.6)高さ17.9 幅(22.1)厚さ7.1	破片	②褐色③黒色微粒子	
23	第43回 PL-24	2号性格 不明遺構	B区	石製品 硯	②6.1③(0.7)	70%	②灰オリブ色④粘板岩	
24	第43回 PL-24	2号性格 不明遺構	B区	銭 寛永通寶	径2.4	完形		
25	第43回 PL-24	2号性格 不明遺構	B区	銭 寛永通寶	径2.3	完形		
26	第43回 PL-24	2号性格 不明遺構	B区	銭 寛永通寶	径2.25	完形		
27	第43回 PL-24	2号性格 不明遺構	B区	銭 寛永通寶	径2.2	完形		
1	第44回 PL-25	3号性格 不明遺構	B区	磁器 碗	①(8.2)	口縁～体部 20%	②灰白色③口口成形成	JB-1-e. 17世紀前
2	第44回 PL-25	3号性格 不明遺構	B区	磁器 碗	③3.2	底部100%	②白色③口口成形成	JB-1-j. 18世紀後半～19 世紀初
3	第44回 PL-25	3号性格 不明遺構	B区	磁器 碗	①(10.2)	口縁～体部 60%	②白色③口口成形成	JB-1-u. 17世紀末～18 世紀初。内面薄くス ス付着
4	第44回 PL-25	3号性格 不明遺構	B区	磁器 碗	③4.0	底部100%	②白色③口口成形成	JB-1-u. 17世紀末～18 世紀初
5	第44回 PL-25	3号性格 不明遺構	B区	磁器 碗	③3.9	底部100%	②白色③口口成形成	JB-1-u. 17世紀末～18 世紀初。かく乱と磨 合
6	第44回 PL-25	3号性格 不明遺構	B区	磁器 碗	①(9.4)②5.3③(4.2)	30%	②白色③口口成形成	JC-1-d. 19世紀前

番号	国産番号	遺構	調査区	種類	①口径(長さ)②高さ(幅)③底径(厚さ)※単位cm	残存状況	①焼成②色③胎土④石材⑤底・整形技法の特徴(彫刻・文様・のり)	備考
7	第44回 PL25	3号性格 不明遺構	B区	陶器 香炉・火入れ	③(5.2)	底部20%	①白色②ロクロ成形。外面:灰胎、底部無胎。 ②白色③ロクロ成形。外面:灰胎、底部無胎。	TB-9b, 17世紀末～18世紀初
8	第44回 PL25	3号性格 不明遺構	B区	陶器 漆鉢	③(12.8)	底部10%	①白色②ロクロ成形。外面:体部面転へう割り、 底部面転未切。内面:14本条付。内外面:無胎。	TC-2b, 17世紀後～18世紀前
9	第44回 PL25	3号性格 不明遺構	B区	陶器 漆鉢	①(10.8)	30%	①白色②ロクロ成形。胎割落	TC-00e, 18世紀前
10	第44回 PL25	3号性格 不明遺構	B区	土器 土鉢	①(9.6)②(6.0)③2.2	30%	①普通②褐色③ロクロ成形。外面:底部面転未切	DZ-2
11	第44回 PL25	3号性格 不明遺構	B区	瓦 軒丸瓦	径12.1厚8.21	瓦 部 分 100%	①普通②褐色③白色・黒色機粒	
12	第44回 PL25	3号性格 不明遺構	B区	銭 寛永通寶	径2.4	完形		
1	第44回 PL25	1号性格 不明遺構	C区	銭 寛永通寶	径2.2	完形		
1	第44回 PL25	5号井戸	B区	磁器 碗	①(10.2)	口縁～体部 50%	①白色②ロクロ成形、色絵	JB-1-e, 18世紀前
2	第44回 PL25	5号井戸	B区	磁器 碗	①(9.8)	口縁～体部 30%	①白色②ロクロ成形	JB-1-f, 18世紀前
3	第44回 PL25	5号井戸	B区	磁器 碗	①(10.8)②5.4③4.1	口縁～体部 50%、底部 100%	①白色②ロクロ成形。内面:見込み蛇の目紋 剥ぎ	JB-1-g, 18世紀前～中
4	第44回 PL25	5号井戸	B区	磁器 碗	①(10.2)②5.5③3.8	60%	①白色②ロクロ成形	JB-1-h, 18世紀初
5	第44回 PL25	5号井戸	B区	磁器 碗	①(10.4)②5.4③(4.1)	30%	①白色②ロクロ成形	JB-1-i, 18世紀初
6	第44回 PL25	5号井戸	B区	磁器 皿	①(9.2)②2.1③(5.2)	50%	①白色②金切工の貼付高台	JB-2-f, 18世紀前～中
7	第44回 PL25	5号井戸	B区	磁器 鉢	③(6.7)	体部～底部 20%	①白色②ロクロ成形	JB-5, 17世紀前
8	第44回 PL25	5号井戸	B区	磁器 仏飯鉢	①7.8	口縁～体部 40%	①白色②ロクロ成形	JB-8-b, 17世紀前
9	第44回 PL25	5号井戸	B区	磁器 水滴	厚さ0.5	破片	①白色②色絵	JB-19, 17世紀後
10	第44回 PL25	5号井戸	B区	陶器 碗	①9.9②5.7③3.8	口縁～体部 80%、底部 100%	①白色②ロクロ成形。内外面灰胎。外面底部 無胎。	TB-1-b, 17世紀末～18世紀初
11	第44回 PL25	5号井戸	B区	陶器 碗	①9.7②6.2③5.0	口縁～体部 90%、底部 100%	①白色②ロクロ成形。内外面灰胎。外面底部 無胎。	TB-1-b, 17世紀末～18世紀初
12	第45回 PL25	5号井戸	B区	陶器 碗	①10.9②5.5③4.0	80%	②にぶい褐色③ロクロ成形。白化土の波状 の磨毛目	TB-1-h, 18世紀前
13	第45回 PL25	5号井戸	B区	陶器 碗	③(5.0)	体部～底部 20%	②にぶい褐色③ロクロ成形。白化土の波状 の磨毛目	TB-1-h, 18世紀前
14	第45回 PL25	5号井戸	B区	陶器 碗	①(10.3)②7.3③4.9	口縁～体部 90%、底部 100%	①白色②ロクロ成形。内外面:鉄胎。口縁部 うのふれ。外面:底部無胎。	TC-1-a, 17世紀後～18世紀初
15	第45回 PL25	5号井戸	B区	陶器 碗	①(9.8)	口縁～体部 20%	①白色②ロクロ成形。内外面:上層灰胎。外面: 下半磨毛	TC-1-a, 17世紀末～18世紀前
16	第45回 PL25	5号井戸	B区	陶器 皿	①(10.8)②2.1③(6.0)	30%	①白色②ロクロ成形。内外面:薄い長石釉	TC-2-c, 17世紀前
17	第45回 PL25	5号井戸	B区	陶器 皿	③6.0	底部90%	①灰白色②ロクロ成形。内外面:灰胎。外面: 底部無胎	TC-2-j, 17世紀後～18世紀前
18	第45回 PL25	5号井戸	B区	陶器 鉢	⑦7.2②1.7③3.2	完形	①灰白色②ロクロ成形。内外面:鉄胎。外面: 底部無胎	TC-6, 17世紀後～18世紀前
19	第45回 PL25	5号井戸	B区	陶器 漆鉢	①30.5②11.0③13.7	50%	①灰白色②ロクロ成形。外面:体部下面位転 へう割り、底部面転未切。内面:14本条付。 内外面:無胎	TC-2b, 17世紀末～18世紀初
20	第45回 PL25	5号井戸	B区	陶器 灰土し	①(5.1)	口縁～体部 20%	①白色②ロクロ成形。外面:灰胎、色絵。内面: 口縁部のみ灰胎、体部無胎。	TD-24, 18世紀前～中。
21	第45回 PL25	5号井戸	B区	陶器 面	①10.5②1.9③5.0	50%	②にぶい褐色③ロクロ成形。外面:底部面転 へう割り。底面無胎内外面:無胎	TF-2, 17世紀末～18世紀前
22	第45回 PL25	5号井戸	B区	土器 土鉢	①9.5②1.8③4.9	完形	①普通②褐色③白色・赤色・黒色機粒④ロクロ 成形。外面:底部面転未切。	DZ-2-a, 外面体部ス 付
23	第45回 PL25	5号井戸	B区	土器 土鉢	①9.4②1.8③7.0	90%	①普通②褐色③白色・赤色・黒色機粒④ロ クロ成形。外面:底部面転未切。焼成後底 部中央穿孔	DZ-2-b
24	第45回 PL25	5号井戸	B区	土器 土鉢	①8.9②1.9③6.0	完形	①普通②褐色③白色・赤色・黒色機粒④ロ クロ成形。外面:底部面転未切。	DZ-2-b, 内外面口唇部 にス付
25	第45回 PL25	5号井戸	B区	土器 土鉢	①9.3②2.1③8.1	90%	①普通②褐色③白色・赤色・黒色機粒④ロ クロ成形。外面:底部面転未切。	DZ-2-b, 内外面口唇部 にス付
26	第45回 PL25	5号井戸	B区	土器 土鉢	①8.8②1.8③4.5	50%	①やや硬質②明褐色③白色・赤色・黒色機粒 ④ロクロ成形。外面:底部面転未切。	DZ-2, 内外面口唇部 にス付
27	第45回 PL25	5号井戸	B区	土器 漆鉢	①35.8②5.3③34.0	90%	①断面サンディッチ状②灰黄色③白色・黒色 機粒④外面:口縁部割ナデ、体部無胎。底 部全体に板目状文様。内面:横ナデ	DZ-47-b, 底部に3箇所、 体部に1箇所補修孔有
28	第45回 PL25	5号井戸	B区	瓦 軒丸瓦	径(16.0)厚8.19	瓦当部分70%	①普通②灰色③黒色機粒	
29	第45回 PL25	5号井戸	B区	瓦 丸瓦	①11.2③2.0	破片	①普通②灰色③黒色機粒④上部に1箇所焼成前 穿孔	
30	第45回 PL25	5号井戸	B区	瓦 丸瓦	③2.7	破片	①断面サンディッチ状②灰色③赤色・黒色機 粒	
31	第45回 PL25	5号井戸	B区	鉄製品 刀子	⑦7.3②1.8③0.7	破片		

番号	国庫番号	通稱	国定区	種類	①口縁(高さ)②胎高(幅)③底径(厚さ)④単位cm	残存状態	①焼成②色調③胎土④石材⑤成・整形技法の特徴(彫刻・文様の特徴)	備考
1	第46回 PL26	8号井戸	C区	磁器 碗	①(9.6)	口縁～体部 20%	②白色③口口成形	JB-1-4. 17世紀末～18世紀前
2	第46回 PL26	8号井戸	C区	磁器 碗	①(8.4)②4.1③(2.6)	20%	②白色③口口成形	JB-1-F. 17世紀末～18世紀前
3	第46回 PL26	8号井戸	C区	磁器 碗	①(10.4)	口縁～体部 50%	②白色③口口成形	JB-1-V. 18世紀前
4	第46回 PL26	8号井戸	C区	磁器 碗	①(10.8)②6.1③4.3	口縁～体部 20%、底面 100%	②白色③口口成形	JB-1-v. 18世紀前
5	第46回 PL26	8号井戸	C区	磁器 碗	③4.2	底部100%	②白色③口口成形	JB-1-v. 18世紀前
6	第46回 PL26	8号井戸	C区	磁器 鉢付皿	①13.0②3.0③7.7	60%	②白色③口口成形。外面:底面中央に「角」の文字	JA1-2. 16世紀後。矢付角E群。目黒一添、かく乱と擦合。
7	第46回 PL26	8号井戸	C区	磁器 鉢	①(8.4)②1.5③(4.0)	40%	②白色③口口成形。横円形	JB-2. 17世紀末～18世紀前
8	第47回 PL26	8号井戸	C区	磁器 鉢	①(12.5)②3.4③7.0	50%	②灰白色③口口成形	JB-2-g. 18世紀前～中
9	第47回 PL26	8号井戸	C区	磁器 鉢	①6.8②2.9③2.9	完形	②白色③口口成形	JB-8-1. 18世紀前～中、内面体部下部に底面釉が剥落し、薄黒く汚れる
10	第47回 PL26	8号井戸	C区	磁器 鉢	①4.9	口縁～体部 50%	②白色③口口成形	JB-8-a. 17世紀末～18世紀前
11	第47回 PL26	8号井戸	C区	磁器 鉢	③2.5	底部50%	②灰白色③口口成形	JB-8-b. 17世紀末～18世紀前
12	第47回 PL26	8号井戸	C区	磁器 鉢	③7.4	口縁～体部 40%	②灰白色③口口成形	JB-8-b. 17世紀末～18世紀前
13	第47回 PL26	8号井戸	C区	磁器 鉢	③(5.0)	体部～底面 50%	②白色③口口成形	JB-10. 17世紀後
14	第47回 PL26	8号井戸	C区	磁器 水筒	②2.9③4.8③1.7	完形	②白色③底面に布目痕	JB-19
15	第47回 PL26	8号井戸	C区	磁器 蓋	③(10.2)	口縁～体部 20%	②白色③口口成形	JB-00-4. 17世紀末～18世紀初
16	第47回 PL26	8号井戸	C区	陶器 碗	①(10.8)②4.6③3.6	口縁～体部 30%、底面 50%	②白色③口口成形。外面:底面に「小松久」の刻印有	TB-1-c. 17世紀末～18世紀初
17	第47回 PL26	8号井戸	C区	陶器 碗	①(10.5)	口縁～体部 20%	②灰褐色③口口成形。白化粘土の刷毛塗	TB-1-d. 17世紀末
18	第47回 PL26	8号井戸	C区	陶器 碗	①9.7②5.7③4.6	口縁～体部 60%、底面 100%	②灰褐色③口口成形。白化粘土の波状の刷毛目。外面:白化粘土による「福」、「鹿」、「龍」の字	TB-1-g. 18世紀初
19	第47回 PL26	8号井戸	C区	陶器 皿	①(16.9)	口縁～体部 10%	②にぶい褐色③口口成形。白化粘土の刷毛塗	TB-2. 17世紀末
20	第47回 PL26	8号井戸	C区	陶器 皿	①(11.5)②3.7③3.9	40%	②灰白色③口口成形。内面:見込み焼の目地刺。内外面:青緑釉。外面:底面無釉	TB-2-a. 17世紀末～18世紀初
21	第47回 PL26	8号井戸	C区	陶器 皿	①(18.8)	口縁～体部 10%	②灰白色③口口成形。内外面:青緑釉。	TB-2-a. 17世紀後
22	第47回 PL26	8号井戸	C区	陶器 鉢口	①(8.7)	口縁～体部 20%	②にぶい褐色③口口成形。白化粘土の刷毛塗	TB-7. 17世紀末～18世紀初
23	第47回 PL26	8号井戸	C区	陶器 香炉・火入れ	③(3.8)	底部40%	②灰白色③口口成形	TB-9-b. 18世紀前
24	第47回 PL26	8号井戸	C区	陶器 碗	①(9.4)	口縁～体部 30%	②白色③口口成形。内外面:鉄釉。外面:底面無釉	TC-1-a. 17世紀末～18世紀前
25	第47回 PL26	8号井戸	C区	陶器 碗	①12.2②6.2③5.3	80%	②灰白色③口口成形。体部中央釉サエズ痕有。内外面:鉄釉。	TC-1-q. 18世紀中～後
26	第47回 PL26	8号井戸	C区	陶器 碗	③5.2	底部100%	②白色③口口成形。内外面:鉄釉。外面:底面無釉	TC-1-o. 17世紀後～18世紀初
27	第47回 PL26	8号井戸	C区	陶器 皿	①(12.8)②2.1③(6.8)	30%	②白色③口口成形。内外面:灰石釉	TC-2-c. 17世紀前
28	第47回 PL26	8号井戸	C区	陶器 皿	③3.8	底部100%	②白色③口口成形。内外面:鉄釉。外面:底面無釉	TC-6. 17世紀後～18世紀初
29	第47回 PL26	8号井戸	C区	陶器 皿	①4.0	口縁～体部 50%	②灰白色③口口成形。内外面:鉄釉。内面:体部無釉	TC-10-a. 18世紀前
30	第47回 PL26	8号井戸	C区	陶器 皿	③(11.0)	底部40%	②灰白色③口口成形	TC-10-e. 18世紀前
31	第47回 PL26	8号井戸	C区	陶器 片口鉢	③(6.8)	底部40%	②白色③口口成形	TC-23-b. 17世紀末～18世紀初
32	第47回 PL26	8号井戸	C区	陶器 茶入れ		体部30%	②白色③口口成形。内外面:鉄釉。外面:底面無釉	TC-26-a
33	第48回 PL26	8号井戸	C区	陶器 茶鉢	①(32.0)	口縁部20%	②白色③口口成形。内外面:鉄釉	TC-29. 17世紀末～18世紀初。目黒一添と擦合
34	第48回 PL26	8号井戸	C区	陶器 皿	①8.8②1.8③4.0	80%	②にぶい褐色③口口成形。外面:右回転糸切。底面無釉。内外面:鉄釉	TF-2. 内外口唇部にスエス付着
35	第48回 PL26	8号井戸	C区	陶器 湯受け皿	①(10.8)	30%	②灰色③口口成形。内外面:鉄釉。外面:底面無釉	TF-40. 17世紀末～18世紀前
36	第48回 PL26	8号井戸	C区	陶器 茶鉢	①(31.2)	口縁部20%	②灰色③口口成形	TK-29. 17世紀後
37	第48回 PL26	8号井戸	C区	土器 皿	③3.9	底部100%	①やや硬質②にぶい黄褐色③黒色微粒④口口成形。外面:底面左回転糸切。焼成後に箇所穿孔。外面に墨書	DZ-2-b
38	第48回 PL26	8号井戸	C区	土器 皿	①(8.3)	口縁～体部 10%	①硬質②褐色③黒色微粒④口口成形	DZ-2

番号	図版番号	遺構	調査区	種類	①口径(長さ)②底径(高さ)単位cm	残存状態	①焼成②顔色③胎土④石材⑤底・壁形技法の特徴(器形・文様の特徴)	備考
39	第48図 PL-26	8号井戸	C区	土器 土器	①(9.5)②2.1③(5.8)	40%	①普通②にぶい褐色③黒色微粒子④口ロ口成形。外面：底面回転未切	DZ-2, 内面黒色
40	第48図 PL-26	8号井戸	C区	土器 土器	①(5.2)	体部～底部 20%	①普通②褐色③白色微粒子、金雲母④板作成形	DZ-51
1	第48図 PL-26	10号井戸	C区	土器 土器	①(4.4)②1.8③1.8	30%	②白色④型作り	JB-6-a, 18世紀
2	第48図 PL-26	10号井戸	C区	土器 土器	③(3.6)	底部40%	②白色④口ロ口成形	JB-7-b, 17世紀末～18世紀前
3	第48図 PL-26	10号井戸	C区	土器 土器	①(10.0)②6.5③4.8	口縁～体部 30%、底部 100%	②白色④口ロ口成形。内外面：上部反焼。外面：下平磨	TC-1-a, 18世紀前
4	第48図 PL-26	10号井戸	C区	土器 土器	①(31.4)	口縁～体部 20%	②白色④口ロ口成形。外面：体部下位回転ヘリ有り。内面：磨面。内外面：磨面	TC-29, 18世紀前。内面体部下位磨面
5	第48図 PL-26	10号井戸	C区	土器 土器	①(9.1)②1.9③5.4	90%	①普通②褐色③赤色、黒色微粒子④口ロ口成形。外面：底面回転未切	DZ-2-a
6	第48図 PL-26	10号井戸	C区	土器 土器	①(9.7)②1.6③5.6	50%	①普通②褐色③赤色、黒色微粒子④口ロ口成形。外面：底面回転未切。焼成後底部中央穿孔	DZ-2
7	第48図 PL-26	10号井戸	C区	土器 土器	①(32.3)②(5.5)③(30.0)	10%	①普通②褐色③赤色、黒色微粒子④外面：口縁部横ナデ、体部下位～底部磨面。内面：横ナデ	DZ-47-b
8	第48図 PL-26	10号井戸	C区	土器 土器	①(32.3)②(5.5)③(30.0)	破片	①普通②褐色③赤色、黒色微粒子④外面：磨面。内面：横ナデ、スタンプ文	DZ-47-b
9	第48図 PL-27	10号井戸	C区	瓦 瓦	①5.0②2.1	瓦当部分50%	①断面サンディック状②褐色③赤色微粒子	
1	第49図 PL-27	2号井戸	B区	土器 土器	①(10.7)②2.1③(6.8)	30%	①普通②にぶい褐色③赤、黒色微粒子④口ロ口成形。外面：底面回転未切	中世
2	第49図 PL-27	2号井戸	B区	土器 土器	③23.7	底部70%	①還元気味②灰褐色③白色微粒子④外面：底面外周1cm横ナデ、底面離れ砂。内面：横ナデ	中世。裏土と接合
3	第49図 PL-27	2号井戸	B区	土器 土器	①(33.0)	口縁～体部 30%	①還元気味②灰褐色③白色、赤色微粒子④外面：口縁部横ナデ、体部裏ヘリ有り。内面：横ナデ	中世。口縁部内面磨面。外面スス付
4	第49図 PL-27	3号井戸	B区	土器 土器	①(10.9)	口縁～体部 30%	①普通②褐色③白色、赤色微粒子、微細雲母、白色針状物質④口ロ口成形	中世
5	第49図 PL-27	3号井戸	B区	土器 土器	①(9.0)	口縁～体部 20%	①普通②褐色③白色、黒色微粒子④口ロ口成形	中世
3	第49図 PL-27	3号井戸	B区	土器 土器	①(10.6)②2.5③6.6	口縁～体部 30%、底部50%	①還元②灰褐色③口ロ口成形。外面：底面回転未切後高台貼付。灰輪掛け有り。内面：底面無施	平安
4	第49図 PL-27	3号井戸	B区	土器 土器	①(15.2)②5.0③6.8	口縁～体部 30%、底部 100%	①還元②灰褐色③口ロ口成形。外面：底面回転未切後高台貼付	平安
5	第49図 PL-27	3号井戸	B区	土器 土器	①(13.9)②4.0③(6.0)	40%	①還元②灰褐色③赤色、黒色微粒子④口ロ口成形。外面：底面回転未切	平安
6	第49図 PL-27	3号井戸	B区	土器 土器	③5.5	底部100%	①還元②灰褐色③にぶい褐色③白色、黒色微粒子、微細雲母④口ロ口成形。外面：底面回転未切後高台貼付	平安
7	第49図 PL-27	3号井戸	B区	土器 土器	③(8.1)	底部30%	①還元②灰褐色③白色微粒子④口ロ口成形。外面：底面回転未切後高台貼付。底部に焼成後の穿孔有	平安
8	第49図 PL-27	3号井戸	B区	土器 土器	③6.4	底部50%	①還元②灰褐色③白色、黒色微粒子④口ロ口成形。外面：底面回転未切後高台貼付	平安
1	第49図 PL-27	14号井戸	E区	土器 土器	③1.2	破片	①還元②にぶい褐色③白色微粒子	平安
2	第49図 PL-27	14号井戸	E区	土器 土器	①25.1②(30.0)③7.6	50%	①還元②灰褐色③灰褐色③白色微粒子④外面：口縁部横ナデ、体部斜め縦方向の削り。内面：横ナデ	平安
1	第49図 PL-27	6号井戸	B区	土器 土器	③(6.7)	底部60%	①還元②灰褐色③白色微粒子④口ロ口成形。外面：底面回転未切後高台貼付	平安
2	第49図 PL-27	6号井戸	B区	土器 土器	③8.5②5.2③9.8		穿孔痕有	
1	第50図 PL-27	P70	A区	土器 土器	③1.6	破片	①還元②褐色③白色、黒色微粒子	平安
1	第50図 PL-27	P106	A区	土器 土器	①12.3②12.6③9.3	破片	④角閃石安山岩	
1	第50図 PL-27	P223	B区	土器 土器	①(11.7)	口縁～体部 20%	①普通②明赤褐色③白色微粒子④外面：口縁部横ナデ、体部ヘリ有り。内面：横ナデ後、横文状のミガキ	
1	第50図 PL-27	P231	B区	土器 土器	径2.4	完形		
1	第50図 PL-27	P316	B区	土器 土器	径2.3	完形		
1	第50図 PL-27	P364	B区	土器 土器	①(35.0)	口縁～体部 10%	①普通②灰褐色③白色、赤色、黒色微粒子、微細雲母、白色針状物質④外面：口縁部横ナデ、体部斜め縦方向の削り。内面：横ナデ	中世。外面スス付
1	第50図 PL-27	P322～ P324	B区	土器 土器	①10.0②2.0③6.6	40%	①普通②明赤褐色③白色、赤色、黒色微粒子④口ロ口成形。外面：底面回転未切	中世
1	第50図 PL-27	P388	B区	土器 土器	③3.9	体部～底部 30%	②白色④口ロ口成形	JB-1-d, 17世紀末。外面厚くす付
1	第50図 PL-27	P472	C区	土器 土器	①(11.2)	口縁～体部 20%	②灰白色④口ロ口成形	JB-9, 17世紀末～18世紀前。かくれと接合
1	第50図 PL-27	P474	C区	土器 土器	③(12.3)	底部30%	①還元②褐色③赤色、黒色微粒子④外面：体部斜め方向の削り、底面離れ砂。内面：横ナデ	内面底面磨面
1	第50図 PL-27	P479～ P481	C区	土器 土器	①(11.9)	口縁～体部 20%	①普通②褐色③白色、赤色微粒子④外面：口縁部横ナデ、体部ヘリ有り。内面：横ナデ	
1	第50図 PL-27	P488	C区	土器 土器	①(10.7)	口縁～体部 20%	①普通②明赤褐色③白色、赤色微粒子④外面：口縁部横ナデ、体部ヘリ有り。内面：横ナデ	

番号	国名番号	遺構	調査区	種類	①口径(長さ)②高さ(幅) ③底径(厚さ) 単位:cm	残存状況	①地蔵②色線③動土④石材⑤成・整形技法の特 徴(彫形・文庫の母胎)	備考
2	第50期 PL-27	P496	C区	瓦軒丸瓦	径10.6厚さ2.3	瓦 底 部 分 100%	①普通②黄灰色③赤色・黒色粒子	
1	第50期 PL-27	P511	C区	陶器蓋	①(11.8)②3.1③3.6	60%	①白色②口口口成形。内外面灰化。外面底面無釉	TB-2カ。外面底部中央に「三」の彫唐
1	第50期 PL-27	P522	C区	磁器蓋	①(20.0)	①口縁～体部 20%	①白色②口口口成形	JB-2-c。17世紀後
1	第50期 PL-27	P531	C区	磁器蓋	①(12.8)②3.2③(8.0)	①口縁～底面 30%	①白色②口口口成形	JB-2-b。18世紀前～中。表土と混合
1	第51期 PL-28	P561	E区	土師器付付蓋		破片	①普通②褐色③黒色微粒子④外面：口縁部破ナデ。体部黒毛目。内面：口縁部破ナデ	古墳前期
1	第51期 PL-28	P563	E区	銅製鏡(唐首)	①6.1②2.0③0.1	未形		中央部で折れている
1	第51期 PL-28	P584	E区	石製品 礫石	①14.2③3.4③3.3	未形	①波紋岩	
1	第51期 PL-28	P585	E区	須恵器 灰土器回転糸切	①(12.4)②3.8③5.9	①口縁～体部 40%。底面 90%	①還元②褐色③白色微粒子④口口口成形。外面：底部回転糸切	平安
1	第51期 PL-28	P604	E区	須恵器 灰土器回転糸切	①(12.8)②3.4③(5.2)	30%	①還元②灰白色③白色・黒色微粒子。微塵部⑤砂面④口口口成形。外面：底部回転糸切	平安
1	第51期 PL-28	P611	E区	須恵器 灰土器回転糸切	③8.5	①口縁～体部 60%。底面 100%	①酸化灰味②黄褐色③白色粒子④口口口成形。外面：底部回転糸切	平安
2	第51期 PL-28	P611	E区	土師器 灰土器回転糸切	①11.9	40%	①普通②褐色③黒色微粒子。きめ粗い④外面：口縁部破ナデ。体部黒毛目。内面：横ナデ	平安
3	第51期 PL-28	P611	E区	土師器 灰土器回転糸切	①(19.0)	①口縁～体部 20%	①普通②褐色③白色・黒色微粒子。微塵部⑤砂面④口縁部破ナデ。体部：ヘナ割り。内面：横ナデ	平安
1	第51期 PL-28	16号溝	C区	磁器 白磁杯	①(8.6)	①口縁～体部 10%	①白色	白磁B群
2	第51期 PL-28	16号溝	C区	土器 土器からけ	①8.0②1.9③5.8	50%	①普通②褐色③赤色粒子④口口口成形。外面：底部回転糸切	中世
3	第51期 PL-28	16号溝	C区	土師 土器	③(12.4)	体部～底面 20%	①還元灰味②褐色③白色・赤色粒子④外面：体部破ナデ。底部回転糸切	中世。内面磨粒
1	第51期 PL-28	32号溝	E区	磁器 磁	①(12.0)②6.4③4.5	①口縁～体部 40%。底面 100%	①白色②口口口成形	JB-1-c。1690年～1670年代。4号集水坑周辺に土と混合。外面色線はこんど割唐
2	第51期 PL-28	32号溝	E区	陶器 陶器	①12.6②7.8③5.4	①口縁～体部 60%。底面 100%	①白色②口口口成形。内外面：鉄釉	TC-1-a。17世紀末～18世紀初
3	第51期 PL-28	32号溝	E区	土師器 土師器付付蓋		底面付近破片	②に①の黄白色	古墳前期
4	第51期 PL-28	32号溝	E区	鉄鉢	①4.5②4.0③2.8長さ62.30g	破片		
1	第52期 PL-28	38号溝	F区	磁器 磁	①(8.3)②(7.3)	①口縁～体部 30%	①白色②口口口成形。色線	JB-10。17世紀後～18世紀初
2	第52期 PL-28	38号溝	F区	不明	径2.5厚さ0.6	破片	①普通②褐色③黒色微粒子	
3	第52期 PL-28	38号溝	F区	石製品 礫石	①19.9②24.3③0.5	未形		
1	第52期 PL-28	9号溝	B区	土製品 土器	径1.5長さ4.5口径0.3	未形	①普通②に①の褐色③赤色・黒色微粒子	
2	第52期 PL-28	9号溝	B区	瓦軒丸瓦	①(8.2)②(10.0)③1.5	破片	①酸化灰味②淡黄褐色③白色・赤色粒子	平安
1	第52期 PL-28	12号溝	B区	瓦軒丸瓦	高さ(4.8)幅(8.0)厚さ1.5	破片	①酸化灰味②褐色③白色・赤色粒子	平安
2	第52期 PL-28	12号溝	B区	須恵器 土器付付蓋	③8.0	底部40%	①還元②に①の褐色③白色・赤色・黒色粒子	平安
1	第52期 PL-28	15号溝	C区	土器 土器からけ	①(10.8)②1.6③(8.2)	30%	①普通②褐色③白色・赤色・黒色粒子④口口口成形。外面：底部回転糸切	中世
2	第52期 PL-28	15号溝	C区	土器 土器からけ	①(11.2)	①口縁～体部 30%	①普通②淡黄褐色③黒色微粒子④口口口成形	中世
3	第52期 PL-28	15号溝	C区	土器 内耳	③27.2	底部5%	①酸化②に①の赤褐色③白色・赤色・黒色粒子④外面：体部粗いナデ。底面外周1cmナデ。底面磨粒。内面：横ナデ	中世。外面底部より1cm上より上にスス付
4	第52期 PL-28	15号溝	C区	須恵器 須恵器		破片	①還元②褐色③白色粒子④外面：平行叩き。内面：当て磨唐	
1	第52期 PL-28	18号溝	C区	須恵器 高合付蓋	③(8.0)	底部100%	①還元②灰色③白色粒子④口口口成形。外面：底部回転糸切後高合付	平安
1	第53期 PL-28	II層	A区	磁器 磁	①10.8②6.1③3.9	①口縁～体部 60%。底面 100%	①白色②口口口成形	JB-1-c。18世紀前～中。くはと混合
2	第53期 PL-28	II層	A区	磁器 磁	①(9.8)②6.4③3.9	50%	①白色②口口口成形。外面：底部に「大明年製」文字	JB-1-a。1690年～1700年代
3	第53期 PL-28	II層	A区	磁器 磁	③(7.8)	底部50%	①白色②口口口成形	JB-2-d。1670年～1680年代
4	第53期 PL-28	II層	A区	磁器 磁	①(13.6)②2.6③8.5	30%	①白色②口口口成形。外面：底部に「角唐」の字紋	JB-2-d。1670年～1680年代。すり紋。字数もすり紋
5	第53期 PL-28	II層	A区	磁器 磁	①(13.5)②2.6③(8.5)	20%	①白色②口口口成形	JB-2-c。1670年～1680年代
6	第53期 PL-28	II層	A区	磁器 磁		底部破片	①白色②口口口成形	JB-2-n。1670年～1680年代

番号	図面番号	遺構	調査区	種類	①口径(長さ)②縁高(幅)③底径(厚さ)※単位cm	残存状態	①焼成②顔色③胎土④石材⑤成・形状技法の特徴(胎形・文様の特徴)	備考
7	第53図 PL-28	瓦層	A区	磁器 鉢		口縁部破片	②白色③口口口成形。口縁	J8-5-b. 1670年～1680 年代。南川原墓
8	第53図 PL-28	瓦層	A区	磁器 鉢		口縁部破片	②白色③口口口成形	J8-5-b. 1670年～1680年 代。南川原墓
9	第53図 PL-28	瓦層	A区	磁器 鉢	⑦7.2⑧2.2⑨3.9	口縁～底部 80%、底部 100%	②白色③口口口成形。外面：底部「口口39」 の上に「山田」の字款	JC. 大正、昭和
10	第53図 PL-28	瓦層	A区	陶器 碗	①(10.4)②6.5③(4.5)	40%	②灰白色③口口口成形。内外面：灰釉	TB-1-a. 17世紀末～18 世紀初
11	第53図 PL-28	瓦層	A区	陶器 碗	①(13.0)②4.5③4.7	口縁～底部 60%、底部 100%	②白色③口口口成形。内外面：灰釉。外面： 底部無釉	TB-1-c. 17世紀末～18 世紀初。かく乱と鎌倉
12	第53図 PL-29	瓦層	A区	陶器 皿	①13.0②3.5③6.9	70%	②にぶい褐色③口口口成形。内面：白化粘土 の波状の刷毛目。外面：白化粘土の刷毛目	TB-2. 17世紀末～18世 紀初
13	第53図 PL-29	瓦層	A区	陶器 片口鉢	①(21.2)	口縁～底部 20%	②にぶい褐色③口口口成形。内外面：白化粘 土の刷毛目	TB-23-a. 17世紀末～ 18世紀初
14	第53図 PL-29	瓦層	A区	陶器 鉢	①(9.9)②6.5③4.7	口縁～底部 30%、底部 50%	②白色③口口口成形。内外面：灰釉。外面： 底部無釉	TC-1-d. 17世紀末～18 世紀前半。草写し
15	第53図 PL-29	瓦層	A区	陶器 碗	①(11.8)②4.0③(3.6)	40%	②にぶい褐色③口口口成形。縁輪状	TC-1-q. 18世紀前半
16	第53図 PL-29	瓦層	A区	陶器 鉢	①(10.8)②6.2③5.4	口縁～底部 30%、底部 100%	②白色③口口口成形。底部に指オサエ痕有	TC-1-u. 17世紀末～ 18世紀初。かく乱と鎌倉
17	第53図 PL-29	瓦層	A区	陶器 碗	③7.7	底部～底部 70%	②白色③口口口成形。外面：灰釉。底部無釉	TC-10-d. 18世紀後半
18	第53図 PL-29	瓦層	A区	陶器 皿	①8.7②2.0③4.5	90%	②にぶい褐色③口口口成形。外面：鉄釉。内面： 無釉	TC-06. 18世紀か
19	第53図 PL-29	瓦層	A区	陶器 鉢	⑦7.1⑧3.2⑨3.2	口縁～底部 40%、底部 100%	②白色③口口口成形。内外面：灰釉。外面： 底部無釉	TD-1-b. 18世紀前半
20	第54図 PL-29	瓦層	A区	陶器 鉢	③(14.0)	底部～底部 20%	②灰褐色④内面：御目9本	TK-29. 17世紀後半。 修下位～底部の層目 残り減る
21	第54図 PL-29	瓦層	A区	陶器 鉢	①(34.8)	口縁～底部 10%	②赤褐色④外面：口縁部横ナデ、体部へり削り。 内面：12本横目	TL-29. 18世紀後半
22	第54図 PL-29	瓦層	A区	土器 皿	①8.3②1.8③6.2	胎形	①普通②浅黄褐色③黒色微粒子④口口口成形。 外面：底部回転未切	DZ-2-a. 口唇部にス 付
23	第54図 PL-29	瓦層	A区	土器 皿	①8.9②1.6③6.4	口縁部30%、 底部100%	①普通②にぶい褐色③黒色微粒子④口口口成形。 外面：底部左回転未切	DZ-2-b
24	第54図 PL-29	瓦層	A区	土器 皿	①8.7②2.5③(4.8)	40%	①普通②浅黄褐色③黒色微粒子④口口口成形。 外面：底部左回転未切	DZ-2-b
25	第54図 PL-29	瓦層	A区	土器 皿	①(9.8)②2.1③(7.6)	20%	①普通②浅黄褐色③黒色微粒子④口口口成形。 外面：底部左回転未切	DZ-2-b
26	第54図 PL-29	瓦層	A区	土器 皿	①(9.4)②1.9③(6.4)	40%	①普通②浅黄褐色③黒色微粒子④口口口成形。 外面：底部回転未切	DZ-2. 口唇部にス付 目
27	第54図 PL-29	瓦層	A区	土器 皿	①(7.8)②1.9③(5.0)	30%	①普通②褐色③黒色微粒子④口口口成形。外面： 底部回転未切	DZ-2
28	第54図 PL-29	瓦層	A区	土器 皿	③6.8	底部100%	①やや硬質②褐色③黒色微粒子④口口口成形。 外面：底部回転未切	DZ-2
29	第54図 PL-29	瓦層	A区	土器 皿	①(8.0)②1.8③(5.6)	50%	①普通②褐色③白色・黒色微粒子④口口口成形。 外面：底部回転未切	DZ-2. 4号測と鎌倉
30	第55図 PL-29	瓦層	A区	土器 鉢	①(31.0)②5.5③(28.0)	10%	①普通②褐色③黒色微粒子④外面：口縁部横ナ デ。体部指オサエ。底部無調整。内面：横ナデ	DZ-47-b. 平底
31	第55図 PL-29	瓦層	A区	土器 鉢形七輪	タテ5.5ヨコ5.6厚1.7	完形	①普通②褐色③白色微粒子	DZ-48-b. 近代。重
32	第55図 PL-29	瓦層	A区	土器 鉢	①(7.4)②9.4③(5.8)	40%	①普通②褐色③白色・黒色微粒子④板作成形	DZ-51-i
33	第55図 PL-29	瓦層	A区	土器 鉢		破片	①普通②浅黄褐色③白色・赤色微粒子④板作成 形。外面：「泉州」の刻印有	DZ-51-i
34	第55図 PL-29	瓦層	A区	土器 鉢	①(6.4)	口縁～底部 30%	①普通②褐色③白色・黒色微粒子④板作成形	DZ-51
35	第55図 PL-29	瓦層	A区	土器 鉢	③8.1④1.6	完形	①普通②白色	DZ-60. 近代。右足裏に 穴。窪み部分赤褐色も 。焼戻し。
36	第55図 PL-29	瓦層	A区	磁器 鉢付皿		破片	②白色③口口口成形	18世紀末～17世紀初め
37	第55図 PL-29	瓦層	A区	磁器 鉢付皿		破片	②白色③口口口成形。外面：底部に「角堀」字款。 内面：赤文字	18世紀末～17世紀初め
38	第55図 PL-29	瓦層	A区	陶器 天目茶碗		破片	②にぶい褐色③口口口成形。内外面：鉄釉。 外面：底部無釉	瀬戸黄瀬
39	第55図 PL-29	瓦層	A区	瓦 軒丸瓦	径(10.5)厚さ2.2	瓦当部分70%	①普通②褐色③白色・黒色微粒子	
40	第55図 PL-29	瓦層	A区	瓦 丸瓦	②14.8③2.1	70%、瓦当部 分5%	①断面サンドイッチ状②褐色③黒色微粒子 ④上部1箇所地成り穿孔孔	
41	第55図 PL-29	瓦層	A区	瓦 軒丸瓦	径10.8厚さ2.2	瓦当部分 100%	①普通②褐色③白色・黒色微粒子	
42	第55図 PL-30	瓦層	A区	瓦 丸瓦	③2.0	破片	①普通②褐色③白色・黒色微粒子④外面に「正」 の刻印	
43	第56図 PL-30	瓦層	A区	瓦 軒平瓦	①25.2②4.9③1.7	瓦当部分 100%	①断面サンドイッチ状②褐色③白色・黒色 微粒子	
44	第56図 PL-30	瓦層	A区	瓦	③1.7	破片	①普通②黒褐色③黒色微粒子④外面：2文字の 刻印有	

番号	調査番号	遺構	調査区	種類	①口径(長さ)②器高(幅) ③底径(厚さ)※単位cm	残存状態	①焼成②色③胎土④石材⑤成・変形技法の特 徴(胎形・文様の特徴)	備考
45	第56図 PL.30	Ⅲ層	A区	瓦 軒平瓦	③1.8	破片	①焼成②灰色③白色微粒子・微細雲母	
46	第56図 PL.30	Ⅲ層	A区	瓦 鯉瓦	③2.3	破片	①断面サンドイッチ状②焼灰色③黒色粒子	
47	第56図 PL.30	Ⅲ層	A区	鉢 首鉢	①2.3	実形		
48	第56図 PL.30	Ⅲ層	A区	鉢 寛永通寶	径2.1	40%		
49	第56図 PL.30	Ⅲ層	A区	鉢 寛永通寶	径2.3	実形		
50	第56図 PL.30	Ⅲ層	A区	鉢 寛永通寶	径2.3	実形		
51	第56図 PL.30	Ⅲ層	A区	鉢 寛永通寶	径2.2	実形		
52	第56図 PL.30	Ⅲ層	A区	鉢 宝永通寶	径3.7	実形		
53	第56図 PL.30	Ⅲ層	A区	鉢 (鉄鉢) 寛永通寶	径2.4	実形		
54	第56図 PL.30	Ⅲ層	A区	鉢 1分金	①1.7②1.05③0.15長さ 4.40g	実形		
55	第56図 PL.30	Ⅲ層	A区	石製品 硯	①7.4②2.9③0.4	90%	①粘板岩	裏面に字有
56	第56図 PL.30	Ⅲ層	A区	石製品 硯	②4.8③1.5	破片	①粘板岩	
57	第56図 PL.30	Ⅲ層	A区	石製品 五輪磨	①27.6②13.6③13.2	実形	①牛伏砂岩	
58	第56図 PL.30	Ⅲ層	A区	石製品 五輪磨	径21.8高さ11.8	90%	①牛伏砂岩	
59	第56図 PL.30	Ⅲ層	A区	瓦 布目瓦	③2.4	破片	①還元②焼灰色③白色粒子	
1	第56図 PL.30	表土	A区	鉢 寛永通寶	径2.2	実形		
2	第56図 PL.30	表土	A区	鉢 永楽通寶	径2.4	実形		二枚重ね
3	第56図 PL.30	表土	A区	鉢 寛永通寶	径2.3	80%		
4	第56図 PL.30	表土	A区	鉢 寛永通寶	径2.3	50%		
1	第56図 PL.30	カク乱	A区	陶器 鉢				常滑。70号土坑と接合
2	第56図 PL.30	カク乱	A区	瓦 布目瓦	③2.3	破片	①還元②赤褐色③白色粒子	
1	第57図 PL.31	Ⅲ層	B区	鉄製品 火打ち金	①8.9②4.2③(0.5)	実形		
1	第57図 PL.31	表土	B区	磁器 碗	①(10.0)	口縁～体部 20%	①灰白色②ロクロ成形	JB-1-a。17世紀前
2	第57図 PL.31	表土	B区	磁器 碗	③4.1	底部100%	②にぶい褐色③ロクロ成形。内外面白化粒土の 刷毛塗	TB-1-d。17世紀末
3	第57図 PL.31	表土	B区	磁器 碗	③4.1	体部30%、底 部100%	②白色③ロクロ成形	JB-1-u。17世紀末～18 世紀初
4	第57図 PL.31	表土	B区	磁器 碗	③4.0	底部100%	②白色③ロクロ成形。外面：底部字取有	JB-1-v。18世紀前～中
5	第57図 PL.31	表土	B区	磁器 碗	①(14.5)②3.2③6.2	60%	②白色③ロクロ成形。蛇の目凹み形高台	JC-2-a。明治初
6	第57図 PL.31	表土	B区	陶器 化飯器	③4.8	体部30%、底 部100%	①白色③ロクロ成形。内外面灰釉。外面底縁 無釉	TC-8。18世紀前～中
7	第57図 PL.31	表土	B区	陶器 油受け皿	①(11.7)②2.5③4.8	30%	②にぶい褐色③ロクロ成形。外面底部回転ハ ラ削り。内面無釉	TF-40。17世紀末～18 世紀初
8	第57図 PL.31	表土	B区	土器 皿	①10.4②2.0③6.5	70%	①普通②にぶい褐色③白色・黒色微粒子④ロ クロ成形。外面：底部回転未切	DZ-2
9	第57図 PL.31	表土	B区	土器 皿	①(9.3)②1.8③5.6	60%	①普通②淡黄褐色③黒色微粒子④ロクロ成形。 外面：底部回転未切	DZ-2-b
10	第57図 PL.31	表土	B区	土器 かわらけ	①7.3②1.6③4.8	90%	①普通②褐色③白色微粒子④ロクロ成形。 外面：底部回転未切	中世。被熱(内外面黒色)
11	第57図 PL.31	表土	B区	瓦 軒瓦	径(16.0)厚さ2.6	瓦当部分40%	①断面サンドイッチ状②黄灰色③白色微粒子	
12	第57図 PL.31	表土	B区	瓦 軒瓦	径11.8厚さ2.7	瓦当部分 100%	①普通②褐色③白色微粒子	
13	第57図 PL.31	表土	B区	瓦 軒瓦	径11.8厚さ2.3	瓦当部分70%	①普通②灰色③白色微粒子	
14	第57図 PL.31	表土	B区	瓦 軒瓦	径(11.2)厚さ2.0	瓦当部分60%	①断面サンドイッチ状②灰色③白色微粒子	
15	第57図 PL.31	表土	B区	鉢 寛永通寶	径2.4	実形		
16	第57図 PL.31	表土	B区	石製品 硯	タテ4.2ヨコ2.7厚さ0.8	80%	①粘板岩	
1	第58図 PL.31	かく乱	B区	陶器 碗	①(8.3)②4.5③3.3	口縁～体部 40%、底 部100%	②白色③ロクロ成形	JB-1-g。18世紀前～中
2	第58図 PL.31	かく乱	B区	陶器 碗	③5.5	体部～底部 60%	②灰白色③ロクロ成形。内外面灰釉。外面 底部無釉	TC-1-a。17世紀後～18 世紀初。内面底部茶 褐色

番号	図版番号	通称	調査区	種類	①口径(長さ)②器高(幅) ③底径(厚さ)※単位cm	残存状態	①焼成②色調③胎土④石材⑤成・製法技法の特 徴(器形・文様の特徴)	備考
3	第58図 PL-31	かく乱	B区	土器 かわらけ	①(11.4)②2.7③(8.6)	20%	①普通②褐色③灰色、黒色微粒子④ロクロ成形。外面：底面無軸	中世
4	第58図 PL-31	かく乱	B区	瓦 亀瓦か	③4.0	破片	①普通②褐色③黒色微粒子	
5	第58図 PL-31	かく乱	B区	石製品 紡錘車	タテ5.0ヨコ5.3厚さ1.5	80%		
6	第58図 PL-31	かく乱	B区	鏡 皇太極寶	径2.4	完形		1340年+10年初頭
1	第58図 PL-31	直層	C区	磁器 碗		破片	②白色③ロクロ成形	JB-1-a, 17世紀前
2	第58図 PL-31	直層	C区	磁器 碗		破片	②白色③ロクロ成形。外面：染付+色繪付	JB-1-d, 17世紀末
3	第58図 PL-31	直層	C区	磁器 碗	①10.3	口縁～体部 20%	②白色③ロクロ成形。内外面：染付+色繪付	JB-1-d, 17世紀末
4	第58図 PL-31	直層	C区	磁器 碗	①(10.6)	口縁～体部 20%	②白色③ロクロ成形。内外面：染付+色繪付	JB-1-d, 17世紀末
5	第58図 PL-31	直層	C区	磁器 碗	③(4.8)	体部～底面 20%	②白色③ロクロ成形。内外面：染付+色繪付	JB-1-d, 17世紀末
6	第58図 PL-31	直層	C区	磁器 碗	③(4.8)	体部～底面 20%	②白色③ロクロ成形	JB-1-d, 17世紀末
7	第58図 PL-31	直層	C区	磁器 碗	①9.9②5.2③3.5	口縁～体部 70%、底面 100%	②白色③ロクロ成形	JB-1-f, 17世紀末～18 世紀初
8	第58図 PL-31	直層	C区	磁器 碗	①(10.0)②4.5③4.4	30%	②白色③ロクロ成形	JB-1-f, 17世紀末～18 世紀初
9	第58図 PL-31	直層	C区	磁器 碗	①10.1②4.8③4.0	80%	②白色③ロクロ成形	JB-1-f, 17世紀末～18 世紀初
10	第58図 PL-31	直層	C区	磁器 碗	①8.7②6.6③3.5	口縁～体部 80%、底面 100%	②灰白色③ロクロ成形	JB-1-g, 18世紀前
11	第58図 PL-31	直層	C区	磁器 碗	①9.8②5.0③4.2	口縁～体部 90%、底面 100%	②白色③ロクロ成形	JB-1-g, 18世紀前
12	第58図 PL-31	直層	C区	磁器 碗	①8.0②4.6③3.0	口縁～体部 50%、底面 100%	②白色③ロクロ成形	JB-1-g, 18世紀前
13	第58図 PL-31	直層	C区	磁器 碗	①(11.0)	口縁～体部 40%	②白色③ロクロ成形	JB-1-h, 18世紀前～中
14	第58図 PL-31	直層	C区	磁器 碗	③(4.7)	底面90%	②白色③ロクロ成形	JB-1-h, 18世紀前～中
15	第58図 PL-31	直層	C区	磁器 碗	①8.8②4.8③(3.0)	70%	②白色③ロクロ成形	JB-1-i, 17世紀末～18 世紀初。かく乱と接合
16	第58図 PL-31	直層	C区	磁器 碗	①(15.0)②7.8③(5.4)	50%	②白色③ロクロ成形。外面：底面無軸	JB-1-i, 17世紀末～18 世紀初。C区10号溝と接合
17	第58図 PL-31	直層	C区	磁器 皿	①(26.2)②6.0③(16.2)	30%	②白色③ロクロ成形	JB-2-a, 17世紀末～18 世紀初
18	第58図 PL-31	直層	C区	磁器 皿	③(8.8)	底面40%	②白色③ロクロ成形	JB-2-a, 17世紀末～18 世紀初
19	第58図 PL-31	直層	C区	磁器 皿	①(12.2)②2.9③(7.5)	40%	②白色③ロクロ成形	JB-2-a, 18世紀前～中
20	第58図 PL-31	直層	C区	磁器 皿	①(13.2)②3.4③(8.2)	30%	②白色③ロクロ成形	JB-2-a, 18世紀前～中
21	第58図 PL-32	直層	C区	磁器 皿	①(10.2)②2.9③(6.0)	20%	②灰白色③ロクロ成形	JB-2-a, 18世紀前～中
22	第58図 PL-32	直層	C区	磁器 鉢	①(6.9)②3.2③(3.0)	50%	②白色③ロクロ成形	JB-6-a, 18世紀前～中
23	第58図 PL-32	直層	C区	磁器 鉢	①(7.3)②4.4③(2.7)	40%	②白色③ロクロ成形	JB-6-b, 17世紀末～18 世紀初
24	第58図 PL-32	直層	C区	磁器 鉢	①(7.4)②3.1③(3.1)	口縁～体部 40%、底面 100%	②白色③ロクロ成形	JB-6-c, 17世紀末～18 世紀初
25	第58図 PL-32	直層	C区	磁器 鉢	①6.1②1.9③3.0	口縁～体部 50%、底面 100%	②白色③ロクロ成形	JB-6-d, 17世紀末～18 世紀初。C区10号溝と接合
26	第58図 PL-32	直層	C区	磁器 蓋物	①(10.8)②7.8③6.0	口縁～体部 50%、底面 100%	②白色③ロクロ成形。内面：口唇部無軸	JB-13-a, 17世紀末～18 世紀初
27	第58図 PL-32	直層	C区	磁器 蓋	①6.6②2.1つまみ径0.9	完形	②白色③ロクロ成形	JB-00-mか。18世紀前 ～中
28	第58図 PL-32	直層	C区	磁器 蓋取蓋		破片	②白色	白磁B群
29	第58図 PL-32	直層	C区	陶器 碗	③3.9	体部40%、底面 100%	②にぶい褐色③ロクロ成形。内外面：白化粘土の刷毛塗	TB-1-d, 17世紀末
30	第58図 PL-32	直層	C区	陶器 碗	①11.5②7.2③4.9	口縁～体部 80%、底面 100%	②灰白色③ロクロ成形。南無繪付	TB-1-f, 18世紀初。C区 黄土と接合
31	第60図 PL-32	直層	C区	陶器 碗	①(11.2)②6.9③4.3	口縁～体部 50%、底面 100%	②にぶい褐色③ロクロ成形。内面：白化粘土の波状の刷毛目。外面：白化粘土の刷毛塗	TB-1-g, 18世紀初
32	第60図 PL-32	直層	C区	陶器 碗	①(9.7)②6.7③5.0	口縁～体部 50%、底面 80%	②にぶい褐色③ロクロ成形。体部に指サシ工 法有。内外面：白化粘土の刷毛塗	TB-1-g, 18世紀初

番号	図面番号	遺構	調査区	埋蔵	①口径(高8)②幅高(幅) ③底径(厚さ)※単位cm	残存状況	①焼成の色調②胎土③石灰④成形技法の精 細(胎土、文様等の特徴)	備考
33	第60図 PL32	II層	C区	陶器 鉢	③(3.2)	体部～底部 40%	①灰褐色②口ロ口成形。外面：高台座成形工具 によるササ工痕有。内外面鉄釉。外面底部無釉。	TB-1。17世紀前～中
34	第60図 PL32	II層	C区	陶器 鉢	③(12.0)	底部30%	②に白い褐色③口ロ口成形。内面：トチン痕有。 三島手の魚皮	TB-5-b。17世紀末～18 世紀初
35	第60図 PL32	II層	C区	陶器 鉢	①(25.6)	口縁～体部 30%	②に白い褐色③口ロ口成形。外面：体部下部 回転へう削り	TB-5。17世紀中葉
36	第60図 PL32	II層	C区	陶器 鉢	①(10.1)②6.4③5.0	口縁～体部 40%、底部 100%	②に白い褐色③口ロ口成形。内外面：白化粉 土の黒毛塗	TB-7。17世紀
37	第60図 PL32	II層	C区	陶器 香炉・火入れ	③5.4	底部100%	②に白い褐色③口ロ口成形。内面：無釉。陶 胎欠付	TB-8。17世紀後～18世 紀初
38	第60図 PL32	II層	C区	陶器 片口鉢	①(24.6)②11.5③(9.7)	20%	②に白い褐色③口ロ口成形。内外面：白化粉 土の黒毛塗	TB-23-a。17世紀末～ 18世紀初。C区表土と 接合
39	第60図 PL32	II層	C区	陶器 鉢	③5.6	体部20%、底 部100%	②灰白色③口ロ口成形。内外面：灰釉。外面： 底部無釉	TC-1-c。18世紀前～中
40	第60図 PL32	II層	C区	陶器 鉢	①9.8②6.5③5.0	口縁～体部 60%、底部 100%	②灰白色③口ロ口成形。内外面：灰釉。外面： 底部無釉	TC-1-d。17世紀末～18 世紀初
41	第60図 PL32	II層	C区	陶器 鉢	①(9.9)②6.8③(5.0)	30%	②白色③口ロ口成形。内外面：灰釉。外面： 底部無釉	TC-1-d。17世紀末～18 世紀初
42	第60図 PL32	II層	C区	陶器 鉢	①(11.4)②6.7③4.1	口縁～体部 30%、底部 100%	②に白い褐色③口ロ口成形。内外面：鉄釉。鉄 胎状	TC-1-q。18世紀中～後
43	第60図 PL32	II層	C区	陶器 鉢	①(9.8)②5.7③4.3	40%	②白色③口ロ口成形。内外面：鉄釉。外面： 底部無釉	TC-1。18世紀後
44	第60図 PL32	II層	C区	陶器 皿	①14.5②3.1③6.8	80%	②白色③口ロ口成形。内外面：長石釉。外面： 底部無釉。内面：鉄胎	TC-2。17世紀前
45	第60図 PL32	II層	C区	陶器 鉢		破片		TC-5-k。17世紀半。鐵 胎
46	第61図 PL32	II層	C区	陶器 瓶	①4.2②17.9③5.4	80%	②灰白色③口ロ口成形。内外面：灰釉。外面： 底部無釉	TC-10-a。18世紀初。表 土と接合
47	第61図 PL32	II層	C区	陶器 瓶	③12.8	体部20%、底 部100%	②白色③口ロ口成形。外面：鉄釉	TC-10-f。17世紀。表土 と接合
48	第61図 PL32	II層	C区	陶器 香炉	③10.4	体部10%、底 部100%	②白色③口ロ口成形。外面：底部回転切削後、 回転へう削り。底部無釉。内面：無釉	TC-15。18世紀前～中。 表土と接合
49	第61図 PL32	II層	C区	陶器 片口鉢	③9.0	底部50%	②白色③口ロ口成形。内外面：灰釉。外面： 底部無釉	TC-23-b。18世紀前～中
50	第61図 PL32	II層	C区	陶器 蓋	①(10.2)②2.5③(5.9)	30%	②白色③口ロ口成形。内外面：灰釉。外面： 体部～底部無釉	TC-00-a。18世紀か
51	第61図 PL33	II層	C区	陶器 鉢	①(8.0)	口縁～体部 20%	②白色③口ロ口成形。内外面：灰釉	TD-1-b。18世紀前～中
52	第61図 PL33	II層	C区	陶器 鉢	①(10.5)	口縁～体部 30%	②白色③口ロ口成形。内外面：灰釉	TD-1-f。18世紀中
53	第61図 PL33	II層	C区	陶器 鉢	③4.2	底部100%	②白色③口ロ口成形。内外面：灰釉。外面： 体部～底部無釉	TD-1-f
54	第61図 PL33	II層	C区	陶器 灰蓋し	①5.4②7.6③4.8	口縁～体部 70%、底部 100%	②灰褐色③口ロ口成形。内外面：灰釉。内面： 体部～底部無釉。外面：底部無釉	TD-24。18世紀中。口 蓋蓋。使用により釉剥 落
55	第61図 PL33	II層	C区	陶器 火鉢		口縁部破片	②灰白色⑤内外面：灰釉	TD-31。18世紀前半
56	第61図 PL33	II層	C区	陶器 柄杓	①(9.3)②6.1③4.6	40%	②白色③口ロ口成形。内外面：灰釉。外面： 底部無釉	TD-32。18世紀中～後
57	第61図 PL33	II層	C区	陶器 油受け皿	①9.0②2.0③4.3	80%	②に白い褐色③口ロ口成形。外面：底部回転 へう削り。内面：鉄胎	TF-40。17世紀末～18 世紀初。C2フリット。 C区表土と接合
58	第61図 PL33	II層	C区	陶器 深鉢	③(18.8)	底部30%	②灰褐色	TK-29。17世紀後半
59	第61図 PL33	II層	C区	陶器 深鉢	①30.1	口縁～体部 30%	②赤褐色⑤外面：口縁部横ナデ。体部へう削り。 内面：無釉	TL-29。18世紀中～後
60	第61図 PL33	II層	C区	陶器 蓋	①10.0	50%	②白色③口ロ口成形。外面：灰釉。内面：無 釉	TZ-00。18世紀後～19 世紀。つまみ欠
61	第62図 PL33	II層	C区	土器 蓋	①9.6②1.8③5.9	80%	①普通②に白い褐色③黒色微粒子③口ロ口成 形。外面：底部回転切削	DZ-2-a
62	第62図 PL33	II層	C区	土器 皿	①8.0②1.5③4.2	70%	①やや硬質②明黄色③黒色微粒子。無釉母 ③口ロ口成形。外面：底部左回転切削	DZ-2-b。外面底部に 「小」の痕有
63	第62図 PL33	II層	C区	土器 皿	①(8.1)②1.4③(4.4)	40%	①やや硬質②褐色③黒色微粒子③口ロ口成 形。外面：底部左回転切削	DZ-2-b。口縁部に焼成 後の穿孔が少なくとも2 箇所有
64	第62図 PL33	II層	C区	土器 皿	①(7.8)②1.4③4.5	30%	①やや硬質②褐色③黒色微粒子。煎茶母③ 口ロ口成形。外面：底部回転切削	DZ-2-b
65	第62図 PL33	II層	C区	土器 皿	①(9.0)②1.7③(5.4)	20%	①普通②褐色③黒色微粒子③口ロ口成形。外面： 底部回転切削	DZ-2。内外面口唇部 にス付着
66	第62図 PL33	II層	C区	土器 火鉢	①(30.3)②(30.3)③11.0	40%	①普通②に白い褐色③白色、黒色微粒子③外 面：底部に少なくとも2箇所貼付	DZ-31-f
67	第62図 PL33	II層	C区	土器 蓋	①7.5②1.8③7.5	50%	①普通②褐色③白色微粒子。金雲母	DZ-00
68	第62図 PL33	II層	C区	土器 鍋	①(38.0)②(12.8)③ (22.2)	20%	①普通②褐色③黒色微粒子③内外面：横ナ デ。外面：体部中央突起サエ	DZ。外面ス付着
69	第62図 PL33	II層	C区	陶器 天目茶碗	①(10.6)	10%	②白色③口ロ口成形。内外面：鉄釉	瀬戸美濃
70	第62図 PL33	II層	C区	陶器 皿	①(10.7)	口縁～体部 30%	②灰白色③口ロ口成形。内外面：灰釉。底部 無釉	瀬戸美濃

番号	図面番号	遺構	調査区	種類	①口徑(長さ)②器高(幅) ③底径(厚さ)※単位cm	残存状態	①焼成②釉③胎土④石材⑤成・変形技法の特 徴(器形・文様の特徴)	備考
71	第62図 PL-33	土層	C区	土器 内耳	①6.3②6.1③0.7	底部破片	①焼成②釉③胎土④石材⑤成・変形技法の特 徴(器形・文様の特徴)	中世。外周打ち欠きメ ンコ状
72	第62図 PL-33	土層	C区	土器 甕鉢	③(11.5)	体部～底部 20%	①酸化②黒褐色③白色粒子④外面：底部破片 状圧痕	中世。内周磨耗
73	第62図 PL-33	土層	C区	瓦 軒平瓦	厚さ2.1	瓦当部分30%	①還元気味②にぶい黄褐色③白色・赤色粒子 ④外面：体部磨耗ヘナ刷り、底部磨耗余切。 内面：6本溝痕目	
74	第62図 PL-33	土層	C区	須恵系 器	①(13.1)②3.6③8.0	50%	①断面サンディッチ状②黄灰色③黒色微粒子	
75	第62図 PL-33	土層	C区	須恵系 器		破片	①還元②灰白色③黒色粒子④ロクロ成形。外 面：底部磨耗余切	
76	第62図 PL-33	土層	C区	石製品 基石	径2.3高さ0.6	完形	①還元②灰白色③黒色粒子④外面：平行叩き、 内面：当て具痕	
77	第62図 PL-33	土層	C区	石製品 基石	①1.8②2.1③0.7	完形		
78	第62図 PL-33	土層	C区	石製品 基石	②5.0③1.3	破片	④流紋岩	
79	第62図 PL-33	土層	C区	石製品 五輪塔・水輪	奥行16.5幅18.4高さ11.0	完形	④角閃石安山岩⑤底部中央に凹み	
80	第62図 PL-33	土層	C区	石製品 土臼	径(32.0)高さ8.2	10%		
81	第62図 PL-33	土層	C区	銭貨 永通寶	径2.2	完形		
1	第63図 PL-34	表土	C区	磁器 鉢	①10.2②5.6③4.0	50%	②白色③ロクロ成形	JB-1-a, 18世紀初
2	第63図 PL-34	表土	C区	陶器 鉢	①(15.2)	20%	②にぶい褐色③ロクロ成形。内外面：白化 土の刷毛塗	TB-5, 17世紀末～18世 紀初
3	第63図 PL-34	表土	C区	陶器 片口鉢	①(13.6)	40%	②白色③ロクロ成形。内外面：灰釉	TC-23-c, 18世紀前～中
4	第63図 PL-34	表土	C区	陶器 鉢	①(9.4)②5.3③2.8	40%	②白色③ロクロ成形。内外面：灰釉。外面： 底部無釉。給付	TD-1-b, 18世紀前
5	第63図 PL-34	表土	C区	陶器 鉢	①(10.0)	口縁～体部 30%	①黄質②にぶい褐色③内外面：黒石軸。外面： 給付有	TZ-1, 18世紀中～後
6	第63図 PL-34	表土	C区	土器 釜	径8.3	30%	①普通②明赤褐色③白色粒子	DZ-00
7	第63図 PL-34	表土	C区	土器 釜	①(7.6)②1.7③(7.6)	20%	①普通②明赤褐色③白色微粒子、磨削費目	DZ-00
8	第63図 PL-34	表土	C区	瓦 軒丸瓦	径12.0厚み1.7	瓦当部分50%	①普通②灰色③白色粒子	
9	第63図 PL-34	表土	C区	瓦 軒平瓦	①4.5②2.3	瓦当部分50%	①普通②灰色③白色粒子	
10	第63図 PL-34	表土	C区	銭貨 永通寶	径2.3	完形		
11	第63図 PL-34	表土	C区	銭貨 永通寶	径2.2	完形		
12	第63図 PL-34	表土	C区	銭貨 永通寶	径2.3	80%		
1	第64図 PL-34	かく瓦	C区	磁器 碗	①10.0②5.1③4.3	口縁～体部 60%、底部 100%	②白色③ロクロ成形	JB-1-a, 18世紀前
2	第64図 PL-34	かく瓦	C区	陶器 鉢	③8.9	底部50%	②灰白色③ロクロ成形。内外面：灰釉。底部 無釉	TB-5-c, 18世紀前
3	第64図 PL-34	かく瓦	C区	陶器 鉢	①(10.6)	30%	②灰白色③ロクロ成形。内外面：灰釉。一部 無釉	TD-00-h, 18世紀中
4	第64図 PL-34	かく瓦	C区	土器 人形	①3.1②2.4③2.4	完形	①普通②褐色③黒色微粒子	DZ-60
5	第64図 PL-34	かく瓦	C区	瓦 軒平瓦	①4.8③1.8	瓦当部分50%	①普通②褐色③黒色微粒子	
6	第64図 PL-34	かく瓦	C区	瓦 軒平瓦	①5.7③2.7	瓦当部分50%	①普通②灰色③白色粒子	
7	第64図 PL-34	かく瓦	C区	銭貨 永通寶	径2.5	完形		
1	第64図 PL-34	表土	D区	瓦 軒丸瓦	径11.0厚さ2.2	瓦当部分80%	①普通②灰色③白色微粒子	
1	第64図 PL-34	かく瓦	D区	磁器 鉢	①8.2②4.7③2.9	完形	②白色③ロクロ成形。外面：底部内「真」 [364]の文字	JB-6-a, 近代
2	第64図 PL-34	かく瓦	D区	磁器 鉢	①8.6②4.8③3.0	完形	②白色③ロクロ成形。外面：底部内「成391」 の文字	JB-6-b, 近代
3	第64図 PL-34	かく瓦	D区	磁器 鉢	①8.6②4.8③3.2	完形	②白色③ロクロ成形。外面：底部内「成391」 の文字	JB-6-b
1	第64図 PL-34	土層	E区	陶器 皿	①(10.8)②2.0③5.6	30%	②にぶい褐色③ロクロ成形。外面：底部磨 ヘナ刷り。内面：磨削	TF-2, 17世紀末～18世 紀初。かく瓦と接合
2	第64図 PL-34	土層	E区	石製品 磨玉	長さ2.3径0.66孔径0.25厚 さ1.56g	完形		
3	第64図 PL-34	土層	E区	須恵系 厚台付皿	①13.0②2.5③6.8	50%	①還元②褐色③白色粒子④ロクロ成形。外 面：底部磨耗余切後磨合貼付	平安
1	第64図 PL-34	表土	E区	磁器 皿	③(11.6)	底部30%	②白色③ロクロ成形	JB-2-a, 18世紀～19世 紀
2	第64図 PL-34	表土	E区	陶器 鉢	①(7.0)②4.1③3.2	口縁～体部 30%、底部 100%	②白色③ロクロ成形。内外面：灰釉。外面： 底部無釉	TC-6, 17世紀～18世紀 初。32号溝田道と接合
3	第64図 PL-34	表土	E区	瓦 軒丸瓦	径8.5厚さ(3.0)	瓦当部分 100%	①普通②褐色③白色粒子	

番号	図号番号	遺構	調査区	種類	①口底(長さ)②器高(幅)③底径(厚さ)※単位cm	残存状態	①焼成②色調③釉土④石材⑤成・整形技法の特徴(胎形・文様の特徴)	備考
4	第64図 PL_34	灰土	E区	瓦軒平瓦	①5.0②(1.6)	瓦当部分50%	①普通②灰白色③赤色粒子	
1	第65図 PL_34	かく乱	E区	磁器碗	①(9.0)	口縁～底部 30%	②白色③口口成形	JB-1-e. 17世紀末18世紀前
2	第65図 PL_34	かく乱	E区	磁器碗	①(10.3)②5.8③4.2	口縁～底部 30%・底部 100%	②白色③口口成形	JB-1-v. 18世紀前～中
3	第65図 PL_34	かく乱	E区	磁器皿	①18.8②3.1③9.5	80%	②白色③口口成形。外面：底部下位口口目	JC-2. 明治
4	第65図 PL_34	かく乱	E区	磁器鉢	④(6.6)	底部～底部 30%	②白色③口口成形	JB-5-b. 18世紀
5	第65図 PL_34	かく乱	E区	磁器杯	①6.8②2.8③2.8	口縁～底部 60%・底部 100%	②灰白色③口口成形	JB-6-f. 18世紀
6	第65図 PL_34	かく乱	E区	磁器罐口	①7.3②3.4③4.7	口縁～底部 70%	②白色③口口成形	JB-7-b. 18世紀前
7	第65図 PL_34	かく乱	E区	磁器碗	④(5.3)	底部～底部 30%	②白色③口口成形	JB-10. 18世紀～19世紀
8	第65図 PL_34	かく乱	E区	陶器皿	①13.2②3.8③6.3	90%	②白色③口口成形。内外面：灰釉、白化粧土による磨毛痕	TC-2. 18世紀末～19世紀前
9	第65図 PL_34	かく乱	E区	陶器皿	④6.8	底部30%	②白色③口口成形。内外面：灰釉。内面：底部印花文。外面：輪トチ度	瀬戸美濃
10	第65図 PL_34	かく乱	E区	陶器杯	①(7.6)②3.9③(4.2)	口縁～底部 30%・底部 50%	②白色③口口成形。内外面：灰釉。外面：底部無釉	TC-6. 17世紀前～中
11	第65図 PL_34	かく乱	E区	陶器湯受け皿	①(8.8)②1.7③(4.0)	30%	②にぶい褐色③口口成形。外面：底部回転ヘツ削り。内外面：無釉	TF-40. 17世紀後～18世紀前
12	第65図 PL_34	かく乱	E区	陶器痰壺	④(14.6)	底部～底部 30%	②灰白色③口口成形。外面：鉄釉。内外面：底部無釉	TZ-15. 近世か
13	第65図 PL_34	かく乱	E区	土器皿	①(9.2)②2.4③4.8	40%	①普通②透黄褐色③黒色粒子④口口成形。外面：底部空面転削	DZ-2-b
14	第65図 PL_34	かく乱	E区	土器焼燗	①(33.1)②6.0③(32.7)	20%	①普通②褐色③白色・褐色・黒色微粒子。微細黒点④外面：口縁部横ナデ。底部無釉。内面：横ナデ	DZ-4-a
15	第65図 PL_34	かく乱	E区	土器湯壺	①7.9②1.9③(7.9)	50%	①普通②褐色③白色微粒子・微細黒点	DZ-51
16	第65図 PL_34	かく乱	E区	土器湯壺	①(7.7)②1.8③(7.8)	30%	①普通②褐色③白色微粒子・微細黒点	DZ-51
17	第65図 PL_34	かく乱	E区	瓦軒丸瓦	径7.6厚さ2.2	瓦当部分 100%	①普通②暗灰色③白色微粒子	
18	第65図 PL_34	かく乱	E区	瓦軒平瓦	①4.5③2.0	瓦当部分20%	①普通②黒色③白色微粒子	
1	第66図 PL_34	かく乱	F区	磁器碗	④(6.3)	底部～底部 30%	②白色③口口成形	JB-1-m. 18世紀末～19世紀前
2	第66図 PL_34	かく乱	F区	磁器碗	①6.1②5.8③3.2	60%	②白色③口口成形	JC-1. 近代
3	第66図 PL_34	かく乱	F区	磁器皿	①10.3②2.6③6.0	完形	②白色	JC-1. 近代
4	第66図 PL_34	かく乱	F区	陶器鍋	①(13.4)②5.3③(6.2)	40%	②白色③口口成形。内外面：鉄釉。外面：底部下位に足1箇所残存	TZ-33-a. 18世紀後～19世紀前。外面底部薄くスス付着
5	第66図 PL_34	かく乱	F区	瓦破瓦	④6.5	破片	①断面サンドイッチ状②褐色③白色・黒色微粒子	
6	第66図 PL_34	かく乱	F区	石製品 磁石	②5.7③1.6	破片		
7	第66図 PL_34	かく乱	F区	石製品 磁石	②4.8③3.5	破片		
1	第66図 PL_34		A区	銅 寛永通寶	径2.2	完形		
2	第66図 PL_34		F区	銅製品 煙管(煙管)	①5.7②1.1	完形		

第7表-1 出土遺物集計表(近世)

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

第7表-2 出土遺物集計表(時期不明)126

[illegible]

工 作 项 目	单 位	工 作 量
1. 工程名称		3
2. 工程内容		1
3. 工程名称		140
4. 工程内容		7
5. 工程名称		11
6. 工程内容		1
7. 工程名称		59
8. 工程内容		213
9. 工程名称		1
10. 工程内容		6
11. 工程名称		1
12. 工程内容		1
13. 工程名称		1
14. 工程内容		1
15. 工程名称		1
16. 工程内容		1
17. 工程名称		1
18. 工程内容		1
19. 工程名称		1
20. 工程内容		1
21. 工程名称		1
22. 工程内容		1
23. 工程名称		1
24. 工程内容		1
25. 工程名称		1
26. 工程内容		1
27. 工程名称		1
28. 工程内容		1
29. 工程名称		1
30. 工程内容		1
31. 工程名称		1
32. 工程内容		1
33. 工程名称		1
34. 工程内容		1
35. 工程名称		1
36. 工程内容		1
37. 工程名称		1
38. 工程内容		1
39. 工程名称		1
40. 工程内容		1
41. 工程名称		1
42. 工程内容		1
43. 工程名称		1
44. 工程内容		1
45. 工程名称		1
46. 工程内容		1
47. 工程名称		1
48. 工程内容		1
49. 工程名称		1
50. 工程内容		1
51. 工程名称		1
52. 工程内容		1
53. 工程名称		1
54. 工程内容		1
55. 工程名称		1
56. 工程内容		1
57. 工程名称		1
58. 工程内容		1
59. 工程名称		1
60. 工程内容		1
61. 工程名称		1
62. 工程内容		1
63. 工程名称		1
64. 工程内容		1
65. 工程名称		1
66. 工程内容		1
67. 工程名称		1
68. 工程内容		1
69. 工程名称		1
70. 工程内容		1
71. 工程名称		1
72. 工程内容		1
73. 工程名称		1
74. 工程内容		1
75. 工程名称		1
76. 工程内容		1
77. 工程名称		1
78. 工程内容		1
79. 工程名称		1
80. 工程内容		1
81. 工程名称		1
82. 工程内容		1
83. 工程名称		1
84. 工程内容		1
85. 工程名称		1
86. 工程内容		1
87. 工程名称		1
88. 工程内容		1
89. 工程名称		1
90. 工程内容		1
91. 工程名称		1
92. 工程内容		1
93. 工程名称		1
94. 工程内容		1
95. 工程名称		1
96. 工程内容		1
97. 工程名称		1
98. 工程内容		1
99. 工程名称		1
100. 工程内容		1

第7表-5 出土遺物集計表(近代)

[illegible]

付編 高崎城三ノ丸地区小調査について

第1節 調査に至る経緯

平成22年、高松町地内で携帯電話鉄塔の建設計画があり、平成22年4月12日、事業者から高崎市教育委員会（以下、市教委）に文化財保護法第93条の届出および確認調査の申込みがあった。これを受け、市教委は同年5月31日に確認調査を実施し、遺物の出土と共に遺構の疑いのある土層を確認した。この結果を受け、事業者と市教委が協議を行ったが、建設工事による埋蔵文化財の影響は不可避とのことであった。そのため同年8月30日、31日の2日間、工事掘削開始より立会いを行い、遺跡の記録保存を行った。



(S=1/2500 高崎市都市計画基本図をS=1/1000に加工して使用)

第67図 三ノ丸地区小調査調査区位置図

第2節 検出された遺構・遺物

調査区は鉄塔建設予定範囲の4m×4mの範囲で設定した。層位ごとに面的な遺構確認を試み、最後に東側にサブトレンチを設けて土層の確認を行った。

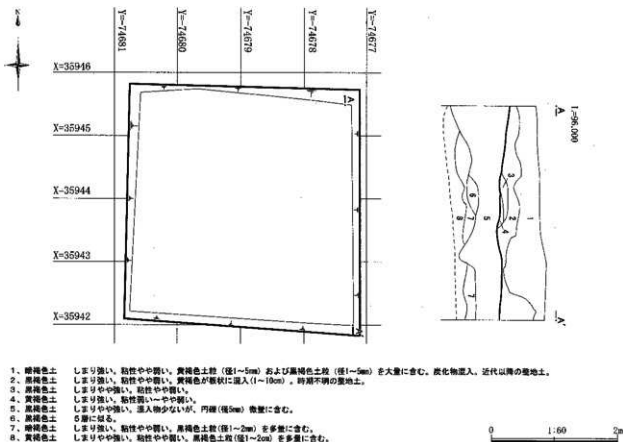
土層断面観察の結果、2～4層は一体の層位と考えた。黒褐色土とおそらく基盤層と考えられる黄褐色土とが混ざった土である。その下層に黒褐色～暗褐色土の比較的混入物の少ない層位（5～7層）があり、さらに下層に黄褐色土と黒褐色土が混ざった層位がある（8層）。調査区が狭小なためこれより深い掘削は不可能であり、基盤層の検出までは至らなかった。堆積状況は断面図を見ると北から南へ傾斜している指向にあるが、調査時の所見では顕著なレベル差は認めていない。

試掘時や本調査開始時では黄褐色土が広がる面（2～4層上面）にて遺構確認を試み、2層中の黒褐色土を遺構と誤認した。しかしこれらは明確な堀り込みにはならず、サブトレンチにて土層を断面で確認した結果、2～4層および8層は盛土であると判断した。遺構と誤認したものは盛土中のブロックであると考える。

出土遺物は2層以下で古代～中世の土器が出土しており、近現代の遺物は1層でのみの出土である。

第3節 まとめ

本調査区は高崎城の縄張復元図から三ノ丸土塁にあたる所想定される場所であり、南側現況道路部分がその堀に当たる。今回検出した盛土状の土層が土塁に相当するかは判断できなかったが、現地表面より1.5mの深さでも基盤層が検出できなかったことから、本調査地点は三ノ丸内部より低い場所であったことが推定できる。高崎城の堀を埋めた記録は19世紀末に陸軍が兵営を築く際に土塁を破壊して埋めた例がある。しかしこの場所は陸軍により埋められなかった三ノ丸堀跡地であり、盛土状土層に近世遺物を含まないことから、19世紀末の埋没は可能性が薄いだらう。今回検出した土層の埋没時期は想定できないが、上記の事から高崎城廃城以前の整地土と考えたい。



第68図 三ノ丸地区小調査調査区平面図および断面図



1



2

第69図 三の丸地区小調査出土遺物

0 1:3 10cm

第8表 三の丸地区小調査遺物観察表

番号	遺構	種類	法量	①焼成②色調 ③胎土④石材	成・整形技法の特徴 (器形・文様の特徴)	残存状態	備考	
第69図-1	一括	須恵器 高台付焼	口縁 器高 底径	- - -	①硬質②灰黄褐色 〜灰褐色③白・黒 色粒	ロクロ成形。 外面 底部回転糸切後高台貼付。	1/3	内面底部に重ね焼 きによる焼き斑？ 有。
第69図-2	一括	土器 鉢	口縁 器高 底径	- - -	①軟質②灰白色③ 黒色粗粒	ロクロ成形後ヘラ削り	破片	内面に轡目有。 描目？。



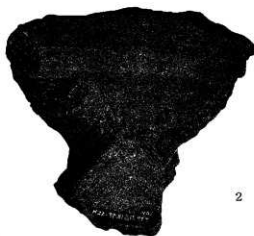
写真1 調査区全景 (2〜4層上面：北から)



写真2 調査区東壁断面 (北西から)



1



2

写真3 遺物写真